

科目名	科目担当代表教員	ページ数
総合教養講座	白戸 力弥	4
日本国憲法	池田 杏奈	13
生涯スポーツⅠ	小川 満	22
生涯スポーツⅠ	小川 満	31
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	40
情報処理	松岡 審爾	49
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	58
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	65
統計の基礎	武田 裕康	72
EnglishⅠ(Speaking & Listening)	Todd Robert Enslen	81
EnglishⅡ(Reading & Writing)	Walzem Allen George	90
ことばと心理(外国語学習法入門)	釣 晴彦	99
English for Study abroad	Walzem Allen George	108
グローバルチャレンジ(海外留学・ボランティア対策)	石丸 卓	117
中国語入門Ⅰ	巫 靚	126
中国語入門Ⅱ	巫 靚	135
中国語入門Ⅱ	巫 靚	144
日本語Ⅰ	阿部 仁美	153
日本語Ⅱ	今井 史子	162
日本語Ⅲ	今井 史子	171
アカデミックジャパニーズⅠ	阿部 仁美	180
アカデミックジャパニーズⅡ	今井 史子	189
アカデミックジャパニーズⅢ	今井 史子	198
総合中国語Ⅰ	巫 靚	207
総合中国語Ⅱ	巫 靚	216
中国語コミュニケーション	胡 慧君	225
中国語リスニング	胡 耀光	234
総合中国語Ⅲ	云 肖梅	243
総合中国語Ⅳ	胡 慧君	252
朝鮮語Ⅰ	崔 鉉鎭	261
朝鮮語Ⅱ	朴 權浩	270
フランス語Ⅰ	Nicolas Jegonday	279
フランス語Ⅱ	Nicolas Jegonday	288
ロシア語Ⅰ	鈴木 理奈	297
ロシア語Ⅱ	鈴木 理奈	306
世界と北海道	小山田 健	315
ニセコ国際研修	青 晴海	324
アウトドア・ツーリズム研修	小山田 健	333
北海道の食文化	藤井 駿吾	342
北海道の社会と文化(多文化共生)	小山田 健	351
地域連携プロジェクト	小山田 健	360

Academic English Writing	Walzem Allen George	369
Academic English Writing	釣 晴彦	378
Academic English Writing II	Walzem Allen George	387
Academic English Writing II	Joseph S Tomasine	396
Academic English Reading	Joseph S Tomasine	405
Academic English Reading	Joseph S Tomasine	414
Integrated Academic English I	Walzem Allen George	423
Integrated Academic English II	釣 晴彦	432
国際関係論	渡部 淳	441
経済と社会	南川 高範	450
国際教養入門	宮本 融	459
日本政治経済論	宮本 融	468
国内外事情	青 晴海	477
国際的視野から見るスポーツ医学の発展	當瀬 規嗣	484
国際社会と医療	大森 圭	491
開発援助論	石丸 卓	498
国際経済学	中山 大将	507
比較政治学	宮本 融	516
国際社会学	石丸 卓	525
地球環境論	宮本 融	534
国際政治経済学	渡部 淳	543
国際機構と国際法	片岡 徹	552
国際貿易投資論	宮本 融	561
地方自治論	宮本 融	570
メディア社会論	魯 諍	579
国際関係研究	渡部 淳	588
国際地域文化論	渡部 淳	597
東アジア地域論	巫 靚	606
東南アジア地域論	石丸 卓	615
アフリカ地域論	吉田 勉幸	624
ヨーロッパ地域論	渡部 淳	633
北米地域論	Walzem Allen George	642
中国研究	魯 諍	651
アメリカ研究	Walzem Allen George	660
イギリス研究	渡部 淳	669
中南米研究	石丸 卓	678
EU研究	渡部 淳	687
キャリア入門	小山田 健	696
キャリアデザイン	小山田 健	705
経営マネジメント	芝 香	714
マーケティング論	芝 香	723
インターンシップ	小山田 健	732

ファイナンシャルプランニング	小西 正人		741
公務員講座Ⅰ	高橋 保夫		750
公務員講座Ⅱ	高橋 保夫		759
日本語表現技法Ⅰ（プレゼンテーション）	松本 文治		768
世界の言語と日本語	小西 正人		777
日本語表現技法Ⅱ（文章表現）	松本 文治		786
日本語の表記と語彙	小西 正人		795
日本語コミュニケーション技法	小西 正人		804
日本語学	小西 正人		813
日本語と日本文化	岡本 佐智子		822
日本語ビジネスライティング	佐々木 雅哉		831
現代日本語論	岡本 佐智子		840
日本語教育法Ⅰ	岡本 佐智子		849
日本語教育法Ⅱ	伊藤 寛		858
日本語教育演習	阿部 仁美		867
短期語学研修	青 晴海		876
卒業研究プロジェクトⅠ	青 晴海		885
卒業研究プロジェクトⅠ	石丸 卓		899
卒業研究プロジェクトⅠ	渡部 淳		913
卒業研究プロジェクトⅠ	釣 晴彦		927
卒業研究プロジェクトⅠ	宮本 融		941
卒業研究プロジェクトⅠ	巫 靚		955
卒業研究プロジェクトⅠ	Walzem Allen George		969
卒業研究プロジェクトⅡ	青 晴海		983
卒業研究プロジェクトⅡ	石丸 卓		997
卒業研究プロジェクトⅡ	渡部 淳		1011
卒業研究プロジェクトⅡ	釣 晴彦		1025
卒業研究プロジェクトⅡ	宮本 融		1039
卒業研究プロジェクトⅡ	巫 靚		1053
卒業研究プロジェクトⅡ	Walzem Allen George		1067

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。 国際教養学科のディプロマ・ポリシー（DP）の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。							
授業の概要							
この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。							
到達目標							

- 本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
- 4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
- 大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- Google Classroomの利用ができること。
- 図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- 充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- 大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学友会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		
第11回	本学のカーボンニュートラルの取り組みの紹介 カーボンニュートラル推進センター	本学のカーボンニュートラルの取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	自ら実践できるカーボンニュートラルの取り組みを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第13回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師：青木さやかさん	ゲスト講師のこれまでの活動について、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	UHB北海道文化放送制作のドキュメンタリー映画『無理しないケガしない明日も仕事！新根室プロレス物語』の上映	上映映画について予習をする。(90分)	上映映画について復習をする。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修 えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出および授業参加の積極性から総合的に判断する。
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップにおいて、「人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」に位置づけられる。国際教養学科のディプロマ・ポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。また、国際教養コミュニケーション学科の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と主に関連する。さらに、看護学科のディプロマ・ポリシーの「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と関連する科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。さらに、地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」と関連する。							
授業の概要							
民主主義(国民主義)と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の本質と構造を(明治憲法との比較を含め)大枠で理解するよう努める。							
到達目標							

1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。
2. 様々な基本的人権について概要を述べるができる。
3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。

授業の方法

パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。
各講義中に毎回コメント(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。
確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う(全15回)。

ICT活用

Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」 「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」「Theme17 民の声 vox Dei? ——国会(2)」「Theme18 首相の選び方——内閣」「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交? ——天皇」「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を! ——地方自治」「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業後に提出するコメントやレポート等により評価する。
その他	0	なし。
教科書		
いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣		
参考文献		

講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I [2-1]				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小川 満						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボール基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニス基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I [2-2]				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小川 満						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボール基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニス基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目に変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツⅡ				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。 (20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)一個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる。 (25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		情報処理				ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係があり、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」とも関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。

到達目標

1. ワードソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なうことにより情報のアウトプットができる。
2. 表計算ソフトExcelを用いて基本的な計算や関数の使用、グラフ作成、データベースの操作を行うことができる。
3. ウェブサイトからデータを取得し、Excelを用いて情報の加工や分析ができる。
4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。
5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。

授業の方法

Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトの操作を理解するために、教科書会社が提供するeラーニングシステム(NESS)により各自が主体的に確認テスト問題を行う(第3回～第11回、第13回、第14回)。

ICT活用

教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステム(NESS)を用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。また、教科書会社が提供するOffice2021のリファレンス動画サイトを用いて基本的な操作の自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステム(NESS)により確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として、起動、画面構成、リボンを概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。また、文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウイルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。コンピュータウイルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson2)。	シラバスを読み、教科書のp30～p47, p250～p257を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。また、タッチタイピングの練習を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として文字の修正・範囲指定・変換、文字の変更、文字の移動・複写方法を習得する(§2-STEP1のLesson3)。 【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術としてのcookie, パスワードの管理を習得する。また、不正アクセス法について学ぶ。ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺対策の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書のp47下～p59, p258～p267を読んでおく。不正アクセス禁止法について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点(§5-STEP2のLesson2)および個人情報の漏洩対策を学ぶ(§5-STEP2のLesson3)。	教科書のp60～p67上半分, p271～p275を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。	教科書のp67下半分～p75上半分を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)	教科書のp75下半分～p90を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp80練習7を行う。NESSの § 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)。 【情報の分析評価】《Excel》表計算ソフトの概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§ 3-STEP1のLesson1)	教科書のp91～p97, p100～p106を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp98練習8を行う。NESSの § 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(文字・表示形式、罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§ 3-STEP2のLesson1)。	教科書のp107～p121を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp122練習9を行う。NESSの§ 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§ 3-STEP2のLesson2)。数式の入力方法・コピー、合計の計算を習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。§ 2Word-Section2の試験(20問)を実施する。	教科書のp123～p138を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp137練習12を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法、数学／三角関数を習得する。また、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。	教科書のp139～p152を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp152練習16を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第10回	【情報の分析評価】《Excel》あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する(教科書にはない)。グラフの要素、縦棒グラフおよび円グラフの作成法、レーダーチャートの作成、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§ 3-STEP3のLesson1,2)。	教科書のp153～p176を読んでおく。VLOOKUP関数について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの § 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第11回	【データの分析演習】《Excel》ウェブサイトからデータを取得する方法を学ぶ。また、そこで得られたデータを加工しデータを分析する方法を学ぶ。(教科書にはない)。 【データベース】《Excel》データベース機能を理解し、基本的な操作である並べ替え、オートフィルターによる抽出と並べ替えを修得する。(教科書にはない)。	データベースについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【データベース】《Excel》データベース機能における数値フィルター、テキストフィルター、トップテン機能を修得する。 【ピボットテーブル】《Excel》データベースから集計表を作成できるピボットテーブルを修得する。 § 3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を実施する。	データベース、ピボットテーブルについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			

第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。	教科書のp178, p181, p186～p210を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。	教科書のp211～p234を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を実施する。	教科書のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。
その他	0	なし
教科書		
イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルMicrosoft365・Office2021対応／ア出版		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。やむを得ずネット通販で購入の場合は必ず新品を購入してください。メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	
配当年度	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。

授業の概要

ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。

到達目標

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。
 数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。
 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。

授業の方法

パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI ((Artificial Intelligence: 人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの特徴を表す方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数の関係を調べるための方法として、散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。【AIの手法1: 教師あり機械学習(回帰)】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 :教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスティング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスティングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 :ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教師なし機械学習のクラスティング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI利活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 (ゲスト講師:山本光喜EZOAI代表)	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI (Ethical: 倫理的、Legal: 法的、Social Issues: 社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を疎外するバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題 (AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。

授業の概要

表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。

到達目標

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
 データを分析できる形に整えることができる。
 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
 データの特徴を説明することができる。
 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。 【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。 【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。また、k-means法によるクラスターリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスターリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						

授業の位置づけ

教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。

授業の概要

主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。

到達目標

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでもおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでもおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでもおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
特になし
備考欄
特になし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English I (Speaking & Listening)				ナンバリング	1211
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけるための科目であり、またグローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。1年次後期の「English II (Reading & Writing)」との相互補完的科目であり、また他の英語科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、日常の基本的な場面における英語での口頭による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、日常場面に即したさまざまなトピックのコミュニケーション活動を提供し、教員と学生の間だけではなく学生同士でのインタラクションを通して、自信をもって英語でのやり取りができるようになることを目標とする。

到達目標

Speaking and listening are important skills in learning English as a second language. Students will develop speaking and listening ability which will prepare them for courses like Basic Oral Communication, English for Study Abroad and English for Tourism Hospitality. Through this course, the students will be able to take part in English conversations and discussions with both native and non-native speakers of English. Extensive speaking training will enhance speaking, listening and vocabulary. They will gain confidence in their speaking ability.

授業の方法

There will be activities in class for students to use vocabulary, expressions, grammar and pronunciation from the lessons. It will enhance listening and speaking skills. This will be an active learning class.

ICT活用

This course comes with resources on the English Portal and the Practice English App. Students must access both to extend their learning.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, pronunciation, grammar, conversation and listening.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduction to the course. Activity to get to know each other.	Familiarize yourself with the textbook. Read page iv to ix. (90 minutes)	Review the Welcome Unit (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1, How's it going? Introduce yourself and others Talk about things in an office	Read Unit 1, and prepare to introduce yourself. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第3回	Unit 2, Who are they? Talk about friends and family Talk about where people live and work	Read Unit 2, and prepare to talk about friends and family. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			

第4回	Unit 3, What a beautiful home! Talk about things in the home	Read Lesson 1 of Unit 3, and prepare to describe your home. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第5回	Unit 3, What a beautiful home! Lesson 2, Describe your neighborhood	Read Lesson 2 of Unit 3, and prepare to describe your neighborhood. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第6回	Unit 4 Where are you now? Lesson 1, Ask about an event	Read Unit 4, and prepare to talk about an event. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			

第7回	Unit 4, Where are you now? Lesson 2, Make plans with someone	Read Unit 4, and prepare to make plans with someone. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第8回	Unit 5, Do I need an umbrella? Ask about prices Talk about weather	Read Unit 5, Prepare to ask about prices and talk about weather. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第9回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 1, Talk about music	Read Unit 6, Lesson 1, Prepare to talk about music. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			

第10回	Unit 6, What do you like to do? Lesson 2, Talk about free-time activities	Read Unit 6, Lesson 2, Prepare to talk about free-time activities. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第11回	Unit 7, Are you ready to order? Talk about food Order in a restaurant	Read Unit 7, Prepare to talk about food. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第12回	Unit 8, Do you have a reservation? Talk about future plans Discuss goals	Read Unit 8, Prepare to answer questions about future plans. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			

第13回	Unit 9, Is everything OK? Talk about what you are doing Talk about daily activities	Read Unit 9, Prepare to talk about daily activities. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第14回	Unit 10, How was your weekend? Describe your weekend Talk about a past vacation	Read Unit 10, Prepare to talk about your weekend and past vacation. Review the previous chapters in preparation for the test. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review the final test and wrap-up of the course test.	Check your answers from the quiz by reviewing each section in the textbook. (90 minutes)	After Class: Students should do a self-evaluation of how well they have learned the material covered in class. (90minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	There will be no end of term exam.
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	30% Assignments (課題); 30% Discussion (ディスカッション), 20%; Tests (テスト), 20% Participation in Class Discussions
その他	0	該当なし
教科書		
StartUp - Book 1 / 2019 / Sharon Goldstein, Kimberly Russell, Daria Ruzicka, Jenni Currie Santamaria, and Kathleen Thompson / Pearson		
参考文献		

None
履修条件・留意事項等
This class will be conducted entirely in English.
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English II (Reading & Writing)				ナンバリング	1212
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本授業は、ディプロマポリシーの 学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身に付けている(知識・技能)、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けてはっしんできる国際感覚を身に付けている(関心・意欲・態度)と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、基礎的な英文テキストにおける読解能力の育成、および英文ライティングの基礎の習得を目的とする。読解においては、さまざまなジャンルの英文テキストを通して構文把握能力と基本的な読解方略の習得を目指す。そしてライティングにおいては、自身が意図した意味の文の生成をすること、そして文と文のつながり(結束性)を意識して複数の文をつなげ、まとめ(首尾一貫性)のある文章を作ることができ、最終的にパラグラフライティングの基礎を習得することを目標とする。

到達目標

The aim of this course is to improve students' reading comprehension skills in basic English texts and to acquire the basics of English writing in an English-only class environment. In addition, students will improve their critical thinking and editing skills.

授業の方法

Text analysis, vocabulary building, group discussions, sentence writing activities, and peer editing will be the main components of this course

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

実務経験のある教員の教育内容

The teacher has extensive teaching experience and training, including an MA in English Education.

課題に対するフィードバックの方法

There will be regular oral feedback during class time. In addition, answers to vocabulary tests will be given after the tests have been completed and individual and class feedback will be provided on the midterm writing assignment.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and notedown any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Discuss the themes of population and cell phone usage. Focus on the “A Day on Planet Earth” reading and completing the writing assignment associated with the reading.	Read pages 2 to 7 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第3回	Practice the skimming for gist skill and then complete activities to prepare for the “A Day in a Life” reading. Begin practicing your writing skills by producing sentences using the simple present tense.	Read pages 8 to 15 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第4回	Explore the writing process by thinking about brainstorming, planning, drafting, and revising. Consolidate these skills with writing tasks linked to drafting and revising.	Read pages 15 to 20 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第5回	Discuss the theme of global literacy and focus on key vocabulary related to this theme. Read through and test your understanding of the "The World's Oldest First Grader" reading and practice making inferences from the content.	Read pages 21 to 27 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第6回	Build vocabulary and practice the reading skill of understanding main ideas, and then apply that skill to the "Global Education" reading along with the skills of understanding the gist and inferring.	Read pages 28 to 34 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第7回	Continue developing the ability to go through the writing process of brainstorming, planning, drafting, and revising by focusing on a more challenging, technical topic.	Read pages 35 to 40 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第8回	Review of the first half of the course, midterm test, and midterm writing assignment.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course.90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge, and work on addressing them.
担当教員			
第9回	Discuss the theme of family history and study the related key vocabulary. Go through the “The Story of Us” and “From Africa to Astoria” readings and test your understanding and of the texts through comprehension and critical thinking writing activities.	Read pages 41 to 47 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第10回	Practice looking up difficult words and paying attention to context to find the right meaning. Apply this skill to the reading “Our Family Journey” and discuss in your groups your thoughts about the text.	Read pages 48 and 54 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第11回	Continue to develop key writing skills by focusing on how to write factual and speculative statements related to the theme of family members. Practice using peer evaluation to further revise and edit your work.	Read pages 55 and 60 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第12回	Explore the theme of recycling and making money from stuff people throw away. Go through the reading “Garbage Island” and try to come up with solutions for some of the problems raised in the text. In addition, practice finding supporting ideas in the reading.	Read pages 62 and 69 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第13回	Study the “Art of Recycling” reading and test your understanding with activities related to the skills of understanding the gist, scanning for key details, and identifying supporting ideas. Practice writing with a focus on giving advice and making suggestions.	Read pages 70 and 75 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第14回	Continue the writing practice with a focus on modals like should and could and the skill of using details to clarify ideas. Go through the “Toaster Project” reading and test your understanding by practicing the skill of scanning and identifying key details.	Read pages 76 and 80 and pages 84 to 87 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第15回	Review of the course, final test, and final writing assignment.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course.90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm and final exams 40 Attendance and participation 30 writing assignments and other classwork 30
その他	0	
教科書		
Pathways 1A, Reading, Writing, and Critical Thinking by Mari Vargo and Laurie Blass. Publisher: National Geographic Learning. 2020		
参考文献		

It may be useful to have a dictionary.

履修条件・留意事項等

Please bring textbook, paper, writing utensil, and dictionary to every class.

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ことばと心理(外国語学習法入門)				ナンバリング	1200
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						

授業の位置づけ

この講義は、ディプロマポリシーの「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。また、理論に基づいた外国語学習法を身につけることで、大学での外国語学習計画を設定することを目的とした科目で、英語の専門科目や中国語科目、その他の外国語科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、外国語学習を本格的に始めるにあたり、認知心理学の視点から、効果的な外国語学習法を第二言語習得論の知見を通して学ぶことを目的とする。学生たちは高校までの英語学習を振り返り、本講義で学んだことを通して、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能についてどのように学習に取り組んでいくかを考え、大学での外国語学習の目標を設定することを最終目標とする。

到達目標

・第二言語習得論の知見をもとに、語彙学習や文法、そしてリスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能の効果的な学習法を考えることができる。

・講義を通して学習した内容をもとに、大学での外国語学習計画を設定することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用してアクティブラーニング形式で進める。これまでの英語学習の方法を振り返り、自分の不十分であった部分を考える。その上で理論に基づいた外国語学習方法を学んでいき、合計12回の授業後のレポートを通して、理解を深める。そして、最後にまとめとして、4年間の外国語学習計画を立てて、それについてのプレゼンテーションを行う。

ICT活用

WebアプリのPear Deckを用いて意見を出してもらいながら授業を進めていく。

実務経験のある教員の教育内容

小学校・中学校・高等学校・大学と40年以上現場で様々な実践教育を行ってきたことを取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	”オリエンテーション ・高校までの英語学習を評価し、改善が必要な点を考える。	シラバスを読み、教科書を準備する。(90分)	講義の復習をし、次回の授業の準備を行う。(90分)
担当教員	釣 晴彦		
第2回	”「第二言語習得」から英語の学び方を考える。 ・世間一般で言われている英語(外国語)学習についての通説について、「第二言語習得理論」の観点から正しいか考える。”	教科書の第1章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第3回	”「第二言語」として目指す英語力とは？ ・英語が世界の共通語として地位を確立している時代に、どのように英語に向き合っていけばいいのか考える。”	教科書の第2章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	“英語を学ぶモチベーションのメカニズム ・英語を学ぶモチベーションはどのように生まれ、どうすれば長期間に渡って維持できるのか考える。”	教科書の第3章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第5回	“英語学習のプリンシプル ・全ての英語(外国語)の学びの基盤となる「6つのプリンシプル(原則)」について学ぶ。”	教科書の第4章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第6回	“効果的なボキャブラリーの学び方について考える。 ・覚えるべき語彙の目安や効果的な語彙の学習方法を学ぶ。”	教科書の第5章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	”効果的な文法の学び方について考える。 ・なぜ英文法を学ぶ必要があるのか、まだどのように学習すれば使える英文法を身につけることができるのかを学ぶ。”	教科書の第6章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	”効果的なリスニングの学び方について考える。 ・インプットが頭の中でどのように処理されるか学ぶ。 ・リスニングの効果的な学習方法を学ぶ。”	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第9回	”効果的なリーディングの学び方について考える。 ・学習者のリーディングのプロセスについて学び、効果的な学習方法を考える。”	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第10回	”効果的なスピーキングの学び方について考える。 ・スピーキングがなぜ困難なのか考え、効果的な学習方法について学ぶ。”	教科書の第8章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	”効果的なライティングの学び方について考える。 ・ライティング力の重要性について学ぶ。 ・効果的なライティングの学習方法について学ぶ。”	教科書の第9章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	”効果的な海外留学について考える。 ・英語(外国語)の4技能の能力が伸び、かつ学習者の満足・充実度が高くなる留学はどのようなものか学ぶ。”	事前にどのような留学形態があるか調べ、留学をすることでどのような効果があるかを考えてくる。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第13回	”スマホアプリやオンライン教材を用いた効果的な外国語学習について考える。 ・外国語学習に用いることができる、スマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるが学ぶ。 ・アプリやオンライン教材をどのように用いると効果的かを考える。”	外国語学習に用いることができるスマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるか事前に調べておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。また、次の授業でのプレゼンテーションの準備を行う。(90分)
担当教員			
第14回	”自分の大学での外国語学習計画についてのプレゼンテーションを行う。 ・1週目から13週目までの学習を基に今後の大学で外国語をどのように学ぶのかについてのプレゼンテーションを行う。”	自分のプレゼンテーションのスライドや発表原稿を準備し、確認を行う。(90分)	他の学生の発表と自分の計画を照らし合わせ、足りない部分をまとめ、自分の計画の見直しを行う。(90分)
担当教員			
第15回	”講義の振り返り ・1週目から14週目の内容を振り返る。”	これまでの講義内容を振り返る。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	”授業後の小レポート課題 60% (5×12) プレゼンテーション 40%”
その他	0	なし
教科書		
「英語の学び方」入門 新多丁著 研究社, 2019		
参考文献		

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

講義には積極的に参加すること。また、課題の提出期限は厳守すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English for Study abroad				ナンバリング	1214
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目は学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目で、「関心・意欲・態度」と関連する。

授業の概要

この授業は、語学研修の参加に必要な英語のスキルと同時に空港での手続や現地での生活といったプログラムの参加に必要な関連知識を身に付けることを目的とする。授業では、出発前から帰国までの場面別に遭遇する出来事に関連するトピックでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のうち、複数の技能を統合した言語活動を通して、どの技能もバランスよく習得し、語学研修に必要な英語能力を身に付けることを目標とする。

到達目標

To prepare for various situations in language training, students will be able to hone the four skills of speaking, listening, reading, and writing. 1. They will improve their ability to express their thoughts and opinions in idiomatic English. 2. They will improve their ability to understand English as spoken by native speakers at a normal pace. 3. They will improve their skill at reading reading English texts. 4. They will improve their ability to write clear, grammatical English.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Check the LMS, read the syllabus and prepare questions. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will learn how to describe your university major, talk about your club activities as well as express what you like to do in your free-time.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will learn how to express and understand geographical location, talk about climate as well as explain your travel schedule.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, we will learn how to talk about travel experience, understand and fill out arrival cards as well as how to understand instructions and advice.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, we will learn how to express and understand the location of things, discuss house rules as well as understand how to use your room.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will learn how to explain and understand explanations, using "if" sentences to talk about your schedule, as well as how to ask about meaning.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, we will learn how to talk about self study activities, discuss directions and express location.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, we will learn how to discuss what you want to do, express basic necessities as well as how to express and understand expressions of obligation.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will learn how to make requests, ask permissions to do things as well as how to offer help in the home.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, we will learn how to describe food and drink, ask for and offer food as well as how to give your impression of food.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, we will learn how to shop for clothes, compare shopping items as well as talk about size of items you want to buy.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will learn how to talk about an incident, including how to provide details about the incident as well as describe lost property.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, we will learn how to talk about your hometown, explain what you can as well as talk about places of interest located there.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will learn how to understand, explain and react to the content of notices and messages.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review and In-class Test During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes: 50 In-class test: 50
その他	0	Not applicable.
教科書		
READY FOR TAKEOFF! English for Study Abroad, Alan Jackson & Hiroko Uchida, Kinseido		
参考文献		

Will be handed out in class
履修条件・留意事項等
Not applicable
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		グローバルチャレンジ(海外留学・ボランティア対策)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

グローバル社会のリーダーとなるべき人材の育成。世界情勢、課題への取り組みを理解するとともに、参加へのモチベーションを高める。海外留学、海外インターン、海外ボランティアなど海外体験の多様な選択枝の中で活躍する学生数の増加を図る。そのような経験をする中で、異文化コミュニケーションは重要な役割を占めており、さまざまな誤解、軋轢、すれ違いの種が潜んでいる。本講義では、海外志向の学生に対して、国籍、民族、地域、言語、宗教、世代、立場、職業、ジェンダーなどの属性で差異がある人々の間で発生する異文化コミュニケーションへの対応を理解することを目的としている。「国内外の政治・経済事情を学ぶことで、世界情勢を客観的に理解・分析できる能力を育成するための科目である。具体的には①各専門分野の学習に必要な基礎学力(知識・技能)、②自分の考えをわかりやすく説明できる能力(思考・判断・表現)、③課題解決に必要な思考力の基礎(思考・判断・表現)を育成する。ディプロマ・ポリシーとの関係では、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(思考・判断・表現)」に最も深く関連し、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し、分析することのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)」の項目の基礎を形成するものである。」

授業の概要

本講義は3部構成となっている。第一部は異文化理解の解像度を上げる講義、第二部は21世紀型のグローバル化の実情について、第三部は留学計画の作成、という3部で講義を行うことで、海外への関心を高める。

到達目標

①一つのケースを自分自身に起こった問題であるように捉え、分析し、自分なりの解釈をだし、それを他者に伝えるという過程を減ることで、事故の価値観や考え方の癖を築くことができる。
 ②異文化コミュニケーターに近づくことができる。
 ③より良い自分自身の留学計画を実行することができる。

授業の方法

異文化コミュニケーションの各事例について、学生間のディスカッションを行った後にクラス全体でのディスカッションを行い、最後に教員による包括的な解説を行う。

ICT活用

授業中でも情報検索させるなどの方法でICT活用の要素を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

JICAでの国際協力の現場で活動した教員が指導する

課題に対するフィードバックの方法

講義時間中に質疑応答の時間を設けるとともに、レポートへのコメントでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション	自身の海外への関心内容について整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第2回	現代社会と異文化コミュニケーション	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第3回	異文化理解(国籍・民族)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第4回	異文化理解(職業・ジェンダー)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第5回	異文化理解(言語、宗教)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第6回	21世紀のグローバル化(日本企業のグローバル化)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第7回	21世紀のグローバル化(開発途上国の課題)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第8回	21世紀のグローバル化(先進国の課題)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第9回	異文化コミュニケーターへの道(留学)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第10回	異文化コミュニケーターへの道(海外赴任、国際交渉)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第11回	異文化コミュニケーターへの道(海外インターン、海外ボランティア)	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第12回	留学計画作成のポイント	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第13回	留学計画を作る1(トビタテ留学JAPANのフォームをベースとして留学計画の概要をまとめる)	留学計画作成(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第14回	留学計画を作る2(留学計画を具体化するための情報をまとめる)	留学計画作成(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第15回	留学計画を作る3(留学計画を完成させる)	留学計画作成(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	提起試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題への取り組み、参加度、出席頻度をもとに評価する
その他	0	
教科書		
参考文献		

留学ジャーナル(留学ジャーナル編集部)を参考とする

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅰ				ナンバリング	1231
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

本科目はディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」とことと関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、後期の「中国語入門Ⅱ」は、この科目の延長である。

授業の概要

この授業は、中国語修得の中で、外国人が最も苦勞すると言われる中国語の発音をマスターする(ローマ字を見て発音でき、発音を聞いてローマ字に直せるようになる)。これは中国語の基礎をマスターすることに等しい。この授業では、日本人の習慣を考慮した学習法により、効率的に中国語の発音をマスターすることを目指す。また、それと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。

到達目標

1. 中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法ができる。
2. 単語と会話文を正確に発音することができる。
3. 中国語で簡単な自己紹介をすることができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4技能を中心とした総合的な語学能力を育成するために、印刷物の配布や関連動画の視聴など多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。聞き取りテストや単語テストは2回目の授業から毎回行う。なお、受講者の学習状況に合わせて、各回の講義内容を調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業内容の調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、聞き取りや単語テスト後に関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①授業についてのガイダンス、②中国語について紹介、③発音：中国語の音節、声調、軽声、第三声と「不」の変調	学習予定の部分 (pp.2-7) を予習する(90分)。	授業のガイダンスの内容を理解し、中国語についての概要、音声、声調について復習する(90分)。
担当教員	巫 靚		
第2回	①単母音の発音、②複母音の発音、③eの発音の変化をメインに学習する。	学習予定の部分 (pp.8-11) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、耳で聞いて区別できるまで練習する。次回の授業までに発音の録音を提出する(90分)。
担当教員			
第3回	子音の全体像を把握し、子音(1～14)について学習する。特に無気音と有気音について発音練習を行う。	学習予定の部分 (pp.12-15) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、耳で聞いて区別できるまで練習する。次回の授業までに発音の録音を提出する(90分)。
担当教員			

第4回	子音(15～21)を学習し、そり舌音、鼻音を伴う母音、r化の発音練習を行う。	学習予定の部分(pp.16-19)を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、耳で聞いて区別できるまで練習する。次回の授業までに発音の録音を提出する(90分)。
担当教員			
第5回	名前のいい方、たずね方、人称代名詞について学習する。自分自身の名前とクラスメートの名前を中国語で呼ぶ発音練習を行う。	学習予定の部分(pp.20-21)を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、自分の名前のいい方や他人の名前のたずね方をマスターし、練習の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第6回	第5課の本文を学習し、初対面の人との会話に関連する表現を発音練習する。	学習予定の部分(pp.22-25)を予習する(90分)。	第5課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する(90分)。
担当教員			

第7回	動詞“是”と助詞“的”の使い方を学習する。	学習予定の部分 (pp.26-27) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、動詞“是”と助詞“的”の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第8回	第6課の本文を学習し、自己紹介に関連する表現を発音練習する。	学習予定の部分 (pp.28-31) を予習する (90分)。	第6課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第9回	中国語の基本語順SVO、二つ以上の動詞からなる連動文について学習する。	学習予定の部分 (pp.32-33) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、中国語の基本語順と二つ以上の動詞からなる連動文をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員			

第10回	第7課の本文を学習し、自身の行動についての簡単な表現を発音練習する。	学習予定の部分 (pp.34-36) を予習する (90分)。	第7課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第11回	助動詞“想”と動詞“有”の使い方について学習する。	学習予定の部分 (pp.38-39) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、助動詞“想”と動詞“有”の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第12回	第8課の本文を学習し、宿泊に関連する表現を発音練習する。	学習予定の部分 (pp.40-43) を予習する (90分)。	第8課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			

第13回	動詞“在”、前置詞“从”、“往”、方位詞、場所指示代名詞の使い方について学習する。	学習予定の部分 (pp.44-45)を 予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習 し、動詞“在”、前置詞“从”、“往” 、方位詞、場所指示代名詞の 使い方をマスターする。練習の 録音を次回の授業までに提出 する(90分)。
担当教員			
第14回	第9課の本文を学習し、道順に関連する表現を発音練習する。	学習予定の部分 (pp.46-49)を 予習する(90分)。	第9課の本文を何度も発音練習 し、次回の授業までに本文の録 音を提出する。また新出単語を 暗記する(90分)。
担当教員			
第15回	学習した内容を復習し、小テストを受ける。	学習した内容(第1課～第9課) を復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習など授業への参加度 30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『改訂版 しやべっていいとも中国語』陳淑梅・劉光赤著、朝日出版社、2024年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

授業参加度と予習、復習を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅱ<<2022年カリ>>				ナンバリング	1232
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際政治や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える」とことと特に関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、「中国語入門Ⅰ」とリンクしている。

授業の概要

この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。

到達目標

1. 中国語の基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法ができる。
2. 単語と会話文を正確に発音することができる。
3. 日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う基礎的な表現が運用できる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4技能を中心とした総合的な語学能力を育成するために、印刷物の配布や関連動画の視聴など、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次の授業内容の調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、中国語とは？ 予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分 (p.6-10) を予習する(90分)。	オリエンテーションの内容を復習すること(90分)。
担当教員	巫 靚		
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。	学習予定の部分 (p.12-14) を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第3回	発音③ 子音(1)を中心にマスターする。	学習予定の部分 (p.16～18) を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			

第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。	学習予定の部分(p.20～22)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。S+“是”+O、S+“不是”+O。	学習予定部分(p.24～27)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。	学習予定の部分(p.30～33)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			

第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分(p.36～39)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第8回	I、二つ以上の動詞からなる文——連動文 II、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分(p.42～45)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第9回	有”を用いた文型をマスターする。“在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。	学習予定の部分(p.48～51)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			

第10回	I、年月日、曜日の言い方 II、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分(p.54～57)を 予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する(90分)。
担当教員			
第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分(p.60～63)を 予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する(90分)。
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分(p.66～69)を 予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する(90分)。
担当教員			

第13回	I、年齢の言い方と尋ね方 II、前置詞“在”	学習予定の部分 (p.72～75) を 予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する(90分)。
担当教員			
第14回	I、文末助詞の“了” II、動詞の重ね (AA A“一”A “一下”)	学習予定部分 (p.78～81) を予 習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する(90分)。
担当教員			
第15回	小テストおよび授業のまとめ。	学習した部分 (第1課～14課) を 復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習など授業への参加度 30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語——』陳淑梅 張国璐著 朝日出版社		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅱ				ナンバリング	1232
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」とことと関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、前期の中国語入門Ⅰ・Ⅱより、更に高いレベルの語学力を修得するための科目である。

授業の概要

この授業は、「中国語入門Ⅰ」に連動し、引き続き発音の基礎と初歩的文法事項及び表現方法を学び、基礎的な「語法と表現」を使って日常場面でのコミュニケーションができるようにする。同時に発音習得に欠かせない、発音符号とピンインの読み方とその表記、さらに声調を結びつけ、中国語の発音表記について完全にマスターできるようにする。発音を完全にマスターすることで、中国語の基礎を固める。

到達目標

1. ピンインの読み方や表記方法を習得し、正確に発音することができる。
2. 基礎的な日常会話が応用できる。
3. 中国や中国文化に関する理解が深まる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物など多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは2回目の授業から毎回行う(全13回)。毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、授業の内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された音声宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	数のいい方、形容詞が述語になる文について学習する。	学習予定の部分 (pp.50-51) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、数のいい方、形容詞が述語になる文の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	巫 靚		
第2回	第10課の本文を学習し、お店でものを購入する場合の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.52-55) を予習する(90分)。	第10課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する(90分)。
担当教員			
第3回	年月日、曜日のいい方、年齢のいい方について学習する。	学習予定の部分 (pp.56-57) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、年月日、曜日のいい方、年齢のいい方の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			

第4回	第11課の本文を学習し、年齢や誕生日、家族構成に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.58-61) を予習する (90分)。	第11課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第5回	量詞、動詞の重ね型について学習する。	学習予定の部分 (pp.62-63) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、量詞、動詞の重ね型の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第6回	第12課の本文を学習し、レストランで料理の注文に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.64-67) を予習する (90分)。	第12課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			

第7回	時刻のいい方、状態の変化を表す文末の“了”について学習する。	学習予定の部分 (pp.68-69) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、時刻のいい方、状態の変化を表す文末の“了”の使い方をマスターする。練習の録音を次の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第8回	第13課の本文を学習し、試合のチケットを購入する際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.70-73) を予習する (90分)。	第13課の本文を何度も発音練習し、次の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第9回	時間の長さのいい方、動作行為の完了を表す助詞“了”について学習する。	学習予定の部分 (pp.74-75) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、時間の長さのいい方、動作行為の完了を表す助詞“了”の使い方をマスターする。練習の録音を次の授業までに提出する (90分)。
担当教員			

第10回	第14課の本文を学習し、お店でサービスを受ける際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.76-79) を予習する (90分)。	第14課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第11回	動作の対象を表す前置詞“ ” 給、助動詞“可以”、“能”について学習する。	学習予定の部分 (pp.80-81) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、動作の対象を表す前置詞“ 給”、助動詞“可以”、“能”の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第12回	第15課の本文を学習し、ホテルに宿泊する際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.82-85) を予習する (90分)。	第15課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			

第13回	動作行為の進行を表す表現、助動詞“会”について学習する。	学習予定の部分 (pp.86-87) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、動作行為の進行を表す表現、助動詞“会”の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第14回	第16課の本文を学習し、電話に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.88-91) を予習する(90分)。	第16課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する(90分)。
担当教員			
第15回	学習した内容を復習、小テストを受ける。	学習した内容(第10課～第16課)を復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習、課題など)30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『改訂版 しやべっていいとも』陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2024年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語 I				ナンバリング	1251
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅱ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。

授業の概要

この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。

到達目標

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。

- 1) 自分の意見を論理的にまとめることができる。
- 2) まとめたことを読み手がわかるように書くことができる。
- 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。
- 4) クリティカル・リーディングの力を身に付けることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習② 動詞の活用と文型	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習⑤ 可能表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑧ 受身・使役表現	前回の復習をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	ウォーミングアップ、日本語の会話の特徴	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L1 関心を示して自己紹介をする	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2 気持ちを配慮して誘う・誘われる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L3 気持ちを配慮して謝る・謝られる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 わかりやすく伝言を頼む・する	学習内容の説明を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L5 わかりやすく料理の説明をする・求める	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L6 気持ちを配慮して頼む・頼まれる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L7 なごやかに雑談をする	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L8 立場や状況を配慮して目上の人と話す	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L9 意向を配慮してアドバイスをする・求める	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L10 わかりやすく行事の説明をする・求める	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L11 気持ちを配慮して提案し話し合う	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅱ				ナンバリング	1252
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						
授業の位置づけ							
日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。							
到達目標							

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。

- 1) 自分の意見を論理的にまとめることができる。
- 2) まとめたことを読み手がわかるように書くことができる。
- 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。
- 4) クリティカル・リーディングの力を身に付けることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、レベルチェック	初級文法の基礎知識を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習③ 瞬間動詞・継続動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑥ 授受表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L2 文体	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L3 モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L4 正しい構造の文	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L5 文のつながり	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L6 小論文によく使われる表現	学習内容の説明を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L7 段落	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L8 要約文を書く(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L8 要約文を書く(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L10 意見文を書く(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L10 意見文を書く(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L11 事実を示す方法	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L12 小論文のはじめとおわり	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅲ				ナンバリング	1253
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。

授業の概要

この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。

到達目標

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。

- 1) 自分の意見を論理的にまとめることができる。
- 2) まとめたことを読み手がわかるように書くことができる。
- 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。
- 4) クリティカル・リーディングの力を身につけることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストや作文の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習① 助詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習④ 他動詞・自動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑦ 使役	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L1 表記のしかた	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L2 文体	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L3 モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L4 正しい構造の文	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L5 文のつながり	学習内容の説明を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L6 小論文によく使われる表現	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L7 段落	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L8 要約文を書く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L9 説明文を書く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L10 意見文を書く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L11 事実を示す方法(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L11 事実を示す方法(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅠ				ナンバリング	1255
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅡ・Ⅲ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生在が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。
 1) アカデミック・スタイルで、わかりやすくまとまりのある文章を書くことができる。
 2) 自分の文章を見直すための力をつけることができる。
 3) 幅広いテーマとトピックで知識を深め、論理を組み立てる力をつけることができる。
 4) 読解を通して、自分の考えをまとめ話し、他者の考えを聞くことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
 小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	L12 気持ちを共有しながら印象を話す・聞く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L13 具体的に詳しく感想を話す・聞く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L14 気持ちを共有しながら経験を話す・聞く	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L15 相手の意見を尊重して意見を言う	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L1 出会い	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L2 ホテルで	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L3 うわさ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 機械のトラブル	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L5 失敗	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L6 電話をかける	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L7 健康のために	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L8 駅で	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L9 趣味	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L10 抱負	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	プレゼンテーションの基礎	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅡ				ナンバリング	1256
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅲ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生在が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。
 1) アカデミック・スタイルで、わかりやすくまとまりのある文章を書くことができる。
 2) 自分の文章を見直すための力をつけることができる。
 3) 幅広いテーマとトピックで知識を深め、論理を組み立てる力をつけることができる。
 4) 読解を通して、自分の考えをまとめ話し、他者の考えを聞くことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
 小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	L1 アカデミック・ライティングへの準備	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L4 立場を決めて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L4 立場を決めて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L4 課題を見つけて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L4 課題を見つけて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L5 関心のあるニュースを紹介する(前々半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L5 関心のあるニュースを紹介する(前後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L5 関心のあるニュースを紹介する(後前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L5 関心のあるニュースを紹介する(後々半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L6 データに基づいて報告する(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L6 データに基づいて報告する(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L7 学んだことを生かしてレポートを完成させる	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 データに基づいて報告する(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅢ				ナンバリング	1257
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						

授業の位置づけ

日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅱ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生在が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。
 1) アカデミック・スタイルで、わかりやすくまとまりのある文章を書くことができる。
 2) 自分の文章を見直すための力をつけることができる。
 3) 幅広いテーマとトピックで知識を深め、論理を組み立てる力をつけることができる。
 4) 読解を通して、自分の考えをまとめ話し、他者の考えを聞くことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
 小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	L1 アカデミック・ライティングへの準備	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L2 自分の体験に基づいて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L3 立場を決めて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L3 立場を決めて意見を述べる(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L3 立場を決めて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L4 課題を見つけて意見を述べる(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L4 課題を見つけて意見を述べる(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L4 課題を見つけて意見を述べる(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L5 関心のあるニュースを紹介する(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L5 関心のあるニュースを紹介する(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L6 データに基づいて報告する(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L6 データに基づいて報告する(中)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L6 データに基づいて報告する(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語 I				ナンバリング	2241
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力高めるための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける。「総合中国語Ⅱ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、1年次に徹底して取り組んだ中国語の発音(ピンイン)をマスターすることを引き続き継続する。これと同時に、中国語の初級レベルの基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句を紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面、生活に根差した場面で使う表現を習得できるようになる。

到達目標

1. 中国語の発音をマスターする。
2. 中国語の初級レベルの基本的な語彙と文法を実践的に運用できる。
3. 中国圏の文化について理解を深めることができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4技能を中心とした総合的な語学能力を育成するために、印刷物の配布や関連動画の視聴など多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業内容の調整を行う。単語テスト後に関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス、②第0課「発音おさらい編」、③第1課「朝の公園」副詞「这么」「都」、感嘆文について学習する。	学習予定部分(p.8~13)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第2課「悪い石」:結果補語「倒」、使役動詞について学習する。	学習予定部分(p.14~21)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第3回	第3課「餃子」:動詞「来」、起こる可能性を表す「会」、形容詞「很少」の使い方を学習する。	学習予定部分(p.18~21)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第4回	第4課「寒くないか」:「不要緊」、文末に置く語気助詞「的」、副詞「还」を学習し、日本語と中国語の表現のしかたの違いについて紹介する。	学習予定部分 (p.22~25)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第5回	第5課「麻雀をする」:「V了～就V～」、助詞「了」、「快～呀」を学習する。	学習予定部分 (p.26~29)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第6回	第6課「お見合いコーナー」:「都～了」、副詞「刚」、「又～又～」を学習する。	学習予定部分 (p.30~33)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第7回	第1課～第6課を復習し、小テストを受ける。小テストについて説明する。	第1課～第6課の単語、表現、文法を復習する(90分)。	小テストで間違った部分を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	第7課「レンタル彼女」:複合方向補語、接頭辞「无可」、副詞「可惜」を学習する。	学習予定部分(p.34～37)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第9回	第8課「ピアノ、おじょうずね」:様態補語、助動詞「应该」、副詞「难道」を学習する。	学習予定部分(p.38～41)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第10回	第9課「無洗米」:疑問詞抱え型「吗」疑問文、動詞「帮」、量詞を学習する。	学習予定部分(p.42~45)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第11回	第10課「温かいものを食べたい」:感嘆詞「哎呀」、「的」フレーズ、ABB型形容詞を学習する。	学習予定部分(p.46~49)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			
第12回	第11課「転職する」:「就要～了」、副詞「竟然」、「看样子」の使い方を学習する。	学習予定部分(p.50~53)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			

第13回	第12課「プライバシー」:副詞「多」、数詞「多」、副詞「就」の使い方について学習する。	学習予定部分 (p.54~57)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			
第14回	第13課「曖昧な日本語」:「我想」、副詞「明明」、疑問詞「干嘛」の使い方について学習する。	学習予定部分 (p.60~63)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			
第15回	第7課～第13課を復習し、小テストを受ける。	第7課～第13課の単語、表現、文法を復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習、課題など)30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『マンガ 日中いぶこみ劇場』相原茂ほか編著、朝日出版社、2020年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅱ				ナンバリング	2242
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

中国語の総合的な表現能力を高めるための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける。「総合中国語Ⅰ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の語学に必要な4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。1年間の専門教育で身につけた初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」能力の上に、中級レベルにふさわしい、より高度な表現能力を身につけることができるようにする。中国語には生活習慣などに起因する、他文化圏の人々には理解しがたい特殊な表現がある。これらの表現は、日本人が苦手とし、理解しがたいものが多いが、とても大切な表現となる。授業では、これらの理解しがたい中国語の表現についても触れる。

到達目標

1. 正確で自然な発音と基本的な語彙が応用できる。
2. 中国人と簡単な日常的な会話を行うことができる。
3. 中国に関する特定のトピックについての簡単な情報を収集することができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4技能を中心とした総合的な語学能力を育成するために、視聴覚資料を用いて、講義形式で授業を進める。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス、②「総合中国語Ⅰ」の内容を復習する。	前期の「総合中国語Ⅰ」の内容を復習する(90分)。	復習課題を提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第14課「まだお昼も食べていないんだよ」:「还没～呢」、借用動量詞、「到现在」を学習する。	学習予定部分(p.64～67)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第3回	第15課「呼び方」:「好像」「该」「或者」を学習する。	学習予定部分(p.68～71)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第4回	第16課「返事のしかた」:「被」「V给」「按照」を学習する。	学習予定部分 (p.72~75)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第5回	第17課「花露水」:「不～了」、「管用」、「给」を学習する。	学習予定部分 (p.76~79)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第6回	小テスト①(第14課～第17課内容)およびその説明。	第14課から第17課までの内容を復習する(90分)。	小テスト①の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	第18課「上下関係」:「派」、「得」、「最」を学習する。	学習予定部分 (p.80~83)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第8回	第19課「他人行儀」:「不好意思」、「还～呀」、「说什么」を学習する。	学習予定部分 (p.84~87)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第9回	第20課「スイカがショッパイ」:「有+名詞+V」、「显得」、「～呀, ～什么的」を学習する。	学習予定部分 (p.88~91)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第10回	第21課「白い花」:「赶快」、「为什么」、「才」を学習する。	学習予定部分 (p.92~95)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第11回	小テスト②(第18課～第21課内容)およびその説明。	第18課から第21課までの内容を復習する(90分)。	小テスト②の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	第22課「眼にゴミが入った」:存現文、「好～啊」、「真是」を学習する。	学習予定部分 (p.96~99)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第13回	第23課「見送り」:接続詞「要是」、副詞「起码」、常用挨拶言葉を学習する。	学習予定部分 (p.100~103)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第14回	第24課「縁起を担ぐ」:「听说」、「可」、「比如」を学習する。	学習予定部分 (p.104~107)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第15回	小テスト③(第22課～第24内容)およびその説明。	第22課から第24課の内容を復習する(90分)。	小テスト③の内容を復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習、課題など)30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『マンガ 日中いぶこみ劇場』相原茂ほか編著、朝日出版社、2020年。		
参考文献		

なし。
履修条件・留意事項等
無断欠席は必ず減点要素になる。
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語コミュニケーション				ナンバリング	2245
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 慧君						

授業の位置づけ

この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。1年次科目「中国語入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、2年次科目「中国語リスニング」などと連動する科目である。

授業の概要

この授業は、中国語の日常会話を修得する。中国の文化・習慣・伝統・流行・中国人の考え方などにも触れ、実生活に即した会話の練習を通して、自分の考えや伝えたいことを話せる能力を身につける。各課のポイントに基づく練習問題をこなすことで、基礎を固め応用力を養う。総合中国語Ⅰ、総合中国語Ⅱの授業に続き、中国語のレベルアップを図る。また、中国語で発想する感覚を身に付け、より踏み込んだレベルの生活会話の習得を目指す。

到達目標

- ①正確で自然な発音、中級レベルの語彙・文法を身につける。
 ②「聞く」「話す」のトレーニングによって、より円滑に中国語でコミュニケーションができる。
 ③語学力の鍛錬だけではなく、中国の文化や社会状況についても学び、中国の文化・社会や日本との比較について論じられる。

授業の方法

教科書に沿って授業を進める。会話練習を授業中に取り組み、教員や学習者同士とのやり取りの中から知識の定着を図る。また単語テストやグループ発表などを通して学習成果を確認する。中国語による表現力を確認するために、口述テストを行う。

ICT活用

公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業内容の調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、聞き取りや単語テスト後に関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①授業についてのガイダンス ②食べ物、飲み物、個人情報、スポーツの好みに関連する単語を学習する。 ③相手の基本情報や好み、することを確かめる表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.8-13) を予習する (90分)。	授業のガイダンスの内容を理解し、学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第1課本文1の録音を次の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		
第2回	①性質や状態の形容詞、助動詞などの単語を学ぶ。 ②そうであるかどうか確かめる表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.14-23) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第1課本文2の録音を次の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		
第3回	①専攻、趣味、都市や地域に関連する単語を学ぶ。 ②自己紹介に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.24-29) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第2課本文1の録音を次の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		

第4回	①姓名や時間を表す言葉、日本料理の中国語読みなどの単語を学ぶ。 ②相手の基本的な情報を聞き出す表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.30-39) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第2課本文2の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		
第5回	①量詞、副詞、休日の行動に関連する単語を学ぶ。 ②今日あったことや休日の出来事などの表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.40-45) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第3課本文1の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		
第6回	①長期休暇の計画に関連する単語を学ぶ。 ②春休みや夏休みにしたこと、大学時代にしてみたいことに関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.46-55) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第3課本文2の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		

第7回	①性質や状態の形容詞、程度を表す副詞などの単語を学ぶ。 ②商品を購入するときや、サービスを利用するときに使う表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.56-61) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第4課本文1の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		
第8回	①支払い方法や、サービス、注文などに関連する単語を学ぶ。 ②レストランやアパレルショップなどで使う表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.62-71) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第4課本文2の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		
第9回	①交通や交通手段に関連する単語を学ぶ。 ②目的地までの交通手段に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.72-77) を予習する (90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第5課本文1の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員	胡 慧君		

第10回	①距離、場所などに関連する単語を学ぶ。 ②目的地までの道順、乗り換え案内に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.78-87) を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第5課本文2の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡 慧君		
第11回	①動作の結果、状況などに関連する単語を学ぶ。 ②行事に参加できない場合、待ち合わせの時間に遅れそうな場合の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.88-93) を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第6課本文1の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡 慧君		
第12回	①体の部位や体調、健康に関連する単語を学ぶ。 ②体調についてたずねたり、気遣ったりする場合の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.94-103) を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第6課本文2の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡 慧君		

第13回	①SNSの基本用語や、データのやりとりに関連する単語を学ぶ。 ②連絡先を交換する際や、オンラインでやりとりする際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.120-125) を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第8課本文1の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡 慧君		
第14回	①ネットサービスに関連する単語を学ぶ。 ②SNSで返信する際やコメントを残したい際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.126-135) を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第8課本文2の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡 慧君		
第15回	学習した内容を復習、小テストを受ける。	学習した内容を復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員	胡 慧君		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習、課題、小テストなど)30%、口述テスト20%、期末テスト50%
その他	0	
教科書		
『使って学ぶ！中国語コミュニケーション2—CEFR A1-A2 レベル—』寺西光輝、朝日出版社、2022年		
参考文献		

授業内で適宜指示

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語リスニング				ナンバリング	2247
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 耀光						

授業の位置づけ

実用的な会話とリスニング練習を通して中国語の「耳」と「口」を鍛え、場面に応じて、リスニングと会話を中心として自然に中国語で簡単なコミュニケーションを取るための科目である。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目であり、1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、「中国語コミュニケーション」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、「話す、聴く、書く、読む」に代表される語学力の中で、「聴く」能力に的を絞り講義を進める。中国語を母語とする人々が話すことばを聞いて分かるようになるためには、色々な人々の語る色々な内容を正しく認識しなければならない。中国語を日本語に直して聴くのではなく、中国語をそのまま中国語で聴く練習を通して、「聴く」力の向上に努める。学習者は、中国人の思考方式に合わせて中国語が聴けるようになり、コミュニケーション能力を向上させることができ、スローなスピードで設定された場面において単純な会話を聞き取れるようになる。

到達目標

1. 聴力の繰り返しの訓練によって、初級段階で学習された中国語を確実に聞き取れ、さらに応用できるようになる。
2. 旅とおもてなし等に役に立つ簡単な日常会話ができるようになる。
3. 中国語検定3級、HSK3レベルに達する。

授業の方法

テキストに沿って授業を進める。単語、本文の発音を学び、軽く文法の学習と練習問題。後は、ペアで発音の練習と応用会話練習を行う。講義を通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めていく。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①授業についてのガイダンス ②第1課 你有外国朋友吗？(一)	音声を利用して学習予定の部分(pp.1-4)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習し、次回の授業までに課題を提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第1課 你有外国朋友吗？(二)	音声を利用して学習予定の部分(pp.5-8)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第3回	第2課 快乐的家庭(一)	音声を利用して学習予定の部分(pp.9-12)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第4回	第2課 快乐的家庭(二)	音声を利用して学習予定の部分(pp.13-16)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第5回	第3課 我的一个星期(一)	音声を利用して学習予定の部分(pp.17-20)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第6回	第3課 我的一个星期(二)	音声を利用して学習予定の部分(pp.21-24)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	第8課 一共多少钱(一)	音声を利用して学習予定の部分(pp.57-60)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	中間テストと復習	音声を利用して、第1課～第3課まで学習した内容を復習する	音声を利用して第8課の(pp.61-64)を予習する(90分)。
担当教員			
第9回	第8課 一共多少钱(二)	音声を利用して学習予定の部分(pp.61-64)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第10回	第9課 今天你想吃什么？(一)	音声を利用して学習予定の部分(pp.65-68)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第11回	第9課 今天你想吃什么？(二)	音声を利用して学習予定の部分(pp.69-72)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	第10課 我喜欢学汉语(一)	音声を利用して学習予定の部分(pp.73-76)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第13回	第10課 我喜欢学汉语(二)	音声を利用して学習予定の部分(pp.77-80)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	①総復習 ②DVDと利用して、応用練習する(中国文化も紹介する)	音声を利用して学習した内容を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	期末テストと復習	学習した内容を総復習する(90分)。	テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はしません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出席・態度、課題の完成など)+小テスト:20% 中間テスト+期末テスト:80%
その他	0	
教科書		
『聴力UP!!中国語リスニングトレーニング』胡金定ほか著 朝日出版社、2016年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

- ・出席を重視すること。
- ・必ず予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅲ				ナンバリング	3243
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	云 肖梅						

授業の位置づけ

この授業は、中国語を媒介としたコミュニケーション能力を修得する科目である。世界と繋がるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ、グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。「総合中国語Ⅳ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、より高度な中国語表現能力取得を目指す。中国語には複雑な表現であっても表現する内容によって決まった文型がある。授業ではこれらの文型を学習しながら、練習問題を通して定着を目指す。また、それを確実に伝えられるような口頭練習を多用する。よって、2年間で学んだ学習項目を基礎に、より複雑な表現にふさわしい文型が使えるようになり、学んだ文型を実際のオーラル・コミュニケーションの場で使えるようにする。これらの表現に必要な文型や単語をマスターする。

到達目標

- 1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
- 2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
- 3.より自然な中国語を話せるようになる。

授業の方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行う。中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。

ICT活用

公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスをし、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス、初級文法復習	初級文法復習(90分)	初級文法音読復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第2回	第一課 介绍 学習要点: 結果補語/情態補語	第1課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第1課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第3回	第1課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第1課付属のCD本文を度聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第4回	第二課 家庭 学習要点: 兼語文(指令動詞)	第2課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第2課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第5回	第2課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第2課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第6回	第三課 学校 学習要点: 除了～以外/为了～	第3課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第3課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第7回	第3課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第3課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第8回	第四課 兴趣 学習要点: 越～越～/对～感兴趣	第4課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第4課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第9回	第4課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第4課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第10回	第五課 気候 学習要点: 可能補語/方向補語の派正義	第5課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第5課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第11回	第5課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第5課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第12回	第六課 交通 学習要点: 就要～了/是否～	第6課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第6課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第13回	第6課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第6課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第14回	第1-6課 総復習と口述テスト	口述テスト作文を作成(90分)	総復習、授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第1～6課)を聞くこと。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第15回	まとめおよび期末テスト	総復習(第1～6課)(90分)	期末テストの見直し(90分)
担当教員	云 肖梅		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%
その他	0	
教科書		
『中文Jump!』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月		
参考文献		

授業内で適宜指示

履修条件・留意事項等

授業中に行う解説をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅳ				ナンバリング	3244
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 慧君						

授業の位置づけ

この授業は、中国語を媒介としたコミュニケーション能力を修得する科目である。世界と繋がるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ、グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。「総合中国語Ⅲ」と関連する科目である。

授業の概要

この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。2年間の専門教育で身につけた初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」のレベルアップした表現能力を身につけることができるようにする。総合的な中国語コミュニケーション能力をアップすることができるようになる。つまり、ただ単に読んで理解することができるだけでなく、目的や場面に合わせた聴力・会話能力を身に付ける。

到達目標

- 1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
- 2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
- 3.より自然な中国語を話せるようになる。

授業の方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行い、中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。

ICT活用

公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスをし、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス、前期の復習	前期の復習(90分)。	前期の復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第2回	第7課 問路	第7課の単語(P.49)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.46)動詞要・有/又～又～/不但…而且	第7課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第3回	第7課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第7課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第4回	第8課 电话	第8課の単語 (P.56)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法 (P.53 怎么)	第8課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第5回	第8課の練習問題、文章内容の確認、発展	学習予定の部分 (pp.40-45)を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第3課本文1の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡 慧君		
第6回	第9課 购物	第9課の単語 (P.63)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法 (P.49有一点儿/一点儿/只要…就)	第9課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第7回	第9課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第9課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第8回	第10課 飲食	第10課の単語(P.69)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.66把字句)	第10課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第9回	第10課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第10課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第10回	第11課 健康	第11課の単語 (P.75)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法 (P.72是…的/ 一～就)	第11課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第11回	第11課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第11課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第12回	第12課 社会	第12課の単語 (P.82)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法 (P.78被 _レ 動句/比 _レ 較句)	第12課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第13回	第12課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第12課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第14回	第7～12課 総復習と口述テスト	口述テストの作文を完成すること(90分)	期末試験に備えて復習すること(90分)
担当教員	胡 慧君		
第15回	まとめおよび期末テスト	授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第7～12課)を聞くこと。(合計の所要時間90分程度)	期末試験の見直し(合計の所要時間90分程度)
担当教員	胡 慧君		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%
その他	0	
教科書		
『中文Jump!』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月		
参考文献		

授業内で適宜指示

履修条件・留意事項等

授業中に行う解説をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		朝鮮語 I				ナンバリング	3271
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	崔 鉉鎮						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「朝鮮語Ⅱ」の基礎となる科目である。							

1. ハングル文字の読み書きができる。
2. 単語・文レベルにみられる発音変化規則を理解して適用できる。
3. 基礎文型を活用して挨拶や自己紹介、簡単な日常会話ができる。

授業の方法

パワーポイントと視聴覚資料を用いた講義形式を基本とするが、4技能(聞く・読む・話す・書く)をバランスよく身に付けるため、様々な練習とペア・グループ学習を行う。ハンドアウト(配布印刷物)を教材で使用し、進み具合に合わせて配布する。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に解説を行う。質問や感想などは随時受け付けて課題と同様、次回の授業に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	① ガイダンス(授業の流れ、履修上の留意事項、成績評価など)を実施する。 ② ハングル文字の仕組み及び母音字①(単母音)について学ぶ。	韓国語の特徴について調べた後、日本語との共通点と相違点を考える(90分)。	学んだ母音字を暗記する(90分)。
担当教員			
第2回	母音字②(二重母音)について学ぶ。	母音字①を再復習したうえで、母音字②について予習する(90分)。	学んだ母音字を暗記する(90分)。
担当教員			
第3回	子音字①(カ、サ、タ、ナ行の子音字に類似)について学ぶ。	全ての母音字を再復習したうえで、子音字①について予習する(90分)。	学んだ子音字を暗記する(90分)。
担当教員			

第4回	子音字②(ハ、パ、マ、ラ、チャ行の子音字に類似)について学ぶ。	子音字①を再復習したうえで、子音字②について予習する(90分)。	学んだ子音字を暗記する(90分)。
担当教員			
第5回	① パッチム(「ン、ル、ッ」に類似)について学ぶ。 ② 仮名のハングル表記法に基づいて日本の人名・地名を書く。	全ての子音字を再復習したうえで、学習内容を予習する(90分)。	パッチムの種類及び発音法を暗記する(90分)。
担当教員			
第6回	① 発音変化規則「連音化」を理解し、単語と文章に適用して読む。 ② 助詞(「は、が、を」など)について学習する。	母音字、子音字、パッチムを総復習した後、学習内容を予習する(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	視聴覚資料を活用して「生きた韓国語」に触れる。これまで学んできた語彙や表現などの聞取り練習を行うとともに韓国の文化についても知る。	これまで配布されたハンドアウトの語例を音読しながらハングル文字の読み方と連音化規則を総復習する(120分)。	視聴覚資料に出てきた単語と表現の表記・発音を復習し、疑問に思った韓国の文化などがあれば調べる(60分)。
担当教員			
第8回	①「名詞＋です(か)」について学ぶ。 ② ①の文型を用いて自己紹介をする。 ③「名詞＋ではありません」について学習する。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			
第9回	① 存在の有無を表す表現について学ぶ。 ② 位置を表す表現について学習する。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習する(90分)。
担当教員			

第10回	漢数詞の数え方とそれに付く助数詞について学ぶ。	学習内容を予習した後、1～10、100、1,000、10,000 の漢数詞の発音と綴りを暗記する(90分)。	授業中に解いた問題を復習後、スムーズに発音できるようになるまで反復練習を行う(90分)。
担当教員			
第11回	固有数詞の数え方とそれに付く助数詞について学ぶ。	学習内容を予習した後、1～10、20 の固有数詞の発音と綴りを暗記する(90分)。	授業中に解いた問題を復習後、スムーズに発音できるようになるまで反復練習を行う(90分)。
担当教員			
第12回	① ヘヨ体①(パッチム有りのタイプ)について学ぶ。 ② 否定表現について学習する。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習した後、パッチム有りのヘヨ体の作り方を暗記する(90分)。
担当教員			

第13回	ヘヨ体②(パッチム無しとその他のタイプ)について学ぶ。	学習内容を予習した後、新出語彙を覚える(90分)。	学習内容を復習した後、パッチム無し・その他のヘヨ体の作り方を暗記する(90分)。
担当教員			
第14回	要求表現について学ぶ。	ヘヨ体の全パターンの作り方を総復習した後、学習内容を予習する(90分)。	要求表現の作り方と授業中に練習した例文を暗記する(90分)。
担当教員			
第15回	今学期の学習内容を総まとめした後、到達度確認テストを実施する。	今学期の学習内容を復習しながら理解が足りていない箇所をチェックしておく(120分)。	今学期の学習内容を総復習する(60分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(10%)、課題・小テスト(30%)、学期末試験(60%)で総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし。		
参考文献		

必要に応じて紹介する。

履修条件・留意事項等

欠席・遅刻を避け、授業に積極的に参加してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		朝鮮語Ⅱ				ナンバリング	3272
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	朴 権浩						

授業の位置づけ

この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「朝鮮語Ⅰ」の発展科目である。

授業の概要

この授業は「朝鮮語Ⅰ」に続き、初級レベルの朝鮮語を総合的に学ぶ。ハングル文字表記に慣れ、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文法や語句を使って、日常生活における出来事や考えを簡単に表現できるようになる。韓国からの観光客へのおもてなし表現や、韓国旅行で役に立つトラベルフレーズなど、実践的な朝鮮語コミュニケーションを基本文型で表現できるようになることを目指す。

到達目標

朝鮮語の基礎文法の学習を通じた基本的な文書の読解と作文能力を身につける。
大きい声で練習することによって発音の規則に習熟し、また多様な場面での会話の練習を通じて状況に応じた基本的なコミュニケーションと日常の会話の能力を身につける。
ハングル能力試験4～5級合格程度の能力を身につける。

授業の方法

授業は、前期に学習した正確な読み書きと基本会話を基礎にして朝鮮語の基礎的な文法や文型を会話を通じて学んでいく。学生一人ひとりの学習レベルと状況にあわせた実践の会話練習を通じて全員が積極的にまた楽しく朝鮮語を学んでいくことができるように指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出方法、フィードバック方法については、授業開始時に具体的に提示する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	前期の朝鮮語 I の総括復習 ①子音と母音、パッチムの発音 ②～ます、です形と否定文など	朝鮮語 I の総括的な復習をする。(90分)	朝鮮語 I の総括的な復習をする。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第2回	動詞～ますと形容詞の～ですの格式表現～ㅁ니다/습니다と 名詞の～ですの表現～ㅁ니다/입니다の活用。	動詞～ますと形容詞の～ですの 格式表現～ㅁ니다/습니다と 名詞の～ですの表現～ㅁ니다/ 입니다の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第3回	動詞～ますと形容詞の～ですの非格式表現～어/아요と 名詞の～ですの非格式表現～예요/이에요の活用。	動詞～ますと形容詞の～ですの 非格式表現～어/아요と 名詞の～ですの非格式表現～ 예요/이에요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		

第4回	固有語数詞と漢字語数詞の使い分け	固有語数詞と漢字語数詞の使い分けを事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第5回	5W1Hの疑問文の練習	5W1Hの疑問文を事前に把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第6回	動詞と形容詞の過去時制: 格式の表現～ 앓/엿습니다と非格式の表現～ 앓/엿어요と 名詞の過去時制: 格式の表現～ 엿습니다/이엿습니다と非格式の表現～ 엿어요/이엿어요の活用。	動詞と形容詞の過去時制: 格式の表現～ 앓/엿습니다と非格式の表現～ 앓/엿어요と 名詞の過去時制: 格式の表現～ 엿습니다/이엿습니다と非格式の表現～ 엿어요/이엿어요の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		

第7回	動詞と形容詞の敬語:～(으)십니다/～(으)세요と 名詞の敬語:～이십니다・～이세요/ ～십니다・～세요 の活用。	動詞と形容詞の敬語:～(으) 십니다/～(으)세요と 名詞の敬語:～이십니다・～ 이세요/ ～십니다・～세요の 活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第8回	動詞と形容詞の敬語の過去時制:～(으)셨습니다/～(으) 셨어요と 名詞の敬語の過去時制:～(이)셨습니다/(이)셨어요の活 用。	動詞と形容詞の敬語の過去時 制:～(으)셨습니다/～(으) 셨어요と 名詞の敬語の過去時制:～(이) 셨습니다/(이)셨어요の活用を 事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第9回	確認の～でしょう?・～よね?の表現:～지요と 逆接の～が・～けれどもの表現:～지만の活用	確認の～でしょう?・～よね?の 表現:～지요と 逆接の～が・～けれどもの表現: ～지만の活用を事前に把握す る。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		

第10回	希望の～したいですの表現:～고 싶어요と 第三者の希望～したがつていますの表現:～고 싶어해요 の活用。	希望の～したいですの表現:～ 고 싶어요と 第三者の希望～したがつていま すの表現:～고 싶어해요の活 用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第11回	名詞の否定形 ～이/가 아닙니다・～이/가 아니예요と 動詞・形容詞の否定形 안 ～ㅂ/습니다と안 ～아/어요・ ～지 않습니다と～지 않아요の活用。	名詞の否定形 ～이/가 아닙니다・～이/가 아니예요と 動詞・形容詞の否定形 안 ～ㅂ /습니다と안 ～아/어요・～지 않습니다と～지 않아요の活用 を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第12回	助詞のまとめ:助詞の役割と種類。	助詞を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		

第13回	位置や存在を表す表現의있다/없다の活用。	位置や存在を表す表現있다/없다の活用を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第14回	自己紹介の練習:13回の授業で学んだ基礎表現を使って自己紹介の練習をする。	自己紹介文を事前に作成する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
第15回	Iグループ・IIグループ・IIIグループの表現と規則・不規則活用	Iグループ・IIグループ・IIIグループの表現と規則・不規則活用を把握する(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員	朴 權浩		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中に小テストの実施、また課題提出や発表などの参加度を総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
『できる韓国語 初級 II (新装版)』/ 李志暎 / アスク		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		フランス語 I				ナンバリング	3281
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						

授業の位置づけ

この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「フランス語Ⅱ」の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、フランス語を初めて学ぶ学生を対象とし、フランス語の初歩を習得する。まずフランス語のアルファベット、母音字、子音字など発音の規則を習得し理解できるようになる。次に、フランス語の文法の基礎である、名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞の活用や形容詞の位置、基本文型、否定文、疑問文などの習得を目指す。世界の広い範囲の国や地域で使用され、国連公用語であるフランス語の表現になれ親しみ、フランス語の簡単な会話ができることでフランス語を使う楽しさを体験する。

到達目標

1) フランス語で自己紹介ができる。 2) 簡単な日常会話ができる。 3) フランス語の単語を読めるようになる。 4) フランスやフランス語圏の文化に触れる。 5) 基礎的な文法を身につける

授業の方法

授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアで練習してから、発表をする。比較的にゆっくり進みますが、復習は欠かせません。

ICT活用

Google Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	アルファベットと自己紹介	0分	復習:180分
担当教員	Nicolas Jegonday		
第2回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第3回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第4回	疑問文を覚えて、相手に質問をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第5回	数字を覚えて自分の年齢を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員	Nicolas Jegonday		
第6回	フランスの地理を習って、大都市の位置と読み方を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第7回	三人称を習って、同級生を紹介する。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第8回	動詞etre,avoir,habiter,parler。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第9回	好きなこと・苦手なことを伝える。動詞 aimer,adorer,detester。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第10回	家族に関する表現を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第11回	家族についてはなす。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第12回	持ち物に関する表現を習って、鞆や財布の中身を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第13回	曜日、月、時間に関する表現を覚える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第14回	動詞vouloir,pouvoir. 出来ること、してみたいことを伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	復習:90分	復習:90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。 定期試験は実施しない。
その他	0	
教科書		
場面で学ぶフランス語1〔三訂版〕高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著 三修社 ISBN:978-4-384-22055-1 C1085		
参考文献		

特になし。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		フランス語Ⅱ				ナンバリング	3282
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						

授業の位置づけ

この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「フランス語Ⅰ」の後を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「フランス語Ⅰ」に続き、フランス語の発音の規則に慣れ、文法の基礎を学習することを通して、フランス語の理解と表現に欠かせない基礎を習得する。学習した単語や文法知識を用いて、簡単な内容の短い文章や会話を理解できることを目指す。また、フランス語の短い会話や文章を、正しい発音で読んだり話したりを練習し、フランス語の基本文法や語句を使って、簡単な内容を表現できるようになる。また、フランス語の学習を通してフランス語圏の文化や社会への理解を深める。

到達目標

1,会話の中でよく使う動詞の活用を習得する。
2,過去、未来時制の表現を理解し応用できる。
3,日常の会話を楽しむことができる。

授業の方法

授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアで練習してから、発表をする。比較的にゆっくり進みますが、復習は欠かせません。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	フランス語 I で習ったことを復習する。	0分	復習:180分
担当教員			
第2回	一日の行動に関する表現を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第3回	自分の行動を伝える。相手の行動を聞く。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第4回	過去形を習う。複合過去。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第5回	過去の出来事を伝える。半過去。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第6回	フランス映画鑑賞。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第7回	未来形を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第8回	予定を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第9回	食に関する単語を習う。部分冠詞。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第10回	食生活について話す。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第11回	カフェやレストランで使う表現を習う。ロールプレー。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第12回	天気に関する単語を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第13回	天気についてはなす。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第14回	街や大学に関する表現を習う。道案内をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	復習:90分	復習:90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。 定期試験は実施しない。
その他	0	
教科書		
場面で学ぶフランス語1〔三訂版〕高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著 三修社 ISBN:978-4-384-22055-1 C1085		
参考文献		

特になし。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ロシア語 I				ナンバリング	3291
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 理奈						

授業の位置づけ

この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次後期科目「ロシア語Ⅱ」の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、ヨーロッパ言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び、言語の多様性を知ることが目的とする。ロシア語のアルファベットを書き、発音することから始め、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようになる。まず、ロシア語の文字の形を理解し、個々の文字が示す音、および単語における発音の法則、イントネーションの規則を覚えて、文を音読できるように、アクセントと発音練習が中心になるが、基本文型を使って日常生活の基本的表現が言えるようになる。

到達目標

ロシア語の基礎的学習をふまえて, 1. 基本的な単語や文を聞き取れる, 2. 単純な文を読んで内容が分かる, 3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる, 4. 簡単な文章を書ける

授業の方法

板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。
配布印刷物および視聴覚メディア(DVD, CDなど)の補足教材も活用し説明を行う。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして, 理解度確認テストを回収後, 解答の解説を行う。
レポート課題は, 提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ロシア語学習への導入	シラバスに目を通して、教科書p8-10「ロシア語ってどんなことば？」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語や文化について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	アルファベット、単語の読み方	教科書p11-14のアルファベットと発音の特徴に目を通しておく(90分)	授業で学習したアルファベットの発音と単語の読み方を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	アルファベット、文字の書き方	教科書p15の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した文字の書き方を復習しておく(90分)
担当教員			

第4回	文字と発音, 発音の規則(母音の弱化)	教科書p21の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第5回	文字と発音, 発音の規則(子音の同化), 挨拶表現	教科書p16-17の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	第1課 簡単な平叙文「～は～です」, 疑問文「これは誰ですか」「これは何ですか」	教科書p18-19の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			

第7回	第2課 簡単な否定文「～は～ではない」、疑問文「～は～ですか」、人称代名詞	教科書p22－23の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	名詞の性(男性・女性・中性名詞)	教科書p35の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	名詞の複数形	教科書p47の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第10回	第3課 所有代名詞「私の, あなたの」など, 指示代名詞「この」	教科書p28－29の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第11回	第4課 形容詞「新しい, 古い」など	教科書p32－33の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第5課 動詞の第1変化「読む, 知る」など	教科書p40－41の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第13回	第6課 動詞の第2変化「話す, 見る」など	教科書p44－45の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ, 練習問題	教科書p18－49練習問題の新出単語, p38－39「単語力アップ」「表現力アップ」に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト, 解説	教科書p11－49で学習した単語, 表現, 文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト, 授業への参加態度, 出席態度, 授業内の課題、授業内レポートなど
その他	0	
教科書		
『ニューエクスプレスプラスロシア語』黒田龍之助 著(白水社)		
参考文献		

辞書は、『パスポート初級露和辞典』米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力(白水社)を推奨する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ロシア語Ⅱ				ナンバリング	3292
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 理奈						

授業の位置づけ

この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「ロシア語Ⅰ」の発展となる科目である。

授業の概要

この授業は、「ロシア語Ⅰ」に続き、ロシア語の文字に慣れ、簡単な文章を読み、短い文章が書けるようにロシア語の初級基礎文法を習得する。ロシア語の短い文章を、正しい音声の音読と精読で演習し、そのトピックに関する意見を簡単に表現できる力を身に付ける。ロシア語学習とともにロシアの生活習慣や文化についても学び、北海道とロシアの共通と異なりへの理解を深めていく。

到達目標

ロシア語の基礎的学習をふまえて, 1. 基本的な単語や文を聞き取れる, 2. 単純な文を読んで内容が分かる, 3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる, 4. 簡単な文章を書ける

授業の方法

板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。
配布印刷物および視聴覚メディア(DVD, CDなど)の補足教材も活用し説明を行う。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして, 理解度確認テストを回収後, 解答の解説を行う。
レポート課題は, 提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	格変化について	シラバスに目を通して, 教科書p62「格について」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語的特徴について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	第7課 с я 動詞, 前置詞と前置格, 名詞の前置格(場所の表現, ~について), 人称代名詞の前置格	教科書p50-51の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	第8課 所有の表現, 命令形	教科書p54-55の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第4回	第9課 名詞の対格(直接目的), 人称代名詞の対格	教科書p60-61の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第5回	第10課 名詞の対格(行き先の表現), 運動の動詞	教科書p64-65の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	練習問題, 挨拶表現, 文法チェック	教科書p50-69練習問題の新出単語, p70-71「単語力アップ」「表現力アップ」, p72-75の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第7回	第11課 動詞の過去形, 場所の表現, 「勉強する」の表現	教科書p76-77の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	第12課 動詞「б ы т ь」の過去形, 天候の表現	教科書p80-81の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	第13課 動詞「б ы т ь」の未来形, 病気の表現, 動詞の不規則変化	教科書p86-87の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第10回	第14課 名詞の生格(所有, 所属, 否定), 人称代名詞の生格	教科書p90－91の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第11回	第15課 名詞の与格(間接目的), 人称代名詞の格変化, 許可の表現	教科書p98－99の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第16課 名詞の造格(手段, 前置詞 c), 人称代名詞の造格, 必要の表現	教科書p102－103の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第13回	第17課 名詞の対格(活動体名詞), 個数詞	教科書p96-97「単語力アップ」「表現力アップ」, p118-119の「単語力アップ」「表現力アップ」の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ, 練習問題	教科書p76-107練習問題の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト, 解説	教科書p50-110で学習した単語, 表現, 文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト, 授業への参加態度, 出席態度, 授業内の課題、授業内レポートなど
その他	0	
教科書		
『ニューエクスプレスプラスロシア語』黒田龍之助 著(白水社)		
参考文献		

辞書は、『パスポート初級露和辞典』米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力(白水社)を推奨する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		世界と北海道				ナンバリング	1500/3504
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えていく。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。初年次教育の一環として、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現) 地域未来学科のディプロマポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)。」ことと特に関係する科目である。							

- 1.北海道と世界のつながりを、観光の視点から述べるができるようになる。
- 2.経済産業省が示す社会人基礎力である前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を得ていく。
- 3.PBL学習 (Project/Problem Based Learning)について論じることができるようになる。
- 4.北海道について知るための統計やデータの収集方法がわかり、実践できるようになる。
- 5.データの初歩的な分析方法がわかり、実践できるようになる。
- 6.北海道全体と地域の問題を述べるができるようになる。
- 7.地元学を理解し、課題解決法のための実践ができるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる	世界の人口、世界各国の人口、 日本の人口、日本各都道府県 の人口、北海道の人口、北海道 各市町村の人口を調べておくこ と(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員	小山田 健		
第2回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅠ →一緒にともにする同学年のこれまで住んでいた場所を調 べる、共有する	同じ学年の留学生の出身国の「 国の人口」「首都の人口＋首都 名」「主な産業」を調べておくこ と(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員	小山田 健		
第3回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅡ →先生方の出身国や出身地について調べる	「国の人口」「首都の人口＋首都 名」「主な産業」を調べておくこ と(90分)	授業内容を復習しまとめておくこ と(90分)
担当教員	小山田 健		

第4回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅢ →本学の図書館やシステムを活用しての情報収集方法を把握する。また、経営学の手法を使った基礎的分析法についても把握すること	図書館にいて、世界各国や日本、北海道に関連する書籍がどこにあるのかを確認しておくこと。また、その他に、図書館にはどのような書籍があり、どのようなことができるかも、実際に足を運ばせ確認しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅣ →事前に調べた世界の国と、日本や北海道の関係をグループで話しあい、まとめていく調べていく(前回授業の情報収集法を活かして行う)	選択した世界の国と、日本や北海道の関係を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅤ →事前に調べた選択された世界の国と、日本や北海道の関係をグループで話しあい、まとめていく調べていく(前々回と前回授業の情報収集法を活かして行う)	選択した世界の国と、日本や北海道の関係を調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	世界を、日本を、北海道を知ろうⅥ →第5回、第6回で各グループで調べられた内容をまとめ、全体を把握していく	グーグルクラスルームに投稿されている、各チームのこれまでの情報を確認しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	前半:小テスト(第2回～第7回の内容) 後半:北海道について(これからの授業内容等について)	これまで行った内容を復習しておくこと(90分)	グーグルクラスルームに投稿した、これからの内容について再度目を通し把握しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	北海道の戦略と取り組みⅠ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画についての把握(ホームページからの統計やデータの収集について)	「北海道総合開発計画」について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	北海道の戦略と取り組みⅡ →世界水準の価値創造空間を目指す開発計画と、北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)*詳しくは前の授業内で伝えます(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	北海道の戦略と取り組みⅢ →北海道グローバル戦略についての把握(統計やデータの収集)	「北海道グローバル戦略」指定箇所について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅰ／地元を考える。地元を分析する。 →地域資源カードの作成法	「地元学」について調べておくこと。また、出身国、出身地の観光産業や入込状況などを調べていくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ／北海道の観光先進地を把握し分析していく。 →地域資源カードの作成	ニセコエリア、富良野エリアについての市町村、各市町村の入込、1－12月の観光状況について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第14回	主要施策の「観光」についての分析と把握Ⅱ／大学のある恵庭市を把握する。分析していく。 →地域資源カードを使った戦略立案法	指定する恵庭市の資料を読み、観光の状況を把握しておくこと(90分)	本日フィードバックされたことと、各チームの内容を整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	最終レポート(SWOT分析を使った戦略立案について) ＊これまでの内容を踏まえた最終レポートの作成をいただきます。詳細は当日発表します。	SWOT分析ができるようになっておくこと、また恵庭市の観光の魅力についても、再度分析しておくこと(90分)	第1回から第15回までの内容を再度確認し復習すること(90分)
担当教員	小山田 健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○小テスト(第2回～第6回の内容を踏まえ、第7回に行います) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御旨います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

- ・国際学部の学生は、「ニセコ国際研修」かこの「世界と北海道」のいずれかを履修しなければならない『選択必修』です。どちらかの科目を必ず履修するようにしてください。
- ・地域未来学科の学生は、この科目は『選択科目』となります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		ニセコ国際研修				ナンバリング	1510
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	青 晴海、渡部 淳、小山田 健、宮本 融、釣 晴彦、巫 靚、石丸 卓						
授業の位置づけ							
就業体験をとおして、国際的な感覚や社会人として必要な知識やスキルを身につける。その過程で、自己に足りない弱みや強みを自覚し、2年時以降に向けた新たな目標設定を行う機会とする。また、これまで各授業で学んだ知識やスキルを、実践の場で活用していく。 ディプロマ・ポリシーの関連では、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。（思考・判断・表現）」に最も深く関係し、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。（思考・判断・表現）」につなげていく科目である。							
授業の概要							
この研修は、国際リゾート地として有名なニセコをはじめ、ルスツ、キロロなど、外国人観光客や外国人居住者が多い北海道の国際化推進地域において、インターンシップと国際交流、そして地域交流などを融合させた、異文化体験や地域社会の多様性の理解を促進するものである。国内での研修ではあるが、研修内容は多言語・多国籍の人々と英語をリングフランカとして用いることから国際研修と称する。身近な地域にある北海道と世界のつながりや、北海道の新しい社会的多様性に触れながら、体験型の学びを行うことを目的としている科目である。							
到達目標							

- ・実際の就業の現場を知り、働くとはどういうことなのかを討議できるようになる。
- ・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。
- ・これまで習得してきた語学などの様々な知識などを、実践の場で使用できるようになる。
- ・研修する地域の現状と課題について討議できるようになる。
- ・研修やグループワークを通じ、多様な価値を受け止め、他者を理解する力を身につける。また、自己に足りない弱みや強みを自覚し、2年時以降に向けた新たな目標設定が出来るようになる。

授業の方法

「オリエンテーション」「事前研修」「実施研修／インターンシップ（フィールドワークや地域交流なども含む）」「事後研修」の4方式で行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

観光・旅行業の実務経験のある教員はもちろん、国際協力や行政の現場で内外の企業と働いてきた経験ある教員が適宜アドバイスを行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	[オリエンテーション] ・ニセコ国際研修について ・受入エリアについて ・受入先について	インターンシップとは、何を学ぶために行うのかを各自が考え調べておくこと(90分)	研修を希望する受入先を検討し、指定する期日までに提出すること。提出の際は、その受入先を、なぜ希望するのかの理由も書いてもらう。(90分)
担当教員			
第2回	[オリエンテーションⅡ] ・受入先について ・今後のチーム編成発表 ・チーム面談 →受入先やチーム編成は、決定後も変更になる場合も有り。また、面談は、複数の日付にわけて行う場合も有り。	実施研修をとおり、自分が受入先から怒られるかもしれないことや、褒められるかもしれないことを想像し、書き出しておくこと(90分)	決定した受入先と、そのエリアについて調べておくこと(90分)
担当教員			
第3回	[事前研修Ⅰ] ～受入先、受入先エリア、社会人に必要な能力について理解する①～ ・受入先について ・受入先のエリアについて ・社会人に必要な知識について ・その他 →編成したチームメンバーの一人一人に各役割を与え、こちらが与えるテーマについて調べてもらう。そのテーマを、他のチームメンバーにも共有した上でブラッシュアップし、まとめたことを発表する。	チームで活動にするにあたって、自分が取るべき行動で重要だと思うことを書き出しておくこと。また、チームでの活動の意欲を低減させたり迷惑をかける行為について、考えられることも、書き出しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第4回	[事前研修Ⅱ] ～受入先、受入先エリア、社会人に必要な能力について理解する②～ ・受入先について ・受入先のエリアについて ・社会人に必要な知識について ・その他 →事前研修Ⅰのブラッシュアップ →事前研修Ⅱでは、受入先の方に、事前のレクチャーを行っていたと予定。ただし、コロナ禍であるため、日程や順序等が変更する場合も有り。	学生と社会人の違いについて、考えられることの全てを書き出しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	[事前研修Ⅲ] ～何を学びに行くのかを明確にする～ ・実施研修(インターンシップ)に向けた目標の設定 ・研修についての最終説明 →「学びたいこと」「身につけたいこと」「伸ばしたい能力」について目標の設定を行う。	実施研修(インターンシップ)で、自分が何を学びたいのかを考え抜いておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	[実施研修／インターンシップ] 1日目／移動、実施研修準備 2日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			

第7回	[実施研修／インターンシップ] 3日目／実施研修 4日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	[実施研修／インターンシップ] 5日目／実施研修・地域交流 ＊地域交流については日程が前後する場合があります 6日目／実施研修・グループワーク ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	[実施研修／インターンシップ] 7日目／休 8日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			

第10回	[実施研修／インターンシップ] 9日目／実施研修 10日目／実施研修 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第11回	[実施研修／インターンシップ] 11日目／実施研修 12日目／休(個人ワーク) ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	[実施研修／インターンシップ] 13日目／実施研修 14日目／実施研修終了、移動 ＊詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			

第13回	[事後研修Ⅰ] ～チームでのグループワーク～ ・地域課題の解決法についてのグループワーク→事後研修Ⅲの発表の準備。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	[事後研修Ⅱ] ～チームでのグループワーク～ ・地域課題の解決法についてのグループワーク→事後研修Ⅲの発表の準備。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	[事後研修Ⅲ] ～チーム及び個人の発表、最終レポート～ ・地域課題の解決法についての発表／チーム →プレゼンテーションと講評。 ・研修の報告とこれまでの振り返り／個人 →一人一人に最終報告をプレゼンテーションいただく。方法については、事後研修Ⅰの際に伝える。 ・最終レポートの作成と提出／個人 →内容については当日伝える。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	実習態度、実習日誌、実習報告書、報告会発表、受入先企業等からの評価などにより総合的に評価する。
その他	20	最終レポート(レポートのテーマについては、当日伝える)
教科書		
参考文献		

履修条件・留意事項等

「インターンシップ研修」の際に、受入先などへ迷惑をかける行為を行った場合は、途中でであっても帰宅させ、受講の取り消しをする場合がある。また、「事前研修」「インターンシップ研修(フィールドワークや地域交流など)」「事後発表会」において、チームメンバーへ迷惑をかける行為を行った場合も同様である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		アウトドア・ツーリズム研修				ナンバリング	1520
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	小山田 健、小西 正人、宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー、世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、およびそれらを活用する技能、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化という課題につながるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、集中講義と研修で北海道の観光産業におけるアウトドアスポーツ観光の開発とその観光プロモーションを考えていく。訪日外国人観光客の旅行目的は多様化しており、体験型テーマ旅行の提供が求められているが、北海道はスキー、スノーボードなど、冬季のスポーツを楽しむ場所としては海外でも知名度が高い。近年は、グリーンシーズンのアウトドア・スポーツはニセコ、富良野、キロロなどでのラフティングやカヌー、ハイキング、登山、ゴルフで外国人観光客誘致が活発化しているが、その英語・中国語のガイドやインストラクターが不足している。ここでは、近い将来、アウトドア観光の担い手となる二言語併用人材育成として、ニセコ等でのアウトドア・アクティビティのガイド体験を行う。

到達目標

- ・アウトドアスポーツの体験を通し、その魅力を把握する。
- ・体験したアウトドアスポーツのなりえるターゲットについて考えることができるようになる。
- ・新しいアウトドア体験プログラムのツアー開発や、そのプロモーションができるようになる。
- ・チームビルディングを理解し、実践をととして、チームで働く力を身につける。また、その過程で、自らが主体性を持って前に進める力や、考え抜く力も身につけていく。
- ・問いや仮説を立てて現状を分析し、課題解決案を考える力を身につける。
- ・PBL学習 (Project/Problem Based Learning) について理解する。

授業の方法

「事前研修」「実施研修」「事後研修」の3つの方式で行う。

＊「実施研修」や「事後研修」は、PBL (Project/Problem Based Learning) 方式で行う。そして、編成するチームでグループワークを重ね、新しいアウトドアスポーツの開発やプロモーション方法を考え、プレゼンテーションを行う。

ICT活用

オリエンテーション時に説明する。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション →この科目で何を学ぶのか、授業の進め方や日程について アウトドアスポーツには、たくさんの種類のものがありますので、運動が苦手でも気軽に楽しめます。 1年後期にはニセコ国際研修、2年前期には海外国際研修の全員必修の学外学修が控えていますので、この科目は、その準備科目の位置づけでもあります。北海道の大自然で、北海道を知り、仲間を知り、たくさんの方と出会い、関係を深めてほしいと思います。	北海道で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと(90分)	全世界で行われているアウトドアスポーツについて調べておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融		
第2回	○事前研修Ⅰ →アウトドア・ツーリズムについて →北海道の観光産業について	北海道のアウトドア資格制度について調べ、歴史やその科目内容を調べておくこと。また、オーバーユースとは何かを調べまとめておくこと。(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融		
第3回	○事前研修Ⅱ 実施研修Ⅰ 富良野エリアの把握 実施研修Ⅱ 日高エリアの把握	富良野エリアの1市4町1村(富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、美瑛町、占冠村)の観光における特徴と、行われているアウトドアスポーツについて調べまとめておくこと。また、日高エリア7町(平取町、日高町、新ひだか町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町)の観光における特徴と、行われているアウトドアスポーツについてもまとめておくこと。(90分)	富良野エリアと日高エリアの観光の入込状況などを調べ、あなたなりの分析を行い、エリアの違いと特色をプレゼンテーションできるようにしていくこと。(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融		

第4回	○実施研修Ⅰ－1／演劇手法で学ぶコミュニケーションプログラム 森の中で五感を使い、演劇で取り入れられる発声方法やグループワークなどでのコミュニケーション方法を講義・実践していく。	各自で名刺の内容を考え、20枚の名刺を作成しておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめること(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健		
第5回	○実施研修Ⅰ－2／早朝プログラム インバウンドの増加により、朝食前の体験プログラムを求めるニーズが増えてきている。それに対応するため、各地域では様々なプログラムを体験するが、富良野市では盆地など自然景観が揺る「熱気球」が人気のため、この現場の調査と仕事体験を行う。	全国各地の朝の体験プログラム(アウトドア+α)を調べ整理しておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめること(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健		
第6回	○実施研修Ⅰ－3／ラフティングの仕事体験① 北海道での教育旅行や海外からのお客様に人気のラフティングの仕事見学と体験(ツアー準備、実施サポート、あと片付け)の一連の作業を見学、体験していく。	教育旅行のラフティングが実施され終えるまでに、スタッフが行う全行程を考え抜き、書き出しておくこと。また、安心安全に配慮するために、事前・事後で行われていることについても考えておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめること(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健		

第7回	○実施研修Ⅰー4／ラフティングの仕事体験② 北海道での教育旅行や海外からのお客様に人気のラフティングのガイドについて、英語でレクチャーをいただき、流れがゆるやかな川で実践などを行っていく。	ガイドに必要な英単語を整理しておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめること(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健		
第8回	○実施研修Ⅰー5／農園ハイキングと環境体験プログラム 北海道アウトドア資格制度の科目にあるハイキングには、様々なフィールドで行われているものがあるが、富良野エリアでは、食や環境や自然などを学びながら行えるプログラムが多数ある。「歩く(ハイキング)」+ α の体験を考えるため、エリアの幾つかのプログラムの視察や体験を行い、ツアーの制作についても考えていく。	富良野エリアの食や、自然(森や山)について調べ、まとめること(90分)	ハイキング+ α のオリジナルツアーを考え発表できるようにしておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健		
第9回	○実施研修Ⅰー6／エリアの把握とアウトドア事業者の会社運営についてを考える エリア全体のフィールドワークを行った上で、このエリアでアウトドア事業を行う会社様より、安心安全へ配慮した考えや仕事概要などについてを学んでいく。	夏だけではなく、秋、冬、春に体験したり行くことができる場所を事前に調べておくこと(90分)	安心安全も踏まえ、このエリアにたくさんの大学生が来るためのアウトドアツアーを考えること(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健		

第10回	○実施研修Ⅱ－1／文化体験プログラム 平取町二風谷を散策し、チセの見学や狩猟体験を行わせていただきながら、アイヌ文化や衣食住について学んでいく。	配布資料を読みアイヌ文化について整理しまとめておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健、宮本 融		
第11回	○実施研修Ⅱ－2／トレイルライディング 新冠町でのトレイルライディング体験と馬とのお仕事についての把握。	トレイルライディングが行える全国の場所を調べておくこと。また、馬とふれあうことで得られることで想像がつくことをまとめておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健、宮本 融		
第12回	○実施研修Ⅱ－3／コロナ後に増加した屋外自然体験(キャンプ等)プログラムの体験と検証 テントの設置や火おこしなど、キャンプなどで行われている基礎的内容ができるようになる。 また、キャンプ時に屋外で気軽にできるアウトドアスポーツについても検討をおこなっていく。	キャンプで行うことについて整理し、まとめておくこと(90分)	行った内容を振り返り、整理し、まとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健、宮本 融		

第13回	○事後研修Ⅰ／アウトドアスポーツの開発とプロモーション ① ＊マーケティング手法のフレームワークを使い、富良野エリアを再度分析し、 大学生でも足を運び実施したいと思うアウトドアを主体とした体験プログラムとそのプロモーションを考える。 →グループワーク。	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)	グループワーク／プレゼンテーション準備(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融		
第14回	○実施研修Ⅱ／アウトドアスポーツの開発とプロモーション ② ＊マーケティング手法のフレームワークを使い、富良野エリアを再度分析し、 大学生でも足を運び実施したいと思うアウトドアを主体とした体験プログラムとそのプロモーションを考える。 →グループワーク／プレゼンテーション	グループワーク／プレゼンテーション準備(90分)	本日フィードバックされたことと、各チームの内容を整理しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融		
第15回	○事後研修Ⅲ／アウトドアスポーツの開発とプロモーション ③ 実施研修と事後研修を踏まえた最終レポートの作成を行います。内容については当日発表します。	一昨年北海道で行われた「ATWS(Adventure Travel World Summit)2023」について調べ整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前研修、実施研修、事後研修[アウトドアスポーツの開発とプロモーション]を総合的に判断して(詳細はオリエンテーション時に報告する) 最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認。レポートの内容については、最終授業に伝える)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

留意事項等

学外での研修や宿泊時に、他者へ迷惑をかける行為などを行った場合には、受講の取り消しとする場合がある。
授業内容や日程については、世の中の情勢や社会的な大きな動きがあった場合には、間際でも変更する場合がある。状況については、入学時のオリエンテーションや、google classroom等からお伝えしていく。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		北海道の食文化				ナンバリング	2530
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、渡部 俊弘、青 晴海						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」、および地域未来学科のディプロマ・ポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」こととも関係がある。							
授業の概要							
この授業は、北海道の先住民であるアイヌ民族の生活からの食文化について。シャケなどを例に挙げ、生活様式と食文化の関連をアイヌ文化の観点から講述する。一方、明治2年、蝦夷地は北海道に改名され、開拓とともに日本各地から人々が移住してきた。そのような歴史的背景と地域特性から食生活が多様化し、ジンギスカンや石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼きなどの郷土料理が生まれた。その観点からも北海道の食文化を講述する。							
到達目標							

学園創設の時代背景を踏まえ、いま再び不安定になっている世界情勢に鑑み、食文化(食べること)が各所に与える影響の大きさやその質については、VUCAの時代を生きる上で理解する必要がある。本授業では「食べること／食文化」を多角的に観察し、国際的かつ歴史的に、食が文化の創造に不可欠な要素である点や、それらの要素が現代社会の基盤を形成している点について学習する。履修者は絶えず変化を求められる時代を生きていく中において、社会構造を再考するために必要な素養と基礎知識の獲得を目標とする。

授業の方法

教員作成パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いて講義形式で展開し、社会の実務者による講義も行う。また、学生間での対話(ディスカッション)を含むチーム学習も行う。

ICT活用

授業内容に関連するホームページや動画を用いる。課題などのやり取りにGoogle classroomを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションなどのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	〈はじめに〉「北海道の食文化を理解するために」 北海道の食文化や、食べることは総合的な学問体系の基礎につながると考える。人々の食生活はその国や地域の歴史や地形、気候等を基礎として決定づけられており、例えばそこに派生する「農業」を理解するためには、食文化が総合的な学びであることへの理解が必須である。その他、民族や食生活、産業や海外文化等の要素と関連づけて講述する。	シラバスをよく読み、自らの問題意識を整理すること。また、「北海道の食文化」の自分なりのイメージを持っておくこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	「北海道の食文化とアイヌ～漫画『ゴールデンカムイ』から～」 アイヌ民族と食との関係についての理解深化を目指し、アイヌ関連資料を用いて講述する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第3回	「北海道内各地の食文化を比較する(道北・道南・道東・道央など)」／「食を支える栄養学」 ・道内各地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		

第4回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関東・東北地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関東・東北地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第5回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関西・九州・四国地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関西・九州・四国地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第6回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(ヨーロッパ編)」 ・イタリア:スローフード(Citta Slow)の考え方 ・フランス:食の都パリ、国が食を大事にする精神性・スペイン:食を柱とした地域の活性化の成功例 ・鶴岡新太郎とフランス料理(料理法百たい(1)、料理法百たいに学ぶ) など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		

第7回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(アジア編)」 ・中国、韓国: 日中韓の食事様式について	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な素養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第8回	〈まとめ〉「食糧難の時代 2050年に備えて」 ・人口増大のピークにむかう地球(総人口90億人へ) ・世界情勢と食糧危機 ・国際学部生として大切なこと など	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な素養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	青 晴海		
第9回	「ガイダンス／その他の学びへと派生する(北海道の)食」 ・「(北海道の)食や食べること×その他の総合的な学問体系」の関係性 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第10回	「北海道の食文化の誕生と郷土料理」 ・北海道の食文化と郷土料理(ジンギスカン、石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼き等)、食文化の歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第11回	「北海道の遺跡からわかる食文化(仮)(恵庭市郷土資料館長町 章弘 学芸員)」 北海道及び恵庭市の歴史について展示等を通して学びに繋げる取組を行っている社会教育施設の現場に従事する実務者による実践的な講義を通して、北海道の歴史や民族について考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第12回	「北海道の食を支える人と産業」 ・北海道の食を支える主な食産業、歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第13回	「地理と食産地の関係」 ・実は暗記科目ではない「地理」 ・「地理」から見つめてみる世界の食産地 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第14回	「海外の食について」 ・日本以外の国や地域で生産されている原材料 ・海外の食文化について	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第15回	〈まとめ〉「〈食べること〉がなぜ重要なのか？」 ・食糧自給率の仕組み ・学園のルーツである「食」と多様性を認める時代の「食」など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢やレポートなどを中心に総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

「食の歴史」(ジャック・アタリ著、プレジデント社)、「ゴールデンカムイ」シリーズ(野田サトル著、集英社)。その他は授業中に適宜提示する。

履修条件・留意事項等

本授業は国際教養学科および国際コミュニケーション学科2年次の選択科目であるが履修することが望ましい。

備考欄

ゲストスピーカー(実務者)の講義内容、講義日程は変更となる場合がある。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		北海道の社会と文化(多文化共生)				ナンバリング	2540
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。							

1.共生社会とは何かを述べることができるようになる。
 2.自らが積極的に学習を進め、北海道のこれまでの歴史が説明できるようになる。
 3.前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を、これまで以上に向上させる。
 4.これからの多文化共生のありかたについて述べるようになる。
 (2年次の配当科目であるため、各授業ごとに、事前・事後の課題を出します。事前・事後課題の提出が守れない場合は、この授業の到達目標に達することができないと判断し、成績を評価していきます)

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション →授業の進め方・評価方法・受講時の留意点	これまでに習ってきた北海道の歴史やアイヌ文化について整理し、まとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		
第2回	共生社会について 共生社会とは何かについて考え、まとめる。	共生社会とは何かを調べまとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		
第3回	北海道の歴史・アイヌ文化の歴史 本州との違いについてを把握し、まとめる。	事前に配布する資料を読み、北海の歴史、アイヌ文化の歴史を整理しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		

第4回	学外学修準備① ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館についての把握と準備	ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	実施研修1-1 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	ウポポイの見学コースを決定し、そこで何が学べるかを整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	実施研修1-2 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	恵庭郷土資料館が何が学べる施設かを調べておくこと。また、恵庭市の縄文時代の歴史(資料配布)も目を通し調べておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	実施研修1－3 ウポポイ 民族共生象徴空間、恵庭市郷土資料館／学外学修・フィールドワーク	アイヌの歴史(資料配布)を読み、時代ごとの内容をまとめておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	実施研修1の振り返りとまとめ →反転学習:アイヌ文化の歴史を伝えるため、フィールドワークを用いたスタディープランを考える。	フィールドワークで見学した場所と内容についての詳細を調べて整理しておくこと。(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	学外学修準備② 北海道博物館、平取町二風谷についての把握と準備	北海道博物館、平取町二風谷について調べておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	実施研修2-1 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	北海道博物館の見学コースを決定し、そこで何が学べるかを整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	実施研修2-2 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	平取町二風谷で行うことやお会いする方について調べ、複数の質問ができるようにしておくこと。また各内容の整理をしておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	実施研修2-3 北海道博物館、平取町二風谷／学外学修・フィールドワーク	北海道の歴史(事前配布)を読み、年代ごとの出来事を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	ゲーミング手法を使った学修の検討Ⅰ ゲーミング手法の効果と実用事例、作成方法 *アイヌ文化や北海道の歴史をより把握するために、外国人や小中学生に向けたカードゲーム(日本語・英語)を作成していく。	謎解きゲームやカードゲームには、どのようなものがあるのかを調べまとめておくこと(90分)	グループで、次回授業までにゲームを完成させておくこと
担当教員	小山田 健		
第14回	ゲーミング手法を使った学修の検討Ⅱ グループで作成したゲーミングの実施及び内容のプレゼン(日本語・英語) *アイヌ文化や北海道の歴史をより把握するために、外国人や小中学生に向けたカードゲーム(日本語・英語)を作成していく。	プレゼンテーションとゲーム実施のための準備をしておくこと(90分)	行った結果について分析と検証を行いまとめること(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	実施研修2の振り返りとまとめ →反転学習:北海道の文化の歴史を伝えるため、ゲーム手法(謎解きゲームなど)を用いた一人一人が考えた問題を考える。 最終レポートの作成 →グローバルゼーションと多文化共生について *これまで行った内容を踏まえてレポートの作成	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	これまでの内容を整理しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○グループ・プレゼンテーション(第14回講義の内容+それまでのグループワークの取り組みを踏まえ採点します) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御旨います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	
教科書		
なし(資料は随時配布します)		
参考文献		

各、授業内でお伝えしていきます

履修条件・留意事項等

学外での実施研修(学外学修)があり大型バスでの移動が伴うため、履修人数を設定している科目です。
履修人数がオーバーした場合には、これまでの単位取得状況やTOEIC点数(第14回で英語でのプレゼンテーションを行うため)などから判断する場合がありますので、ご了承ください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		地域連携プロジェクト				ナンバリング	3550
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を見つけている(知識・技能)」「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」「グローバル社会の中で、世界の人びとと共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけている(関心・意欲・態度)」世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。							

- ・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等を把握した上で分析を行い、与えられたテーマに対し、課題解決の提案が行えるようになる。
- ・地域の課題を自らで考え(問いを考える)、その解決の提案が行えるようになる。
- ・他者(他学生、地域の皆様、外部の関係者様等)を理解し協働しながら、コミュニケーション能力を高めていく。
- ・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。
- ・これまでの科目で習得してきた知識などを、実践の場で使用できるようになる。
- ・研修する地域の現状と課題について討議できるようにする。

授業の方法

講義＋「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の形式で行っていく。

ICT活用

資料提示や情報収集のために、スマートフォンなどを使用する場合がある。本学が推奨するものや、zoomなども取り入れていく。

実務経験のある教員の教育内容

約20年間民間企業等で、観光や広告宣伝部門の業務に携わる。また、直近の8年間は、学生が地域をフィールドに、街の活性化に取り組む学外実践授業のコーディネーターとして、40以上のプロジェクトの実施とサポートを行う。また、日本PBL研究所のアドバイザー資格を有し、講師なども担当している。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション →授業の進め方・評価方法・受講時の留意点	恵庭駅前商店街と千歳駅前商店街について調べておくこと(90分)	フィールドワークを行い、恵庭駅前商店街の課題を見つけ出すこと(90分)
担当教員			
第2回	[プロジェクト演習Ⅰ／AL型演習] アイスブレイク、チームビルディング、演習課題①(個人ワーク、グループワーク)	チームビルディングを円滑に進めるために重要なことを調べ、400字以内にまとめておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第3回	【プロジェクト演習Ⅰ／AL型演習】 AL(アクティブラーニング)型演習]アイスブレイク、チームビルディング、演習課題②(個人ワーク、グループワーク)	与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第4回	【プロジェクト演習Ⅰ／AL型演習】 アイスブレイク、チームビルディング演習課題③(個人ワーク、グループワーク)	与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	【プロジェクト演習Ⅱ／PBL型演習(Project Based Learning)】 個人ワーク、グループワーク(チームと役割の決定) * 与えられたテーマに対して取り組む	千歳駅前商店街について、インターネットやフィールドワークなどを行い、どのような特色があるのかを調べておくこと(90分) * 準備課題については、変更の場合もあります	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	【プロジェクト演習Ⅱ／PBL型演習(Project Based Learning)】 個人ワーク、グループワーク(チームと役割の決定) * 与えられたテーマに対して取り組む	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	[プロジェクト演習Ⅱ／PBL型 (Project Based Learning)] グループワーク (プレゼンテーション準備)	グループで当たられた役割を行 っておくこと (90分)	本日、グループワーク行った内 容を整理し、復習しておくこと。 また、与えられた課題 (またはチ ームでの課題) について考えて おくこと (90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	【プロジェクト演習Ⅱ／PBL型 (Project Based Learning)] プレゼンテーション・振り返り講義	グループで当たられた役割を行 っておくこと (90分)	本日、グループワーク行った内 容を整理し、復習しておくこと。 また、与えられた課題 (またはチ ームでの課題) について考えて おくこと (90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習 (Project Based Learning)] 個人ワーク、グループワーク (チームと役割の決定) *グル ープで問いを探し、その課題解決に向けて取り組む (内容は、変更になる場合もあります)	恵庭駅前と千歳駅前を比較し、 それぞれの強み・弱みを分析し ておくこと (90分) * 内容は変更する場合もありま す	本日グループで話した内容をま とめ、整理しておくこと。また、グ ループで当たられた役割を行っ ておくこと (90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習 (Project Based Learning)】 グループワーク(フィールドワーク)＊自由選択「モノ」を調べる。	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内 容を整理し、復習しておくこと。 また、与えられた課題(またはチ ームでの課題)について考えて おくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習 (Project Based Learning)】 グループワーク(フィールドワーク)＊自由選択「ヒト」を調べる。	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内 容を整理し、復習しておくこと。 また、与えられた課題(またはチ ームでの課題)について考えて おくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習 (Project Based Learning)】 グループワーク(フィールドワーク)＊自由選択「コト」を調べる。	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内 容を整理し、復習しておくこと。 また、与えられた課題(またはチ ームでの課題)について考えて おくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習 (Project Based Learning)】 グループワーク(プレゼンテーション準備)＊自由選択で調べた「ヒト」「モノ」「コト」を繋げたプログラムを考えていく。	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内 容を整理し、復習しておくこと。 また、与えられた課題(またはチ ームでの課題)について考えて おくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第14回	【プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習 (Project Based Learning)】 プレゼンテーション・振り返り講義	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内 容を整理し、復習しておくこと。 また、与えられた課題(またはチ ームでの課題)について考えて おくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	[最終レポートの作成] これまでの授業を踏まえた最終レポートを行っていただきま す。 内容については、当日発表します。	これまでの授業内容を復習して おくこと(90分)	これまでの授業内容を整理しま とめておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の他者評価(グループメンバーや教員学外権威者などや各種レポートプレゼンテーションなどから、総合的に評価を行っていく最終レポート(レポートのテーマについては、当日伝える))
その他	0	
教科書		
なし(資料は随時配布します)		
参考文献		

各、授業内でお伝えしていきます

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Writing[E2-1]				ナンバリング	1601
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この講義は、国際教養学科の全てのディプロマポリシーと関連する科目である。本講義では、パラグラフ・ライティングについての知識を習得し、さまざまなジャンルのライティングをする基礎力を身につけることを目的とする。Academic English Writing II の基礎となる講義である。

授業の概要

この授業は、英語パラグラフ・ライティングの書き方についての知識を習得することを目的とする。授業では、Topic sentence、Supporting sentences、Concluding sentenceといった基本的なパラグラフの構成方法を学び、さまざまなジャンルの効果的なパラグラフが書けること、そして最終的にはお互いのパラグラフを評価し合う(Peer Review) ことができることを目標とする。

到達目標

- ・英語パラグラフ・ライティングの構成方法を理解することができる。
- ・さまざまなジャンルのパラグラフの構成方法について理解し、効果的なパラグラフを書くことができる。
- ・相手を書いたパラグラフを読んで、改善点を指摘するなど評価することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課されるライティング課題に取り組みながら、英語のパラグラフの構成方法を身につけるとともに、ある程度まとまった文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるようにする。

ICT活用

WebアプリのPear DeckやKahoot!などを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・ライティングにおける目的と読み手意識の重要性について学ぶ。 ・自己紹介のパラグラフを作成する(ライティング課題①)。	シラバスをよく読み、教科書を準備する。(90分)	教科書のChapter 1を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	Chapter 1 Describing People ① ・Pre-writingの手法としての質問、ノートテイキングの仕方について学ぶ。 ・パラグラフの構成について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Chapter 1 Describing People ② ・パラグラフのフォーマットについて学ぶ。 ・物事を描写するために必要な語彙について学ぶ。 ・Andとorを用いたセンテンス・コンバイニングについて学ぶ。 ・描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題②)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ① •Pre-writingの手法としてのClusteringの仕方について学ぶ。 •Listing-Order Paragraphの構成方法について学ぶ。 •Topic sentenceの書き方について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ② •Supporting sentencesの書き方について学ぶ。 •Listing order transition signalsについて学ぶ。 •ライティングをする上で重要なUnityについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ③ •Concluding sentenceの書き方について学ぶ。 •Listing-Orderのパラグラフを書く準備をする。(ライティング課題③-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ④ ・Peer reviewの仕方について学ぶ。 ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題③-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	Chapter 1とChapter 2のまとめを行う。Exam.	Chapter 1とChapter 2の復習を行う。(90分)	教科書のChapter 3を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Chapter 3 Giving Instructions ① ・Pre-writingの手法としてのListingの仕方について学ぶ。 ・“How-To”パラグラフの構成方法について学ぶ。 ・Time orderとListing orderのtransition signalsについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第10回	Chapter 3 Giving Instructions ② ・Pre-writingで作成したリストからアウトラインを作成する方法について学ぶ。 ・Capitalization、コンマの使用の注意点について学ぶ。 ・“How-To”パラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題④-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	Chapter 3 Giving Instructions ③ ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題④-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	Chapter 4 Describing with Space Order ① ・Space orderの構成方法について学ぶ。 ・Topic sentenceを構成するtopicとcontrolling ideaについて学び、効果的なTopic sentenceの書き方を学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Chapter 4 Describing with Space Order ② ・具体的な詳細(Specific details)を加えたSupporting sentencesの書き方について学ぶ。 ・センテンス・コンバイニング(pp.131-132)に取り組む。 ・Spacing orderを用いた描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題⑤-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第14回	教科書の該当箇所を読み (pp132-133 Practice 18)、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第15回	Final Exam	Review main concepts, ideas (90分)	Think about improving general skills over break time! (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Homework, attendance 30% Midterm exam 30% Final exam and peer evaluation efforts 40%
その他	0	
教科書		
Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs, Third Edition, Ann Hogue, Pearson, 2013		
参考文献		

A good dictionary is recommended

履修条件・留意事項等

Materials will be provided by the teacher as handouts.

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Writing[E2-2]				ナンバリング	1601
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						

授業の位置づけ

この講義は、国際教養学科の全てのディプロマポリシーと関連する科目である。本講義では、パラグラフ・ライティングについての知識を習得し、さまざまなジャンルのライティングをする基礎力を身につけることを目的とする。Academic English Writing II の基礎となる講義である。

授業の概要

この授業は、英語パラグラフ・ライティングの書き方についての知識を習得することを目的とする。授業では、Topic sentence、Supporting sentences、Concluding sentenceといった基本的なパラグラフの構成方法を学び、さまざまなジャンルの効果的なパラグラフが書けること、そして最終的にはお互いのパラグラフを評価し合う(Peer Review) ことができることを目標とする。

到達目標

- ・英語パラグラフ・ライティングの構成方法を理解することができる。
- ・さまざまなジャンルのパラグラフの構成方法について理解し、効果的なパラグラフを書くことができる。
- ・相手を書いたパラグラフを読んで、改善点を指摘するなど評価することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課されるライティング課題に取り組みながら、英語のパラグラフの構成方法を身につけるとともに、ある程度まとまった文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるようにする。

ICT活用

WebアプリのPear DeckやKahoot!などを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

小学校・中学校・高等学校・大学と40年以上現場で様々な実践教育を行ってきたことを取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・ライティングにおける目的と読み手意識の重要性について学ぶ。 ・自己紹介のパラグラフを作成する(ライティング課題①)。	シラバスをよく読み、教科書を準備する。(20分)	教科書のChapter 1を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	Chapter 1 Describing People ① ・Pre-writingの手法としての質問、ノートテイキングの仕方について学ぶ。 ・パラグラフの構成について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Chapter 1 Describing People ② ・パラグラフのフォーマットについて学ぶ。 ・物事を描写するために必要な語彙について学ぶ。 ・Andとorを用いたセンテンス・コンバイニングについて学ぶ。 ・描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題②)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ① •Pre-writingの手法としてのClusteringの仕方について学ぶ。 •Listing-Order Paragraphの構成方法について学ぶ。 •Topic sentenceの書き方について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ② •Supporting sentencesの書き方について学ぶ。 •Listing order transition signalsについて学ぶ。 •ライティングをする上で重要なUnityについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ③ •Concluding sentenceの書き方について学ぶ。 •Listing-Orderのパラグラフを書く準備をする。(ライティング課題③-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ④ ・Peer reviewの仕方について学ぶ。 ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題③-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	Chapter 1とChapter 2のまとめを行う。	Chapter 1とChapter 2の復習を行う。(90分)	教科書のChapter 3を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Chapter 3 Giving Instructions ① ・Pre-writingの手法としてのListingの仕方について学ぶ。 ・“How-To”パラグラフの構成方法について学ぶ。 ・Time orderとListing orderのtransition signalsについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第10回	Chapter 3 Giving Instructions ② ・Pre-writingで作成したリストからアウトラインを作成する方法について学ぶ。 ・Capitalization、コンマの使用の注意点について学ぶ。 ・“How-To”パラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題④-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	Chapter 3 Giving Instructions ③ ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題④-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	Chapter 4 Describing with Space Order ① ・Space orderの構成方法について学ぶ。 ・Topic sentenceを構成するtopicとcontrolling ideaについて学び、効果的なTopic sentenceの書き方を学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Chapter 4 Describing with Space Order ② ・具体的な詳細(Specific details)を加えたSupporting sentencesの書き方について学ぶ。 ・センテンス・コンバイニング(pp.131-132)に取り組む。 ・Spacing orderを用いた描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題⑤-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第14回	Chapter 4 Describing with Space Order ③ ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題⑤-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第15回	Chapter 3とChapter 4のまとめを行う。	Chapter 3とChapter 4の復習を行う。(90分)	講義全体の振り返りを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	ライティング課題 60% 授業内試験 40%
その他	0	特になし。
教科書		
Longman Academic Writing Series 2, Paragraphs, Third Edition, Ann Hogue, Pearson 2020		
参考文献		

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Writing II [E2-1]				ナンバリング	2602
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。(知識・技能)
世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけているに関連している科目である。

授業の概要

この授業は、Academic English Writing I で学習したパラグラフ・ライティングについての知識を礎に、英語のエッセイ・ライティングの基礎を習得することを目的とする。授業では、Introductory paragraph、Body paragraphs、Concluding paragraphといった基本的なエッセイの構成方法を学び、さまざまジャンルの効果的なエッセイが書けること、そして最終的にはお互いのパラグラフを評価し合う(Peer Review) ことができることを目標とする。

到達目標

In this class, students will learn how to compose basic essays, including introductory paragraphs, body paragraphs, and concluding paragraphs, and will be able to write effective essays in a variety of genres, and finally to evaluate each other's paragraphs (Peer Review).

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Orientation - Learn about course: + overview + goals - Learn about assessments: + peer-assessment tasks + in-class writing tasks + in-class tests - Learn about fluency writing Unit 17 Used to,	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the packet, generate questions. (90 minutes)	Reflect on the orientation discussion and review notes. (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 18 I am doing/I do--- process essay part 1	Check the LMS, read packet on Process essay and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第3回	Unit 19 going to---Process essay part 2	Review patterns taught in class, polish essay to be handed in during next class. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第4回	Unit 22 will vs going to—writing about future plans	Grammar homework and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第5回	Unit 25 can, could, be able to—Narrative 1	Work on Story at home, prepare grammar unit. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第6回	Unit Unit 30 have to vs must—Narrative 2 Peer editing activity	Prepare grammar unit and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第7回	Unit 30 have to vs must, Test preparation	Study for test. Review grammar and essay patterns (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Midterm	Re-read exercises, prepare next grammar unit. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第9回	Unit 30 have to vs must -Division and classification essay part 1	Prepare next grammar unit and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第10回	Unit 33 had better and It's time - Division and classification essay part 2	Prepare grammar unit and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第11回	Unit 34 would Division and classification part 3	Continue to work on essay. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. Prepare 3 copies of essay for next class. (90 minutes)
担当教員			
第12回	Unit 39 wish-- Peer editing activity	Review essay comments, prepare final draft. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第13回	Unit 40 passive 1-- cause and effect essay 1	Review grammar points, essay draft 1. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第14回	Unit 45 reported speech 1 --Cause and effect part 2	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第15回	Final exam	Review. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	attendance and participation: 30%; writing and vocabulary building assessments for the first half of the course: 30% writing and vocabulary building assessments for the second half of the course: 40%
その他	0	
教科書		
Packet will be prepared and given by the teacher		
参考文献		

none

履修条件・留意事項等

none

備考欄

none

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Writing II [E2-2]				ナンバリング	2602
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。(知識・技能)
世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけているに関連している科目である。

授業の概要

この授業は、Academic English Writing I で学習したパラグラフ・ライティングについての知識を礎に、英語のエッセイ・ライティングの基礎を習得することを目的とする。授業では、Introductory paragraph、Body paragraphs、Concluding paragraphといった基本的なエッセイの構成方法を学び、さまざまジャンルの効果的なエッセイが書けること、そして最終的にはお互いのパラグラフを評価し合う(Peer Review) ことができることを目標とする。

到達目標

In this class, students will learn how to compose basic essays, including introductory paragraphs, body paragraphs, and concluding paragraphs, and will be able to write effective essays in a variety of genres, and finally to evaluate each other's paragraphs (Peer Review).

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Orientation - Learn about course: + overview + goals - Learn about assessments: + peer-assessment tasks + in-class writing tasks + in-class tests - Learn about fluency writing - Learn about LMS	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the textbook, generate questions. (90 minutes)	Reflect on the orientation discussion and review notes. (90 minutes)
担当教員			
第2回	Academic Paragraphs 1 (Chapter 1) - Analyze the model: + academic paragraph - Analyze vocabulary: + word families - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 1 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第3回	Academic Paragraphs 2 (Chapter 1) + Analyze page formatting practices + Analyze capitalization practices - Practice writing process: + step 3: write first draft + step 4: revise & edit first draft	Check the LMS, read Chapter 1 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第4回	Academic Paragraphs 3 (Chapter 1) - Analyze sentence Structure + simple sentences + phrases + subject-verb agreement + fragments - Analyze vocabulary: + nouns and verbs - Peer Assessment #1 + comment on peer's revised draft - Practice writing process	Check the LMS, read Chapter 1 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第5回	Basic Paragraph Structure 1 (Chapter 3) - Analyze the model: + basic paragraph - Analyze vocabulary: + adjectives - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 3 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第6回	Basic Paragraph Structure 2 (Chapter 3) - Analyze organization: + topic sentence + supporting sentences - main points + supporting details - examples + concluding sentence - Analyze sentence structure: + the model + adjectives and adverbs - Practice writing process	Check the LMS, read Chapter 3 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第7回	Basic Paragraph Structure 3 (Chapter 3) - Analyzing vocabulary: + adjectives - Peer Assessment #2 + comment on peer's revised draft - Practice writing process	Check the LMS, read Chapter 3 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Review of Paragraph Organization (Chapter 1/ Chapter 3) - Review work from classes 2-7 - Take In-class Writing Test #1	Check the LMS, re-read Chapters 1 & 3, re-read exercises and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第9回	Logical Division of Ideas 1 (Chapter 4) - Analyze the model: + unified, coherent paragraph - Analyze vocabulary: + synonyms - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 4 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第10回	Logical Division of Ideas 2 (Chapter 4) - Analyze organization: + logical division of ideas + unity in supporting sentences + coherence in supporting sentences - Analyze sentence structure: + run-ons and comma splices + correcting run-ons and comma splices + finding run-ons and comma splices - Practice writing process: + step 3: write first draft + step 4: revise & edit first draft	Check the LMS, read Chapter 4 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第11回	Logical Division of Ideas 3 (Chapter 4) - Analyze vocabulary: + synonyms and near-synonyms - Peer Assessment #3 + comment on peer's revised draft - Practice writing process	Check the LMS, read Chapter 4 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第12回	Essay Organization 1 (Chapter 9) - Analyze model: + essay - Analyze vocabulary: + formal and informal words - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第13回	Essay Organization 2 (Chapter 9) - Analyze organization: + introduction paragraphs + body paragraphs + concluding paragraphs + transitions between paragraphs + essay outlining - Practice writing process: + step 3: write first draft + step 4: revise & edit first draft	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第14回	Essay Organization 3 (Chapter 9) - Analyzing vocabulary: + formal and informal vocabulary - Peer assessment #4 + comment on peer's revised draft - Practice writing process: + step 5: write a new draft >> In-class task #2	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review of Essay Organization (Chapter 4 / Chapter 9) - Review work from classes 9-14 - Take In-class Writing Test #2	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 20%; writing and vocabulary building assessments for the first half of the course: 40% writing and vocabulary building assessments for the second half of the course: 40%
その他	0	
教科書		
Longman Academic Writing Series 3 (4th Edition), Alice Oshima & Anne Hogue		
参考文献		

none
履修条件・留意事項等
none
備考欄
none

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Reading[E2-1]				ナンバリング	2604
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は、北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけることに関連する。

授業の概要

この授業は、さまざまな学術的なトピックの英文テキストにおける読解力を身につけることを目的とする。授業では、心理学、社会学、政治学などさまざまな分野のアカデミックな題材のテキストを読むための読解ストラテジーを身に付け、題材の主題や概要、詳細を把握できるようになることを最終目標とする。

到達目標

Read English texts in various fields such as psychology, sociology, political science, etc., using reading comprehension strategies to grasp the subject, outline, and details of the subject matter.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and evaluation.	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the textbook, generate questions (90 minutes).	Reflect on the orientation discussion, review notes, send a greeting message to the LMS. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of health science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of linguistics.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 1-3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will develop skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of zoology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of social psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the field of art.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Units 4-6.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of sociology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the field of political science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 7 and 8.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of economics.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of neuroscience.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this class, students will review what they have learned in this class and take an in-class exam.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Reflect on one's performance during the course. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50 In-class exam 50
その他	0	Not applicable
教科書		
READING SKILLS FOR COLLEGE 1, Elizabeth Bottcher, Pearson		
参考文献		

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Reading[E2-2]				ナンバリング	2604
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

この科目は、北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけることに関連する。

授業の概要

この授業は、さまざまな学術的なトピックの英文テキストにおける読解力を身につけることを目的とする。授業では、心理学、社会学、政治学などさまざまな分野のアカデミックな題材のテキストを読むための読解ストラテジーを身に付け、題材の主題や概要、詳細を把握できるようになることを最終目標とする。

到達目標

Read English texts in various fields such as psychology, sociology, political science, etc., using reading comprehension strategies to grasp the subject, outline, and details of the subject matter.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and evaluation.	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the textbook, generate questions (90 minutes).	Reflect on the orientation discussion, review notes, send a greeting message to the LMS. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of health science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of linguistics.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 1-3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will develop skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of zoology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of social psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the field of art.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Units 4-6.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of sociology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the field of political science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 7 and 8.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of economics.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of neuroscience.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this class, students will review what they have learned in this class and take an in-class exam.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Reflect on one's performance during the course. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50 In-class exam 50
その他	0	Not applicable
教科書		
READING SKILLS FOR COLLEGE 1, Elizabeth Bottcher, Pearson		
参考文献		

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Integrated Academic English I				ナンバリング	3606
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目は、北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけることに関連する。

授業の概要

この授業は、1年生から学習してきたアカデミック英語科目のまとめと位置付けられ、英語で行われる講義を聴いて、その内容を理解するために必要な講義の構造の理解や、ノート・テイキングの方法を身に付けることを第一目標とする。さらにはその講義から得た情報を口頭で伝えたり、要約を作成できるようになることを最終目標とする。

到達目標

目標は、大学院を含む、より高いレベルの英語学習に備えることです。そのために、4つの領域すべてにおいて生徒の総合的な能力を高める。具体的に 1.より高度な学術的内容が書ける。2.実際のネイティブスピーカーの内容を通常のスピードで聞き取れる。3.学術的な文章が読める。4.ギブ・アンド・テイクのディスカッションの場で構造化された議論ができる。

授業の方法

Comprehending academic texts, vocabulary building, group discussions, academic writing activities, and peer editing will be the main components of this course.

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法

Answers to tests will be given after the tests have been completed and graded tests will be shown to the students along with individual and class feedback.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Intro-Pronunciation , orientation- Practice one	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Spoken grammar: Phrasal 1…TV 1	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	Spoken grammar: Phrasal 2…TV 1 part 2	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	Spoken grammar: Phrasal 3...Revising and editing review...Abbot and Costello, Grammar Homework 1	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	Spoken grammar: "How often..." Revising and editing Review 2, "Tell Me About", Grammar Homework 2	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	spoken grammar: for since... process essay WRITING ONE	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	spoken grammar: Since with clauses…TV 2 Vocabulary and reading practice	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	Midterm exam	Prepare by studying the target vocabulary and writing essay styles as practiced in class. 90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and work on addressing them. 90分
担当教員			
第9回	Spoken grammar "I've driven Trucks?" "I've never eaten"-- Division and Classification essay, Grammar Homework 3	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	Spoken grammar: Have You Ever Seen a Rainbow?/ Have You written report? And: Division and classification cont.	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	Editing practice, Peer editing activity	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	Spoken grammar: "He's already gone bowling this week", Crossword, Grammar Homework 4	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	Cause and effect essay, TV 3	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Compare and Contrast Essay, TV 3 part 2	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	Final Exam	Prepare by studying the target vocabulary and writing patterns from course 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation: 30%; midterm assessments: 30%; final assessments: 40%
その他	0	
教科書		
Packet will be provided by Professor Walzem		
参考文献		

Taishukan's Genius English - Japanese Dictionary, 第5 edition, 大修館書店;

履修条件・留意事項等

none

備考欄

none

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Integrated Academic English II				ナンバリング	3607
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						

授業の位置づけ

この講義は、国際教養学科の全てのディプロマポリシーと関連し、特に「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。この授業は、Integrated Academic English I の発展の授業と位置付けられ、国際教養英語のまとめの講義となる。

授業の概要

この授業は、Integrated Academic English I の発展の授業と位置付けられる。授業では、Integrated Academic English I で学習した内容をさらに発展させ、英語で行われる講義を聴き取り、そこで得た情報を基に自分の意見を述べるレポートを作成したり、他の学生と意見を口頭で交換できる能力を身に付けることを最終目標とする。学生たちは、授業前にChapterのテーマに関わる文献や記事を探して読み、日本語でテーマに関わる背景知識を得てから参加することが求められる。

到達目標

- ・英語パラグラフ・ライティングの構成方法を理解することができる。
- ・さまざまなジャンルのパラグラフの構成方法について理解し、効果的なパラグラフを書くことができる。
- ・相手が書いたパラグラフを読んで、改善点を指摘するなど評価することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課されるライティング課題に取り組みながら、英語のパラグラフの構成方法を身につけるとともに、ある程度まとまった文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるようにする。

ICT活用

WebアプリのPear DeckやKahoot!などを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・講義理解リスニングテスト(Pre-test)を行う。”	Integrated Academic English I の学習を振り返り、講義理解リスニングテストに備える。(90分)	テストの出来を基に、自分に不足している部分を分析する。(90分)
担当教員			
第2回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】① 1. Getting Started (pp. 86-87) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・雑音がある環境下でのリスニングに取り組む。 2. Real-Life Voices (pp. 86-87) ・トピックに関わる語彙の学習とディスカッションを行う。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】② 2. Real-Life Voices (pp. 90-93) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.96-101) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、Outlineの形でノートをまとめ、理解を確認する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】④ ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、Chartの形でノートをまとめ、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】① 1. Getting Started (pp. 102-104) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・天気予報のリスニングに取り組む。 2. Real-Life Voices (p.105) ・天気現象に関わる語彙を学び、それらの現象の体験談について学生同士で議論する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】② 2. Real-Life Voices (pp. 106-107) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。 ・トピックについての“humor”を理解する。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.111-113) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、理解を確認する。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】④ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.114-116) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第10回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】① 1. Getting Started (pp. 125-127) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・昆虫、動物、植物に関わる必要な情報を聴き取る練習を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第11回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】② 2. Real-Life Voices (pp. 128-132) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.135-138) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、理解を確認する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】④ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.139-141) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第14回	Oral Presentation ・Oral presentationを行う。	Oral presentationの準備を行う。(90分)	他の学生のOral presentationと自分のものを比較し、足りない部分を分析する。(90分)
担当教員			
第15回	講義理解リスニングテスト(post-test)	14週までの授業の復習を行い、講義理解テストの準備を行う。(90分)	授業を通して、どれほど力がついていた部分と足りない部分を分析し、今後の英語学習の方法を考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題40% 単語テスト20% 講義理解リスニングテスト:20% Oral presentation: 20%
その他	0	特になし。
教科書		
Yoneko Kanaoka Academic Encounters Level 1 Student's Book Listening and Speaking 2nd edition Cambridge		
参考文献		

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際関係論				ナンバリング	1710
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この授業は「問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を下せるようにするための科目である。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」や「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、世界の理解と分析の基礎となる国際関係の諸理論と問題領域を学びながら、国際関係論の基本的な分析枠組みと言語の習得を目指し、国際関係分析の理論的枠組みの骨格をつかむことを狙いとしている。まず、国際関係論の主要理論である現実主義・自由主義や、それらに批判的な見方を紹介し、諸理論の視点から現代世界の諸問題をどのように理解することができるのか、人類が抱える具体的な諸問題を安全保障、経済、国際協力、資本主義などのテーマで具体的に検討していく。

到達目標

国際関係論の世界認識では、アクター(行為主体)間の異なる問題領域での多様な関係性の変化への理解が求められる。この授業では、学生が、安全保障、外交、開発、環境などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得することを到達目標とする。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
する国家や国際機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・導入～「世界とは何か、世界をどう見るのか？」 国際関係論の学問的使命とは、「世界」とは何か、それをどのように認識する(べきな)のか、という認識の枠組みを提供することである。グローバル化のプロセスを、どのように読み解けばいいのか、国際関係論の「理論」はその手がかりを提供する。各学生は自分の関心のある分野や問題についてプレゼンする。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	＜第1部 理論＞ ・理想主義 Idealism～戦間期と国際連盟の挫折 第1次世界大戦の反省から、世界平和は人類の宿願となり、国際連盟のような制度、規範などが整備されたが、人類は再び戦争へと突き進む。E・H・カーなど戦間期の思想をてがかりに、国際制度主義や自由主義などに影響した、理想主義の射程と限界を具体的に考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・現実主義 Realism～第2次世界大戦の痛みと記憶 国際関係論の古典的主要理論の1つで、現在も米国など大国の外交の思考様式に隠然とした影響力を持つ現実主義。Realismの射程は、主に米国で展開する。パワーの概念という国際関係論にとって主要な命題の1つをめぐって、モーゲンソーらの論考を中心に検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	・自由主義 Liberalism～多元化・経済化する世界 戦後世界が安定し、国際貿易が増大する中で、多国籍企業や国際機関などのアクターの台頭と、経済・市場分野の重要性の「政治化」は、現実主義より経済化した認識を必要とする。相互依存やトランスナショナリズムなど、自由主義の系譜をコヘインらの認識から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	・トランスナショナリズム Transnationalism～越境する現代 トランスナショナリズムは、越境する政治・経済・文化・市民・運動などを見るグローバル化の「見立て」として中心的な認識枠組みを提供する。現象と理論の両方からグローバル化を考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・グローバリズム Globalism～「下から見た世界」の構造 現実主義と自由主義の視点が、力を持った「上からの視座」であるとする、マルクス主義国際関係理論は、開発や経済的支配について「下からの視座」である南北格差の問題意識を強調する。従属論、帝国主義論などのグローバリズムの理論群を、市場と資本主義の観点から整理する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	・批判理論とその周辺 Critical Theory グローバリズムの系譜による分析が「経済主義」であるのに対して、批判理論やポスト構造主義以降の議論、特に社会構成主義やネオ・グラムシ国際関係論は、人々が持つ「概念」「常識」などの力が支配、およびその支配への申し立てに果たす役割を強調する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	＜第2部 問題領域～現実の中で理論を考える＞ ・安全保障と外交 Security and Diplomacy 現実主義から見る安全保障は軍事のことであり、自由主義の射程はそこに経済を加える。いずれも国家の安全保障を重視するのに対し、批判的な諸理論は個人や「人間の安全保障」を唱える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・環境問題 Environmental Issue 環境問題や環境汚染には国境がない。二酸化炭素の排出による、オゾン層の破壊や地球温暖化や北極海の氷の現象は、地球規模の気象メカニズムを通じて全世界に深刻な打撃を与える。知的共同体やNGO・国際機関の役割など環境問題の多面性を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	・IT技術とコミュニケーション革命 IT Revolution of Communication グローバル化の特徴として情報技術の飛躍的進歩による、世界のシンクロ化が挙げられる。米国の軍事技術から出発したインターネットは、国際NGOのようにこれまで国境で区切られていた市民とその運動をつなぎ、同時に、テロリストの広がりも助けていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	・グローバル市場 Global Market 情報化によって最も恩恵を受けた領域は経済、特に金融を中心としたグローバルな市場である。国家や社会は相当程度市場化され、グローバル市場を経由して瞬時に連結する。現代のガバナンスのメカニズムにおいて、台頭する経済権力や権威に着目する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・南北格差と開発 Division and Development 開発援助の分野ほど、多様なアクターが複雑に絡み合う問題領域もないかもしれない。先進国・途上国・国連・NGO・多国籍企業…異なる利害と立場が交錯する開発の領域を事例に、現代の国際関係のダイナミズムを検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	・文化の力 Power of Cultures とかく軍事と経済のいわゆるハードな問題に偏りがちな国際関係論にあって、文化の問題は比較的新しく魅力的で、同時に悩ましい領域である。アイデンティティーに深く関わりを持つ、言語、民族、宗教などのネットワークは、理論が考えるよりも大きな世界変化の動因となっていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	＜第3部 あなたの国際関係論＞ ・小論文による理解度と応用力の確認 国際関係論において、どの理論が一番大事であるとか、どの問題領域が最重要である、ということはありません。何をどう選び、あるいは組み合わせ、世界のどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学んだか、考えたのか書く。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～「わたしたちの国際関係論と世界」 学生の皆さんから出された、いろいろな形の国際関係論から、私たちが世界をどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

授業テーマに関連する文献や資料を、各授業で適宜指示。

Kauppi, Mark V. and Viotti, Paul R. (2023) International Relations Theory (7th ed), Rowman & Littlefield Pub.

(邦訳: (ウェッセルズ、石井 共訳)『国際関係論: 現実主義・多元主義・グローバリズム』彩流社)

履修条件・留意事項等

本授業は1年次の必修科目である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		経済と社会				ナンバリング	1722
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	南川 高範						

授業の位置づけ

「この科目は国際政治経済の特に経済学系科目の入門科目であり、ディプロマ・ポリシーでは「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。」(知識・技能)に最も深く関連するが、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。」(思考・判断・表現)にも強く関連するものであり、多くの科目で使う経済学の基礎知識を学ぶ科目である。」

授業の概要

この授業は、国際教養学科の学生がグローバルな課題や、その課題を分析する社会科学の学習をする上で知っておくべき経済学の基礎知識をわかりやすく解説する講義科目である。資本主義や市場経済のあり方が社会生活の基盤の1つであることから、経済学や経済の基本的概念を習得することにより、経済現象と社会の関係性を自ら理解し考えるのに必要な視点を身につけることを目的にする。本講義では、現実の社会経済の事例や現実についても取り上げる。

到達目標

- ・ものを売り買いするすべての人間が教養として備えているべき経済について、正しく理解できていることを目指す
- ・新聞やテレビなどのマスメディアで報じられている、多くの人間が共有していることが前提となっている世の中の出来事を「知っている」だけではなく、自分事として「理解している」ための理解力を身に着けることを目指す
- ・報道を自分事として理解できることで、世の中の趨勢や将来の予測を立て、意見をもつための思考力を身に着けることを目指す

授業の方法

授業形態は、「スライド形式のファイルの提示によるプレゼンテーション」、「オンラインポータルサイト(Google Classroom)で小テスト付の課題による受講姿勢の評価」、「第15回の筆記試験形式の小テストによる理解度の評価」により行う。スライド形式のプレゼンテーションファイルは、PDF形式でオンラインポータルで共有し、事後学習で活用できるようにする。小テスト付の課題は、オンラインでの提出とし、筆記試験は対面で行うことに注意すること。

ICT活用

小テスト付の課題は、講義内で提出を課するため、スマートホンかタブレット、ラップトップ型コンピュータ(ノートパソコン)のいずれかを準備すること。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の解答は自動的に表示されるものをもって、フィードバックとするが、不明な点がある場合は講義の前後に積極的に質問に来ることを歓迎する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義タイトル「ガイダンス・経済とは何か」 ガイダンスパートでは、シラバスの内容を中心に、講義資料の共有の仕方や成績評価の方法、講義を通じて理解してもらいたい内容について説明する。 講義パートでは、経済についての直感的なイメージと経済の本質の乖離(ギャップ)を認識することを目指す。	シラバスの内容を理解しておく(90分)	講義で聞いたことがない語句が出てきたら、記録しておく(90分)
担当教員			
第2回	講義タイトル「マクロ経済」とは何か 経済学には、ミクロ経済学とマクロ経済学があるが、この講義では「国際経済の中の日本」ということを理解することが一つの目標であるため、マクロ経済学の理解を必要とする。ミクロ経済学とマクロ経済学の違いは、主語の違いであり、どのような違いかを説明していく。	ミクロ経済学とマクロ経済学について簡単に語句を調べておく(90分)	事前に調査しておいたことと、講義内容の突合せを行う(90分)
担当教員			
第3回	講義タイトル「誰かの支出は誰かの所得になる」 マクロ経済学の本質について、「誰かの支出は誰かの所得になる」という内容を扱っていく。このことばを理解することで、お金を使う人がたくさん増えるとお金を失って貧しくなる人が増えるの「ではなく」、景気がよくなってお金持ちが増えるという不思議な現象が起こることを理解できる。	「景気がよい」とはどのような状態かを簡単に調べておく(90分)	「誰かの支出は誰かの所得になる」とはどういうことを人に説明できるようになることを目指す(90分)
担当教員			

第4回	講義タイトル「付加価値」 この講義ではGDPについて説明していく。「GDPとは何か」、「GDPはなぜ重要なことばなのか」、「GDPの三つの計算方法」、「三面等価の原則」といういくつかの視点から、GDPについて理解していくことを目指す。	事前にGDPについて調べておく(90分)	三面等価の原則を人に説明できるようにすることを目指す(90分)
担当教員			
第5回	講義タイトル「有効需要: 消費」 有効需要ということばを理解することで、経済が動く仕組みについての理解を深める。この講義では特に消費ということばを理解し、ケインズのマクロ消費関数について説明していく。	有効需要ということばについて事前に調べておく(90分)	マクロ消費関数に関する専門用語が多く出てくるので、記憶しておく(90分)
担当教員			
第6回	講義タイトル「有効需要: 投資」 有効需要ということばを理解することで、経済が動く仕組みについての理解を深める。この講義では特に投資ということばを理解し、企業が行う支出をなぜ投資とよぶのか、投資はどのような条件の下で実行可能になるのかについて説明していく。	消費についての基本的な内容を復習しておく(90分)	消費と投資の本質的な違いを人に説明できるようにすることを目指す(90分)
担当教員			

第7回	講義タイトル「財政の3機能」 有効需要の構成要素である政府支出を理解する前段階として、財政の三つの機能について理解することを目指す。	政府の役割について、あらかじめ自分なりに考えておく(90分)	財政の3つの機能を記憶し、特に経済安定化機能については、人に説明できるようになることを目指す(90分)
担当教員			
第8回	講義タイトル「財政政策」 財政の3機能を果たすために政府が採り得る手段と、その仕組みについて説明していく。「公共事業は何のために行うのか」、「税金は何に使われることが想定されるのか」、「政府が採り得るもう一つの手段である政府移転支出とは何か」について説明していく。	財政政策ということばについて、事前に調べておく(90分)	政府が採り得る三つの手段について、整理しておく(90分)
担当教員			
第9回	講義タイトル「有効需要: 輸出・輸入」 有効需要ということばを理解することで、経済が動く仕組みについての理解を深める。この講義では特に外国経済が国内の経済を左右する方法について説明していく。輸出や輸入によって、有効需要はどのように変化し、それにより誰かの所得はどのように左右されるのかを理解することを目指す。	輸出は誰の支出であるかを理解しておき、有効需要をどう左右するか理解しておく(90分)	有効需要の構成要素を整理しておく(90分)
担当教員			

第10回	講義タイトル「為替レートとは何か・為替レートを左右する要因」 有効需要と国内の豊かさの関係、外国経済との関わりを理解したうえで、輸出を左右する要素である為替レートについて理解していくことを目指す。円安や円高の効果により、国内の誰が得をして、誰が損をするのかについて説明する。また、今回の講義とあわせて為替レートを左右する要因についても説明する。	為替レートということばについて、事前に調べておく(90分)	為替レートについて、事前に調べた内容と講義の内容を突き合わせる(90分)
担当教員			
第11回	講義タイトル「為替レートを左右する要因」 為替レートを左右する要因である金利平価、経常収支、購買力平価について説明したうえで、それぞれが為替レートを左右する仕組みについて説明する。	金利、利上げ、利下げということばについて事前に調べておく(90分)	為替レートが動く仕組みを理解したうえで、現在の円安の理由がどこにあるのかを考えてみる(90分)
担当教員			
第12回	講義タイトル「関税」 関税ということばについて説明していく。「関税とは何か」、「関税を上げると誰が得をするのか」、「関税を上げると有効需要はどのように変化するか」という視点から、関税を理解していく。	関税ということばについて、事前に調べておく(90分)	関税についてよいと思うところ、悪いと思うところを整理しておく(90分)
担当教員			

第13回	講義タイトル「貿易戦争」 関税が国際経済においてもつ意味について、「貿易戦争」という視点から説明していく。米国の現大統領の貿易政策の意図を推し量るために、1980年代の日米貿易摩擦や、2017年の米中貿易戦争の内容を参照する。	米中貿易戦争について事前に調べておく(90分)	関税についてよいところ、悪いところを再度整理しておく(90分)
担当教員			
第14回	講義タイトル「国際社会の中の日本」 経済学の独特な考え方の一つである有効需要という視点から、国際経済の玄関口までを導入する講義全体を概観し、この講義のまとめとする。また、次回の講義で行う対面筆記試験についても説明する。	講義全体で、わからない語句を整理したものを質問できるようにしておく(90分)	筆記試験の範囲について、特に入念に復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	筆記試験実施 実施の方法については第14回講義で説明するが、受講者数や座席の配置などを考慮して実施方法を決定する。	講義全体を通じて、内容を復習しておく(90分)	わからなかった内容については、ノートの記録などを確認しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	内訳は小テスト付課題(全12回)で60点、筆記試験形式の確認テストで40点とする。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
なし
備考欄
なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際教養入門				ナンバリング	1700
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

この科目は、「国際教養科目」の導入科目として、社会科学や地域研究のアプローチについての概略と基礎的理解を深めるための科目である。ディプロマ・ポリシーでは「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。(知識・技能)に最も深く関連するが、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能にする国際性や共感力」や「生涯にわたって学び続ける意欲」を育てるといった幅広く各項目に連関する科目である。

授業の概要

この授業は、国際教養を学び培っていくにあたり、今後の学びの全体を俯瞰し学習の見取り図を提供する科目である。具体的には、特に国際教養学科の国際教養科目で扱う社会科学の各分野や各地域論、各国研究の内容を一通り紹介しつつ、それらを学ぶ意義や研究の目的や面白さなどについて、本格的な社会科学や地域研究が初めての学生に講義するものである。この講義により、学生はこれからの国際教養学科での学びをイメージしやすくなり、興味・関心の幅が広がることを目的としている。

到達目標

1. 大学における学びは、これまでの初等・中等教育で受けてきたものとは、質的に異なることを理解する。
2. 国際社会においては、多様な文化や価値観が存在するが、その基礎に共通理解の基盤となる知識や思考方法があり、それが「教養」というものであることを理解する。
3. 知識や情報には、根源的なものと枝葉になるものがありことを学び、ものごとの本質を極めようとする方法論こそが「学問」であり、人類の進歩は方法論的に洗練された知識の体系化がもたらされたのであるということに触れ、自ら学ぶ意欲を高める。
4. 各受講者の今後4年間の学修の方向性について考え、ある程度の指針を持つ。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式を基本とする。
これまでの基礎知識の確認をするための小テストを随時行う。

ICT活用

Google classroomを適宜利用する。ネット上の報道発表資料も随時引用する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)において10年の外交交渉、国内における政策形成、法案準備、政府予算案作成業務経験をもとに、日米の政治の現場経験、欧州における国際会議への多数の出席を踏まえ、事例紹介を行いながら授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じた課題の提示、小論文の提出及びそれに対するフィードバックを随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション 大学とは何か、どんなところか 1. 大学の歴史 2. アメリカにおける大学の発展 3. 日本における大学の歴史	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	第1章「教養」とは何か 1. グランゼコールにおける教養教育 Jean-François Braunstein『グランゼコールの教科書 フランスのエリートが習得する最高峰の知性』プレジデント社 2022 なぜこういうことがフランスの知性に必要な知識だと考えられているのか考えてみよう 2. フランスという国の特殊性 福井憲彦『教養としての「フランス史」の読み方』PHP研究所 2019	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	第2章 はじめにことばありき 1. 文字の歴史 Georges Jean『文字の歴史 (知の再発見双書 1)』創元社 1990 2. ことばと文字 3. ラテン語と欧州諸語	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	第2章 はじめにことばありき 4. 国語と国民国家 5. 社会主義国家建設と国語 6. 日本国家と日本語 イ・コンスク『「国語」という思想—近代日本の言語認識』岩波現代文庫 2012	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	第3章 国民と国家 1. 帝国の国家概念 2. 近代国民国家 3. 復習 ヨーロッパ史	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	第3章 国民と国家 4. 国民国家と帝国主義 5. 国際社会と国際法	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	第4章 民主主義と権威主義 1. 革命と体制変動 2. 民主主義とファシズム 3. 開発独裁と権威主義	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第5章 経済成長と自由主義 1. 国民経済と王室財政 2. 産業革命と重商主義	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	第5章 経済成長と自由主義 3. 社会主義と国際主義 4. 国家資本主義と産業政策	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	第6章 特殊の帝国:アメリカ合衆国 1. アメリカ合衆国史概説 2. 民主主義の帝国 3. 覇権国としてのアメリカ 4. 理念の帝国としてのアメリカ	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	第7章 東洋の神秘:日本 1. 日本特殊論 2. 世界の中の日本	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	第8章 挑戦者たち 1. ソビエト連邦という実験 2. 中国の復讐	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	第8章 挑戦者たち 3. アジアの雁行型発展 4. 第三世界あるいはGlobal South 5. 革命運動のGlobal Network	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	第9章 美の教養 1. 絵画と医療 Johan Huizinga 『中世の秋』中公文庫 1976 2. 絵画と政治 Linda Nochlin 『絵画の政治学』ちくま学芸文庫 2021 3. 絵画と経済 S. N. Behrman 『画商デュヴィーンの優雅な商売』筑摩書房 1990	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	第9章 美の教養 2. 美食の教養 浜田岳文 『美食の教養 世界一の美食家が知っていること』ダイヤモンド社 2024	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。 期末課題を作成すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への出席態度及び参加度 40% 中間課題課 30% 期末課題 30%
その他	0	なし
教科書		
教科書は特に指定しないが、各回の講義の元となる参考文献を紹介していく。		
参考文献		

現時点で予定しているものは、以下のとおり。

Jean-François Braunstein『グランゼコールの教科書 フランスのエリートが習得する最高峰の知性』プレジデント社 2022

Christophe Charle『大学の歴史』白水社(クセジュ文庫)2009

天野郁夫『大学の誕生』中公新書 2004

福井憲彦『教養としての「フランス史」の読み方』PHP研究所 2019

Georges Jean『文字の歴史(知の再発見双書 1)』創元社 1990

水村美苗『増補版 日本語が亡びるとき』ちくま文庫 2015

今野元『ドイツ・ナショナリズム「普遍」対「固有」の二千年史』中公新書 2021

Johan Huizinga『中世の秋』中公文庫 1976

Linda Nochlin『絵画の政治学』ちくま学芸文庫 2021

S. N. Behrman『画商デュヴィーエンの優雅な商売』筑摩書房 1990

浜田岳文『美食の教養 世界一の美食家が知っていること』ダイヤモンド社 2024

履修条件・留意事項等

本授業は国際教養学科1年次の必修科目である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		日本政治経済論				ナンバリング	1740
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、国際学部国際教養学科のディプロマ・ポリシー「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)。」等に関連する。国際教養学科に多く存在する政治系科目の一年生科目として「政治学入門」の役割も担い、ディプロマ・ポリシー「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)」につながる複眼的な眼差しというものを体感してもらう。この科目は地域未来学科でも開講しており、地域未来学科のディプロマ・ポリシー「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」に特に関連している。

授業の概要

本科目は、世界の変化や現象をどのように分析するのかを学んでいくにあたり、その出発点として、現代の日本の政治についての基本的な知識を習得するための科目である。具体的には、日本の現代政治を主題としながら政治学の基本的な理論、観点を修得し、現代日本政治の特徴について、近代から現代に至る歴史的変遷を踏まえ、実証的に考察する力を養う。

到達目標

受講生は、
 ① 自ら関心を持つ政治分野をいくつか特定して現代の動きをフォローするようになる。
 ② その分析について必要な理論的枠組みの概要について、基礎的な知識を得る。
 ③ 自らの見解を持つために必要な情報を、どのような形で(新聞、テレビ・ラジオ、ネット等から)収集し、どのような基準で取捨選択すべきかを判断し、解決策を主体的に提示できるようになる。
 以上を到達目標とする。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行う。受講生の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を行う。

ICT活用

Google Classroomにより、授業外においても日々のマスコミ情報の補充等を行うとともに受講生との対話を行う。また関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする外交交渉の現場だけでなく、日米における政策決定過程に関与した経験および日本政治の実践に関わった経験を交えたエピソードも適宜紹介しながら、受講生の問題への関心を高める工夫をする。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での積極的なディスカッションを称揚するほか、講義期間中2回程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握し、ケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 1. 政治学とは何か 2. 政治学の学び方 3. 参考文献リストの使い方 4. 受講生の心得	シラバスを読み、自らの関心を明確にしつつ、指定された参考文献を読んでおくこと。(90分)	配布プリントや参考文献を読了し、講義の内容をノート等で復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1章 権力と支配 0. みんなの知ってる「〇〇」は「ブラック企業」か？ 1. 「権力」 (1) 権力の構成要素 (2) 権力の行使の態様 (3) 権力関係の類型 (4) 権力と権威 (5) 「〇〇」について考える	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	第2章 「政治」と「国家」 1. 「政治」 (1) 「政治」現象の範囲 (2) 「政治」の定義 2. 「国家」観の歴史 (1) 古代における「国家」 (2) 中世における「国家」 (3) 近世における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ジャック・ル＝ゴフ(菅沼潤訳)『ヨーロッパは中世に誕生したのか？』藤原書店 2014	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	第3章 欧州世界における「国家」 1. ヨーロッパとは何か～中世後期の欧州世界 2. ルネッサンスと国民国家形成 3. 絶対主義国家	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 高校世界史(できればB)教科書で、欧州中世から近代に至る過程を復習しておくこと。 高校時代世界史を受講しなかった受講生は、『世界の歴史』編集委員会編『新 もう一度読む山川世界史』山川出版社 2017の該当箇所を読んでおくこと。	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	第4章「国家観」の近代 1. ドイツ国家論 2. 社会主義への道 3. マルクスとマルクス主義による批判 4. 20世紀アメリカ政治学と実証主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) Roman Szporluk, Communism and Nationalism: Karl Marx versus Friedrich List, Oxford UP. 1993	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	第5章 現代政治学における「政治」と「国家」 1. 民主主義と権威主義 2. 「発展段階説」と「革命」 3. 「第三世界」と「Global South」における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (1) 明治維新の構造 (2) 「密教」としての大日本帝国憲法と「密教」としての教育勅語 (3) 帝国議会と立憲主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 藤田省三『天皇制国家の支配原理』みすず書房 2012 または市川弘正編『藤田省三セレクション』平凡社 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (4) 大正デモクラシー (5) 日本型ファシズム 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社 2010 苅部直『丸山眞男ーリベラリストの肖像』岩波新書 2006	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む 3. 戦後日本の天皇制 (1) 新憲法における象徴天皇制 (2) 戦争責任論 (3) 現代日本における天皇の役割	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 安丸良夫『近代天皇像の形成』岩波現代文庫 2007 山本雅人『天皇陛下の全仕事』講談社現代新書 2009 古川隆久『昭和天皇「理想の君主」の孤独』中公新書 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	第7章 フェミニズムと日本政治 1. 上野千鶴子「東大入学式祝辞」を読む 2. 女性のいない日本政治 3. 政治学とフェミニズム	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 上野千鶴子「平成31年度東京大学入学式祝辞」 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019 安藤優子『自民党の女性認識 イエ中心主義の政治志向』明石書店 2022 岡野八代『ケアの倫理ーフェミニズムの政治思想』2024	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	第8章 民主主義の制度 1. Poliarchy 2. 議会	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ロバート・A・ダール(高島通敏・前田脩 訳)『ポリアーキー』岩波文庫 2014	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	第8章 民主主義の制度 3. 体制変動における議院内閣制と大統領制 4. 首相公選制	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	第8章 民主主義の制度 5. 政党 (1) 政党の役割 (2) 政党組織の分類学 (3) 政党システム～選挙区制と政党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子『現代の政党と選挙』有斐閣アルマ 新版 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	第9章 日本における政党政治 1. 大正デモクラシーと憲政の常道 2. 自由民主党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 井上寿一『政友会と民政党 戦前の二大政党制に何を学ぶか』中公新書 2012	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	第10章 日本における政党政治 3. 「野党」論 まとめ 日本政治における「学び」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 吉田徹『「野党論」何のためにあるのか』ちくま新書 2016	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。さらに、期末課題を作成すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度・出席態度 40 % 中間課題 30 % 期末課題 30 %
その他	0	
教科書		
北村俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学』有斐閣アルマ		
参考文献		

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『補訂版 政治学』有斐閣 2011
 佐々木毅『政治学講義』第2版 東京大学出版会 2012
 政治学の教科書として前者は標準的なものであり、手元に置いて用語集のように利用してほしい。後者は現時点でも日本語で書かれた最高水準の内容である。購入して手元におき、本講義はもとより日々のマスコミ等に接しての疑問に思ふ事項を検索するようにしてほしい。
 日本については、
 京極純一『日本の政治』東京大学出版会 1983
 かなり古くなったが、日本政治の古層に岩盤のように維持されている構造を現時点においても、最もよく分析している本の一つ。変わらない日本の組織のあり方に絶望すればするほど、深く納得させられる分析が随所に見られる。「オトナ」にならないとこれは理解されないことかもしれない。

履修条件・留意事項等

大学生としての出発点として、政治学・政治過程論の基礎概念の解説を行いながら、受講者の関心を反映することを検討するのであって、扱ってほしい課題のリクエスト等、積極的に参加してほしい。
 なお、2025年の参議院選挙を経て日本の政治の中心課題が大きく変わりうるので、扱う内容を一部変更することはありうるので、日々の政治報道に注目してほしい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国内外事情				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

「国内外の政治・経済事情を学ぶことで、世界情勢を客観的に理解・分析できる能力を育成するための科目である。具体的には①各専門分野の学習に必要な基礎学力(知識・技能)、②自分の考えをわかりやすく説明できる能力(思考・判断・表現)、③課題解決に必要な思考力の基礎(思考・判断・表現)を育成する。ディプロマ・ポリシーとの関係では、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(思考・判断・表現)」に最も深く関連し、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し、分析することのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)」の項目の基礎を形成するものである。」

授業の概要

本講義は、新聞に掲載されている記事を読み、グループ討議を行った上で、全員で記事を解釈を行う。グローバル化する現代社会もたらす様々な出来事を分析することで、世界で起こっている課題に対する理解を深めることができる。そのため、最近の新聞記事を事前に学生に提示し、関連する情報を事前に収集して授業にのぞむ。

到達目標

世界で起きている紛争、金融政策、経済問題、格差問題などの事象について、その背景や問題点を理解することができる。新聞記事について関心を持ち、新聞をよむことに対する抵抗感をなくすことができる。

授業の方法

授業において、新聞記事を読みながら、各記事が掲載された各国の文化的、政治的、経済的な背景を分析する。このため、課題の提出等を通じて学生の能動的な学修を促す。

ICT活用

PC、タブレット端末などを活用した授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

指導教員は、JICAに約30年勤務し、その間、外務省に出向し国際協力の政策策定、JICA事務所勤務(中国、インドネシア、マレーシア、スリランカ)勤務、青年海外事務局次長等を経験した経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容の理解を確認するために、授業中にミニレポートの作成を求めることがある。各種レポート課題を評価し、コメントを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	日本経済に関する記事を取り上げる。	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第2回	地域開発に関する記事を取り上げる。	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第3回	教育に関する記事を取り上げる	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90)
担当教員			

第4回	投資に関する記事を取り上げる	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第5回	国際関係に関する記事を取り上げる	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第6回	政治に関する記事を取り上げる	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第7回	文化に対する記事を取り上げる	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第8回	スポーツに関する記事を取り上げる	同記事の背景や関連することがらについて、他紙及びHPなどで情報を収集する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	提起試験は行わない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	
その他	0	
教科書		
新聞記事のコピーを配布する		
参考文献		
履修条件・留意事項等		

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際的視野から見るスポーツ医学の発展				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	當瀬 規嗣						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーにある「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や教共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」に関連づいている授業内容である。世界のいてスポーツ医学は知識の集積がすすみ、治療法に大きな転換が起こっていることを指摘し、日本においてその転換に遅れが生じていることを指摘し、改善方策を考えることを目的としている。

授業の概要

スポーツにおいて起こりやすいトラブルである筋肉疲労、筋肉痛、全身疲労の最新の理解を解説し、よりよい対処法を提示する。この知識をもとに、オーバートレーニング症候群を避ける方策も追及する。

到達目標

スポーツ外傷の主なポイントである疼痛に対する対処法を理解する。

授業の方法

講義形式で行う。パワーポイントにより図表など提示し、それを説明を加えていくことで進めていく。パワーポイントのファイルは事前に配布する。出席は授業内で示すキーワードの返信することで確認する。

ICT活用

資料配布や出席確認は、Web上で行われる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

講義終了後、レポートを提出させ、評価する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	スポーツ外傷、とくにオーバーユースについて	スポーツ医学の内容を確認(30分)	オーバーユースを理解する(30分)
担当教員			
第2回	筋肉痛について 筋線維損傷、肉離れ、遅発性筋肉痛について	痛みのしきみを確認(30分)	筋肉痛を説明できる(30分)
担当教員			
第3回	炎症のしきみ 炎症と発痛の関係	炎症を確認する(30分)	発痛機構を説明できる(30分)
担当教員			

第4回	冷却法と温熱法 冷却法の問題点、温熱法の利点	筋肉の冷却法の確認(30分)	温熱法の利点を説明できる(30分)
担当教員			
第5回	筋肉のハリを解説する	筋肉の構造を確認(30分)	筋肉のハリと損傷の違いを説明できる(30分)
担当教員			
第6回	肉体的疲労と精神的疲労 違いを説明する。疲労物質の存在を考える。	乳酸は疲労物質でないことを確認する(30分)	疲労の最新知見を確認する(30分)
担当教員			

第7回	疲労からの回復過程、睡眠の重要性 オーバーユース症候群について	休息の重要性を確認(30分)	オーバーユース症候群を説明 できる(30分)
担当教員			
第8回	プロ野球、MLBとNPB それぞれの問題点	MLBのスポーツ外傷を確認(30 分)	適した損傷への対処法を説明で きる(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	20	出席状況を確認
その他	80	レポートを提出する
教科書		
なし		
参考文献		
図解入門 よくわかる生理学の基本としくみ」 當瀬規嗣 秀和システム刊		
履修条件・留意事項等		

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際社会と医療				ナンバリング	1730
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	大森 圭						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い国際教養を身につけている。(思考・判断・表現)」と最も関連する科目 である。日本と諸外国の医療、介護、福祉に焦点をあて様々な社会的背景から各国の特徴や問題点を理解し、国際社会の未来に向けての理想的な医療、介護、福祉のあるべき姿を考察する。							

1. 現代日本の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度の現状を理解し、その諸問題を説明することができる。
2. 日本と諸外国の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度を比較し、その特徴や違いを説明することができる。

授業の方法

各種メディアを利用した座学・講義である。
講義中に提示する課題を実施し、講義毎に提出させる。

ICT活用

必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当者は理学療法士としての臨床経験や臨床研究を基に本講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義毎に提出された課題について、必要に応じてフィードバックを行う。また、随時、質問を受けつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 日本の医療保険制度を理解する。	日本の医療保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	テーマ:医療(医学)の歴史と特徴(講義・GW) 内容:・医療(医学)の歴史 ・医療と医学の特徴と違い 行動目標: ・医療(医学)の歴史が理解できる。 ・医療と医学の比較から各々の特徴が説明できる。 GW:医療現場のイメージ 小レポート:当日、授業で提示する。	医療と医学の言葉の意味を調べてノートに記載する(90分)。	・行動目標の自己評価を行う。・本日の講義まとめをノートにまとめる(90分)
担当教員			
第3回	テーマ:日本の介護保険制度を理解する(講義・GW) 内容:・日本の介護保険制度の歴史 ・医療保健と介護保険 行動目標: ・日本の介護保険制度の歴史が理解できる。 ・医療保険と介護保険の違いから各々の特徴が説明できる。 GW:日本の介護保険制度の特徴 確認レポート:医療保険と介護保険の違い	日本の医療保健と介護保険の言葉の意味を調べてノートに記載する(90分)。	本日の講義まとめをノートにまとめる(90分)
担当教員			

第4回	諸外国の介護保険制度を学習し、日本との違いを理解する。	学生自身が興味を持っている国の介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	日本における地域リハビリテーションの現状を理解する。	日本の地域リハビリテーションについて調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	諸外国における地域リハビリテーションについて学習し、日本との違いを理解する。	学生自身が興味を持っている国の地域リハビリテーションについて調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	テーマ:日本の社会保障制度と諸外国の比較(講義・GW) 内容:・諸外国の社会保障制度の特徴 ・日本と諸外国との社会保障制度の違い 行動目標: ・諸外国の社会保障制度が理解できる。 ・日本と諸外国の社会保障制度の違いが説明できる。 GW:各国の社会保障制度の長所 確認レポート:日本と諸外国との社会保障の違い	関心をもっている国の社会保障制度についてノート等にまとめる(90分)。	本日の講義まとめをノート等にまとめる(90分)
担当教員			
第8回	まとめ 日本および諸外国の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度が未来の社会にどのような影響を与えるのかについて考察する。	本科目の1～7回の講義を総復習しておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業中の課題
その他	20	授業への参加態度や発言の内容を評価する
教科書		
特に指定しない		
参考文献		
特に指定しない		
履修条件・留意事項等		

授業には積極的に参加すること

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		開発援助論				ナンバリング	2726
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目である。

授業の概要

この授業は、世界の多様性と共生・協働を理解するために、国際協力や開発援助と呼ばれている分野を中心に、そこで活動する国家、国際機関、NGO、企業などの役割や相互関係を学習する。国際協力をより立体的に理解するために、(1)背景としての貧困や紛争などの南北格差の現実(2)開発の手段としての政府ODAや国連のイニシアチブ(3)NGOのネットワークによるボランティア活動の展開、の3点を軸に国際協力のアクターと活動がもつ可能性と限界を、理論と事例の双方から包括的に検討する。また、多様な地域の現場の問題や活動などをとりあげ、日本のNGOや国内ボランティアも取り上げる。

到達目標

この授業では、以下に掲げる項目への行動変革を目標とする。

- ・開発途上国が抱える基本的な課題を理解、分析し、論理的に説明することができる。
- ・国際社会の一員として、グローバルイシュー(貧困、環境破壊等)の議論に参加できる。
- ・将来における自身のキャリア形成において、「社会貢献」「国際協力」「開発援助」の要素を高め、何らかの行動ができる。(例 SNSでの支援の呼びかけや、国際協力の様々な自主的な活動を目指す等)

授業の方法

授業で取り上げるテーマについて事前に調べ、予習すること。授業後、授業の内容を整理し、自分の考えも交えて内容をまとめる。授業内容を理解できたのか、授業後レポートの作成を求め、評価する。条件が整えば、JICA北海道(札幌)が実施するプログラムの参加や、その施設利用も検討している。

ICT活用

PC、タブレット等を使用し、スライド、動画を多く使用する。

実務経験のある教員の教育内容

指導教員は、JICAに約30年勤務した経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容の理解を確認するために、授業中にミニレポートの作成を求めることがある。各種レポート課題を評価し、コメントを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 開発援助に関わる現状を概説する。初回では、授業計画を調整するため、出席者の意見、考えを積極的に求める。	なぜ、この授業に出席するのか？その目的意識を明確するため、事前に課題・問題を整理すること。また可能であれば、自分の将来のキャリア形成におけるこの授業の位置づけを明確にする。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第2回	開発援助の歴史的背景とSDGs 開発途上国やグローバル・サウスを理解した上で、開発援助の基礎を解説する。現在の潮流「SDGs」も交えて、適切な援助について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第3回	国際機関・政府の国際支援 世界銀行、国連等の国際機関を取り上げ、そのあり方、取り組みについて理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第4回	JICAの概要と取り組み 独立行政法人国際協力機構(JICA)の概要を紹介し、その取り組みについて学ぶ。可能であれば、JICAからゲストスピーカーを招待する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第5回	NPO/NGOの意義と活動 国際的なNGOや日本国内のNPO/NGO等の活動を取り上げ、幾つかのNGOの存在と活動について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第6回	民間企業における社会貢献活動 企業活動をする上でSDGsへの配慮が重要になりつつある現状について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第7回	貧困と飢餓を考える(SDGs1-2) SDGs1-2について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第8回	健康と教育を考える(SDGs3-4) SDGs3-4について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第9回	ジェンダー問題と水の問題を考える(SDGs5-6) SDGs5-6について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第10回	エネルギー問題と経済成長を考える(SDGs7-8) SDGs7-8について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第11回	技術革新と不平等を考える(SDGs9-10) SDGs9-10について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第12回	街づくりと製造責任を考える(SDGs11-12) SDGs11-12について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第13回	気候変動と海の豊かさを考える(SDGs13-14) SDGs13-14について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第14回	陸の豊かさと平和を考える(SDGs15-17) SDGs15-17について、その問題の本質について解説を行います。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第15回	開発援助と未来 これまで学んできた内容をまとめ、自分なりの「開発援助の未来」について、学生達が自由に意見を述べる授業とする。 また、今後のキャリアプランについて意見交換する。	最終レポートの作成(60分)	最終レポートの内容を見直し、最終レポートを完成させる。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業への参加度や授業内で出される課題への取り組み姿勢、出席態度を総合的に判定
その他	50	最終レポート
教科書		
参考文献		

渡辺俊夫『開発経済学入門 第3版』東洋経済新報社 2010

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際経済学				ナンバリング	2722
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中山 大将						

授業の位置づけ

北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)

授業の概要

この授業は、国と国との経済関係によって生じる問題について考察する学問です。この授業では、グローバル化が進む現代の経済情勢を理解するために必要な国際経済学の知識を身につけることを目標とします。具体的には、マクロ経済学の基礎を学習した後に、戦後の自由貿易、自由経済のいわゆるブレトンウッズ体制における経済の変遷と経済統合EC及びEU、FTA(自由貿易協定)、TPP(環太平洋連携協定)等の協定の意義について考察します。

到達目標

自ら関心を持った課題につき、統計資料等を用い問題の構造を分析し、的確な政策的処方箋をまとめ、国際的共通言語である国際経済学の枠組みにもとづいて発信できる能力を養います。

授業の方法

- ①反転授業の形態をとりますので、参加者は事前学習(準備学習)として事前学習資料や教科書を事前にしっかり読み、自分でノートを作っておくことが求められます。
- ②毎回、事前課題と事後課題をGoogle のClass room(クラスコード:xabthwa)から提出することが求められます。
- ③授業では、事前学習資料や教科書のほか、参加者の提出した事前課題や事後課題も教材として用います。
- ④授業は、教員による解説の場と言うよりも、参加者の質問に回答したり、参加者が学習内容を理解できているかを確認する場として使います。
- ⑤授業では、教員が参加者に発言を求めます。

ICT活用

インターネット上の資料を適宜参照する他、Google Classroomを通じた双方向コミュニケーションで補充する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

- ①提出された事前課題・事後課題の内容については授業で教材として使います。
- ②授業最終回以後に提出期限のある事後課題やレポート試験課題については、成績確定後にClass room上で解説を行なう資料を公開します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	なぜ学ぶのか？ ①人はなぜ学ぶのか？ ②なぜ大学で学ぶのか？ ③なぜ国際経済学を学ぶのか？ ④この科目の額種の仕方 ⑤教科書の読み方	合計90分 ①第01回事前学習資料を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②第01回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計90分 ①第01回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第2回	経済学の考え方 ①なぜ人は働くのか？(生産、消費、家計、効用) ②なぜお金でモノが買えるのか？(貨幣) ③なぜ価格は変わるのか？(需要、供給、市場) ④なぜ銀行があるのか？(貯蓄、投資、投機) ⑤なぜ税金を納めなければならないのか？(市場の失敗) ⑥経済成長とは何か？(付加価値、GDP) ⑦お金をたくさん刷ったらみんなお金持ちになれるのか？(インフレ、デフレ) ⑧なぜ不景気が起きるのか？(景気循環)	合計90分 ①第02回事前学習資料を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②第02回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計90分 ①第02回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。 ③第02回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第3回	なぜ貿易が行われるのか？(教科書第1章) ①世界と日本の貿易 ②貿易が行われる理由 ③比較優位の理論 ④新しい貿易理論	合計90分 ①教科書の第1章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第1章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第4回	なぜ政府は貿易に介入するのか？(教科書第2章) ①貿易政策の実態 ②貿易政策の経済への影響 ③保護貿易政策に関する議論 ④世界貿易体制	合計90分 ①教科書の第2章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第2章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第5回	なぜ地域統合が行われるのか？(教科書第3章) ①地域経済統合の実態 ②地域経済統合の動機および障害 ③地域経済統合の経済分析 ④地域経済統合の経済的影響	合計90分 ①教科書の第3章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第3章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第6回	なぜ海外投資が行われるのか？(教科書第4章) ①急速に拡大する直接投資 ②直接投資の動機 ③直接投資の経済的影響 ④直接投資政策	合計90分 ①教科書の第4章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第4章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第7回	どのように国際的に資金が流れるのか？(教科書第5章) ①活発化する国際資金移動 ②国際金融取引とは ③国際金融取引と経常収支・金融収支 ④国際金融取引と貯蓄・投資ギャップ ⑤国際資金移動の決定要因	合計90分 ①教科書の第5章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第5章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第8回	為替レートはどのように決まるのか？(教科書第6章) ①為替レートの動き ②為替レート決定の基本的な考え方 ③購買力平価 ④金利平価	合計90分 ①教科書の第6章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第6章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第9回	為替レートはどのように決まるのか？(教科書第6章) ①為替レートの動き ②為替レート決定の基本的な考え方 ③購買力平価 ④金利平価	合計90分 ①教科書の第6章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第7章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第10回	どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか？（教科書第8章） ①国際通貨 ②基軸通貨ドル体制 ③為替レート制度 ④通貨統合	合計90分 ①教科書の第8章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第8章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第11回	なぜ豊かな国と貧しい国が存在するのか？（教科書第9章） ①経済発展とは何か？ ②経済発展の源泉は何か？ ③多面的な経済発展の姿 ④市場・政府・コミュニティ	合計90分 ①教科書の第9章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第9章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第12回	どのようにして貧困を削減すればよいのか？（教科書第10章） ①経済発展の質的側面としての貧困 ②貧困をどう捉えるか？ ③貧困削減政策	合計90分 ①教科書の第10章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第10章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第13回	どのようにして開発援助を行えばよいのか？(教科書第11章) ①政府開発援助(ODA)とは何か？ ②ODAが経済発展と貧困削減に果たす役割 ③日本のODA	合計90分 ①教科書の第11章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第11章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第14回	どのようにして環境と開発の共存を達成するのか？(教科書第12章) ①地球環境問題 ②自然災害と貧困 ③持続可能な開発のためのレジリエンス(回復力)の構築 ④政府・国際機関と日本の役割	合計90分 ①教科書の第12章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第12章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第15回	国際経済学から見る日本・北海道の歴史・現在・未来 ①戦前の日本はなぜ領土を拡大し戦争をしたのか？ ②なぜ・どのように北海道は「開拓」されたのか？ ③どうすれば国際経済学を人生に役に立てることができるか？ ④どうすれば国際経済学を学び続けられるか？	合計90分 ①第15回事前学習資料を読む。 ②新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計90分 ①第15回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行なわない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①全回の授業への出席、事前課題・事後課題の提出:60点。 *いずれかが1回でも欠ければ0点(正当な事由による欠席・未提出の場合は特別な措置を講じます)。 ②期末のレポート試験課題:40点。
その他	0	
教科書		
浦田秀次郎ほか編『はじめて学ぶ国際経済 新版』有斐閣、2022年		
参考文献		

- ①小塩隆士『高校生のための経済学入門 新版』筑摩書房、2024年
 - ②武田晴人『日本経済史』有斐閣、2020年
 - ③桑原真人、川上淳『北海道の歴史がわかる本 増補版』亜璃西社、2018年
 - ④小磯修二、山崎幹根編『戦後北海道開発の軌跡 1945～2006』北海道開発協会、2007年
- * 高校で「公共」「政治・経済」などの科目や「日本史」などの科目を学んだ場合は、その教科書や参考書、ノートなどを用意しておきましょう。”

履修条件・留意事項等

履修条件は特にありませんが、「経済と社会」など経済学関連科目を履修しておくとう理解がしやすいです。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		比較政治学				ナンバリング	2742
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、各国の政治の多様性を理解するために、比較政治学の諸理論を活用して、具体的な欧米諸国の政治制度を理解し、説明できるようになることを到達目標とする。比較政治学は、政治的な現象や制度を比較することを通じて、政治の実態についての理解を深めることを目指す学問分野である。本講義では、まず、外国の政治について、その国の政治システム全体を捉えて、他の国と比較する方法を学ぶ。次に、関心のある領域に限定して複数の国を比較する方法を学ぶ。講義では、まず、それぞれの国の政治の特徴を、その国の独自性に注目しながら取り上げる。その上で、様々な制度の連関性を意識して、そうした特徴を形成する要素を分析し、その際には比較政治学の諸理論も活用して、政治過程のメカニズムも検討する。

到達目標

1. 受講生が、政治において「比較」という視座を持つことで複雑な問題の構造を理解することができるという体験を経験する。
2. 「比較」という行為の理論的枠組みの概要を理解する。
3. 「比較政治学」の歴史的発展過程において、標準的なモデルとされてきた欧米各国の政治史の概要を理解する。
4. 「比較政治学」において標準的に扱われている政治文化、政治システム、体制変動といった代表的な課題の分析を通じ、具体的に比較の視座から何が見えてくるかを体感する。
5. 講義期間中における最も旬な政治問題の構造を取り上げ、歴史軸と地域軸というタテヨコに幅広く眺めることを通じ、総合的、客観的、論理的に理解し、比較の方法論を理解することと到達目標とする。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行うほか、受講生の関心によってはStudy Groupによる自主的な取り組みを歓迎する。

ICT活用

必要に応じインターネット上の資料を紹介するとともに、Google Classroomを用いた双方向対話を行う。

実務経験のある教員の教育内容

日本とアメリカで高等教育を受けた上で、通商産業省(現・経済産業省)職員として、日本の政策形成過程に参加した経験と国際機関での他国との外交交渉実務を踏まえたケースを紹介しながら、特にアメリカにおけるComparative Politicsの方法論を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中小課題を課し提出物に対する講評を行うとともに、Google Classroomを利用した情報提供とフィードバックを適宜行う他、期末課題の提出を求め評価とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. Introduction: 何を比較するのか？	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(20分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(20分)
担当教員			
第2回	2.比較政治学の系譜 (1) 政治体制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	2.比較政治学の系譜 (2) 政治文化	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第4回	2.比較政治学の系譜 (3) 政治社会	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	2.比較政治学の系譜 (4) 政治発展	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	2.比較政治学の系譜 (5) 政治変動	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第7回	3.Case Study ① 議院内閣制と大統領制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	3.Case Study ② 選挙制度と政党	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	4.リベラリズム	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	5.日本における政権交代と政界再編	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	6.代議制	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	7.権威主義と独裁	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	8.デモクラシー (1) ナショナリズムとアイデンティティ	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	8.デモクラシー (2) Illiberal Democracy (3) デモクラシーの死と終焉	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	9.まとめー多様性と比較	指定された文献を読んでくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性50%、小課題の提出状況20%、期末課題30%
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

粕谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房 2014
 久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治の考え方』有斐閣ストゥディア 2016
 河野勝・岩崎正洋編『アクセス 比較政治学』日本経済評論社 2002
 田中拓道『リベラルとは何か』中公新書 2020
 池田信夫『戦後リベラルの終焉』PHP新書 2015
 Steven Levitsky & Daniel Ziblatt, How Democracies Die, Penguin Random House, 2018

履修条件・留意事項等

本講座の対象は「比較」の方法論であるので、履修条件とはしないが、「比較」の対象となる政治現象についてはある程度知識が必要であることを覚悟し、それらの補完に努めてほしい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際社会学				ナンバリング	2724
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目である。

授業の概要

この授業は、グローバル化する現代社会によって、様々な社会集団・組織の機能が変質し、リスクの個人化をもたらしている状況の中で、社会学が表出する諸課題に対してどのような理解ができるのかを学ぶ。この講義では、様々な側面を有する「国際社会」を捉えるための視点・方法を学ぶことを通じて、ローカルなもの、ナショナルなもの、グローバルなものの相互依存が拡大する現代社会の特質に接近するとともに、グローバル時代にふさわしい社会学的想像力を磨く事を目的としている。

到達目標

この授業では、以下に掲げる項目への行動変革を目標とする。

- ・国際社会学で取り上げる国際間の人口移動の基本的な課題を理解、分析し、論理的に説明することができる。
- ・国際社会の一員として、国境を越えた移民問題の議論に参加できる。
- ・将来における自身のキャリア形成において、国際的な人口移動の問題について俯瞰した考えを持ち、何らかの行動ができる。(例 SNSでの支援の呼びかけ等)

授業の方法

授業で取り上げるテーマについて事前に調べ、予習すること。授業後、授業の内容を整理し、自分の考えも交えて内容をまとめる。授業内容を理解できたのか、授業後レポートの作成を求め、評価する。条件が整えば、JICA北海道(札幌)が実施するプログラムの参加や、その施設利用も検討している。

ICT活用

PC、タブレット端末などを活用した授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

指導教員は、JICAに約30年勤務した経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容の理解を確認するために、授業中にミニレポートの作成を求めることがある。各種レポート課題を評価し、コメントを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 国際社会学とは何か、その学問領域の誕生について解説するとともに、本授業全体の流れを解説する。	なぜ、この授業に出席するのか？その目的意識を明確するため、事前に課題・問題を整理すること。また可能であれば、自分の将来のキャリア形成におけるこの授業の位置づけを明確にする。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第2回	「国際社会学の問題と基礎概念(1)」 近代における人種概念の発達の歴史的背景、エスニシティをめぐる考え方の多様性対立軸、国家の成立とその揺らぎについて解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第3回	「国際社会学の問題と基礎概念(2)」 社会変動としてのグローバル化の進展と社会的境界の変化、トランスナショナルな視点の事例や批判と展望について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第4回	「国際社会学の問題と基礎概念(3)」 国際移民とジェンダーに関する課題、特に出稼ぎにともなう移民女性問題や国際結婚に伴う女性の問題について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第5回	「国際社会学の問題と基礎概念(4)」 人種差別の歴史的変遷、間接的差別と制度的差別、開発と移民政策(送り出し国・受入国との関係)、移民んの将来像について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第6回	「人口移動の加速化と多様化(1)」 第2次世界大戦後の旧植民地の人口移動の状況、労働移民の終焉と移民規制の強化、冷戦時代の難民の発生と近代の難民問題について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第7回	「人口移動の加速化と多様化(2)」 移民グローバル化時代の非合法移民(送り出し国の事情、受入国の対応)、高度技能移民の移動理由について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第8回	「人口移動の加速化と多様化(3)」 ディアスポラ問題、人材移動の理論的解説(プッシュ・プル理論、歴史構造論、移民システム論)を行う。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第9回	「多文化社会の発展と反動(1)」 社会統合としての同化(パークの人間関係循環モデル、ゴードンの同化過程モデル、シブタニ=クワンの生態学的モデル)について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第10回	「多文化社会の発展と反動(2)」 社会統合としての編入の類型、多文化主義の発達と多様性社会の現状と課題について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第11回	「多文化社会の発展と反動(3)」 社会的結合という新たな結合モデル、共生という日本的な統合モデルについて解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第12回	「多文化社会の発展と反動(4)」 労働市場に二重構造をもたらしていると言われているエスニック階層の構造化の問題点、移民と教育(不登校、不就学問題)について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第13回	「多文化社会の発展と反動(5)」 エスニシティをめぐる政治の展開、属性主義と業績主義の相互作用、新しい市民権の登場について解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第14回	「国境を超える集団と制度」 超国家地域統合と人の移動、国際人権レジーム、世界都市のグローバルな展開、エスニック・メディアの広がりについて解説する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第15回	「グローバル社会の諸相」 人の流れをめぐる問い(自由か規制か)、格差をめぐる問い(競争か、平等か)、統合をめぐる問い(多文化か、ナショナルか)、統治をめぐる問い(グローバルか、ローカルか、ナショナルか)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業への参加度や授業内で出される課題への取り組み姿勢、出席態度を総合的に判定
その他	50	最終レポート
教科書		
参考文献		

『国際社会学入門』(石井香世子)2017年 ナカニシヤ出版

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		地球環境論				ナンバリング	2770
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」及び「グローバル化社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業では、深刻化する全世界共通の問題である、気候変動による温暖化、海面上昇、砂漠化などの地球環境の諸問題についてその概略を理解することを目的とする科目である。地球環境問題では、世界共通のものと、各国、各地域で深刻度が異なる多様な問題が存在しており、それらが私たちの日常生活とどのように結びつき、どのような影響を及ぼしているかを理解することを目指す。また、環境問題の解決や改善にどのような取り組みがなされ、人々が参画しているのかについても学ぶ。

到達目標

1. 受講生が、「地球環境問題」と言われる問題群の概要を理解し、その中から自ら関心を持つ政策分野の範囲を概ね特定できるようになる。
2. 受講生が、その環境問題の構造を分析するために必要な理論的枠組みを選ぶことができるようになる。
3. 受講生が、理論的枠組みを用いて分析した結果を、現状変更の政策提言をまとめられるようになる。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行うが、必要に応じGoogle Classroomを用いて情報のコミュニケーションを行う。

ICT活用

条約事務局のサイトなどインターネット上の資料を適宜参照するとともに、Google Classroomによる補完的情報提供を行う。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、条約交渉等の外交交渉の現場や国内における法令の作成や国会審議、あるいは政府部内における政策形成過程を踏まえた実践的事例を盛り込む。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に小課題を課し、それに対する講評を行うとともに、適宜Google Classroomを用いた情報提供とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. Introduction 講義のアウトライン	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(20分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(20分)
担当教員			
第2回	2. 気候変動問題 (1) 科学	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	2. 気候変動問題 (2) エネルギー	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第4回	2. 気候変動問題 (3) 政治過程	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	3. 「前史」としてのオゾン層保護問題 (1) 科学と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	3. 「前史」としてのオゾン層保護問題 (2) 市民と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第7回	4. 地球環境問題を発見するアメリカの政治過程	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	5. 国際政治における認識論と社会構築主義 (1) 非国家アクター (2) 国際政治理論の現代的展開	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	6. その他の地球環境問題 (1) 漁業資源の保護と捕鯨 (2) 生態系の破壊と種の保存	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	6. その他の地球環境問題 (3) 森林破壊と地域政治 (4) 海洋汚染と汚染物質の貿易規制	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	6. その他の地球環境問題 (5) 長期残留性有機化学物質の規制とEU	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	7. 技術と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	8. 国際組織とNGO	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	9. 地球環境問題における国内政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	10. まとめ	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義への参加の積極性40%、小課題20%、期末課題40%
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

講義の中で適宜紹介していく。

米本昌平『地球環境問題とは何か』岩波新書 1994

Pamela Chasek, David Downie, Janel Welsh Brown, Global Environmental Politics, 5th ed. Routledge, 2020

履修条件・留意事項等

本講座では、地球環境問題を取り上げるが、科学的側面についての理解は前提であり、国際政治過程について扱う。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際政治経済学				ナンバリング	3744
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことを基本に、特に「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」ことと「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」ことに関連し、その他のディプロマポリシーとも関連する科目である。

授業の概要

この授業は、国際政治経済学の世界認識におけるグローバル化は、異なる問題領域での、多様な経済化・市場化・産業化そして資本主義がもたらす政治・社会・文化への影響と変化への理解が求められる。この授業では、安全保障、外交、市場、知識などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得できることを目標とする。

到達目標

これまで学んだ国際関係論の理論的枠組みを復習し、経済化・市場化するグローバル世界における多様な権力とその構造を認識することができる。国際政治経済の現象を自ら分析することができる。世界経済の課題・解決の基礎を自律的に思考することができる。

授業の方法

講義形式で行う。適宜学生に対してレポートなどの課題を課す。

ICT活用

インターネット上の資料や映像を適宜参照するとともに、Google Classroomを用いた双方向的コミュニケーションを保つ。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に課すレポートや課題についてのコメントや指導を行うとともに、Google Classroomを通じ適宜補充する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 国家vs市場？経済化する世界と市場権力の国際政治	シラバスを読み、自らの関心を明確にし、疑問点などがあれば整理しておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第2回	国際政治の理論(1) 現実主義、安全保障、国家主義	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第3回	国政政治の理論(2) 自由主義、貿易の拡大、相互依存	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第4回	国際政治の理論(3) マルクス主義、グローバリズム、資本主義の行方	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第5回	帝国主義と重商主義 グローバル化における経済的ナショナリズムの出現	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第6回	国家と市場 グローバル化、経済化する世界における新しい権力と権威	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第7回	世界経済における権力の構造(1) 安全保障構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第8回	世界経済における権力の構造(2) 生産構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第9回	世界経済における権力の構造(3) 金融構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第10回	世界経済における権力の構造(4) 知識構造	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第11回	二次的権力構造(1) 空海輸送、貿易 一帯一路、中国の影響、欧州の思惑	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第12回	二次的権力構造(2) エネルギー、環境 「クリーン」な世界の行方と実態	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第13回	二次的権力構造(3) 国際福祉または開発 国際金融機関の変遷と援助	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第14回	小論文試験 これまでの学習内容の理解度と、それをベースとして自律的に思考し応用できるのかを問う。	これまでの授業内容や課題内容の復習(90分)	小論文の設題に対する自分の回答の吟味。関連する不足知識の復習(90分)
担当教員			
第15回	まとめ (1)小論文についての講評 (2)小論文を踏まえてのこれまでの授業の振り返りとまとめ。現代の諸問題への国際政治経済学のアプローチ。	これまでの授業内容の振り返りと自分の小論文の自己評価の作成(90分)	授業内容を参考に、これまでの授業全体で学んだことをノートにまとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行なわない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性20%、レポート・課題の提出状況50%、小論文30%
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

各回の授業内容について関連する文献や資料を適宜指示または配布。

特に以下の書籍を推薦する。

スーザン・ストレンジ『国家と市場: 国際政治経済学入門』ちくま学芸文庫、2020

スーザン・ストレンジ『国家の退場: グローバル経済の新しい主役たち』岩波書店、1998

スーザン・ストレンジ『マッド・マネー: 世紀末のカジノ資本主義』岩波書店、1999

スーザン・ストレンジ『カジノ資本主義』岩波現代文庫(学術 172)、2007

Stephen Gill and David Law (1988) The Global Political Economy: Perspectives, Problems and Policies, Johns Hopkins Univ Press.

履修条件・留意事項等

世界史や現代史の基本的な知識を要する科目である。近現代の経済、貿易、金融などにも関心・知識を持っていることが望ましい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際機構と国際法				ナンバリング	3714
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	片岡 徹						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、グローバル化する世界で重要性を増す、国連などの国際機構と、国家の枠組みを超える共通のルールである国際法について学ぶことを目的とする。20世紀後半の安定した世界の中で、世界政治は国家間の競争や衝突だけでなく、人類に共通する組織やルールでの運営を模索してきた。日本の政治経済や社会とも深く関わる国際機構と国際法について、その理論と事例から総合的な把握を目指す。

到達目標

本科目は「国際機構と国際法」という授業であるが、理論や歴史に関する知識の獲得に努めることはもちろんのこと、まさに現在進行形である地球的問題群(global issues)にも言及することで自ら問いを立て、そして自分なりの根拠をもとに論理的、説得的に主張できることも重要な到達目標となる。

授業の方法

3年次配当科目であることから、使用するテキストの理解に努めるとともに、グループ・ディスカッションを取り入れてグループ内で論点整理を踏まえた意見交換を行うとともに、全体でも共有することで知見の深化を図りたいと考えている。

ICT活用

必要に応じインターネット上の資料を紹介するとともに、Google Classroomを用いた双方向対話を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高校での教育経験もあり、それも踏まえた授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中小課題を課し提出物に対する講評を行うとともに、Google Classroomを利用した情報提供とフィードバックを適宜行う他、期末課題の提出を求め評価とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・イントロダクション:いま「国際法」を考える意義とは (キーワード:国際機構、国際法、グローバル化)	シラバスを読み、自らの関心を 明確にしておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第2回	・大沼 (2018) 第一部 国際法のはたらき 第1章 国際社会と 法 I 国際法の歴史 (キーワード:国際法の父、条約、脱植民地化)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第3回	・大沼 (2018) 第一部 国際法のはたらき 第1章 国際社会と 法 II 国際法のはたらき (キーワード:オースティン、国際公共財、紛争解決)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			

第4回	・大沼 (2018) 第一部 国際法のはたらき 第2章 国家とその他の国際法主体 I 国家 II 主権 III 非国家主体 (キーワード: 外交、管轄権、NGO)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第5回	・大沼 (2018) 第一部 国際法のはたらき 第3章 国際法のありかた I 国際法のありかた II 条約 III 不文国際法 - 慣習国際法と一般国際法- (キーワード: 正統性、実定法中心主義、国内法と国際法の相克)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第6回	・大沼 (2018) 第一部 国際法のはたらき 第4章 国際違法行為への対応 (キーワード: 国際法違反、国際刑事裁判所、国際社会)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			

第7回	・大沼 (2018) 第二部 共存と協力の国際法 第5章 領域と国籍 I 領域と国籍 II 国民国家と国籍 (キーワード: 領域、領海、社会契約)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第8回	・大沼 (2018) 第二部 共存と協力の国際法 第6章 人権 I 人権の歴史 (キーワード: 普遍性、歴史性、国際人権規約)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第9回	・大沼 (2018) 第二部 共存と協力の国際法 第6章 人権 II 国際非差別法と少数者保護の展開 III 多様な世界の人権 (キーワード: 少数者の保護、人権外交、人権教育)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			

第10回	・大沼 (2018) 第二部 共存と協力の国際法 第7章 経済と環境の国際法 I 経済と環境の国際法 II 国際通商と国際法 III 投資・通貨・金融と国際法 (キーワード:近代資本主義、WTO、IMF)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第11回	・大沼 (2018) 第二部 共存と協力の国際法 第7章 経済と環境の国際法 IV 国際経済システムが抱える問題 V 環境の保護 VI 地球文明の将来 (キーワード:経済格差、貧困、地球温暖化)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第12回	・大沼 (2018) 第三部 不条理の世界の法 第8章 国際紛争と国際法 I 国際紛争と国際法 (キーワード:戦争の違法化、国際連盟、不戦条約)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			

第13回	・大沼 (2018) 第三部 不条理の世界の法 第8章 国際紛争と国際法 II 国際仲裁と国際裁判 III 国家間の紛争解決と国際法 (キーワード: 国際司法裁判所、WTO、国連)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第14回	・大沼 (2018) 第三部 不条理の世界の法 第9章 戦争と平和 I 武力の規制と集団安全保障 II 武力行使の国際法的正当化の諸形態 (キーワード: 集団安全保障、非軍事的措置、PKO)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第15回	・大沼 (2018) 第三部 不条理の世界の法 第9章 戦争と平和 III 国連体制の意義と限界 VI 不条理の世界と国際法 – 二十一世紀の「戦争と平和」 (キーワード: 個別的自衛権、集団的自衛権、人間の安全保障) ・まとめ・期末課題の提示	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	期末課題を作成すること (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行なわない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性20%、小課題の提出状況30%、期末課題50%
その他	0	
教科書		
大沼保昭『国際法』ちくま新書 2018		
参考文献		

- ・浅田正彦・玉田大(編著) (2023)『ウクライナ戦争をめぐる国際法と国際政治経済』東信堂
- ・大沼保昭 (2005)『国際法』東信堂
- ・大沼保昭 (2007)『「慰安婦」問題とは何だったのか』中公新書
- ・郭舜 (2022)『国際法哲学の復権』弘文堂
- ・篠田 英朗 (2021)『紛争解決ってなんだろう』ちくまプリマー新書
- ・庄司克宏編 (2006)『国際機構』岩波書店
- ・筒井清輝 (2002) 人権と国家一理念の力と国際政治の現実』岩波新書
- ・鶴岡路人 (2024)『はじめての戦争と平和』ちくまプリマー新書
- ・中村研一 (2010)『地球的問題の政治学』岩波書店
- ・最上敏樹 (2001)『人道的介入』岩波新書
- ・最上敏樹 (2005)『国境なき平和に』みすず書房
- ・最上敏樹 (2006)『いま平和とは－人権と人道をめぐる9話－』岩波新書
- ・最上敏樹 (2006)『国際機構論 第2版』東京大学出版会
- ・最上敏樹 (2007)『国際立憲主義の時代』岩波書店
- ・最上敏樹 (2016)『国際機構論講義』岩波書店
- ・最上敏樹 (2024)『国際法以後』みすず書房
- ・オリバー・ラムズボサム、トム・ウッドハウス、ヒュー・マイアル (著) 宮本 貴世 (翻訳) (2010)『現代世界の紛争解決学』明石書店
- ・ヴォーン・ロウ(著) 庄司克宏(監訳) (2024)『考える国際法』白水社

履修条件・留意事項等

- ・欠席をする場合には必ず事前に連絡をすること
- ・遅刻をしないこと
- ・必ず予習として指定されたテキストを読み、自分なりに考えて授業に臨むこと

備考欄

本科目の担当者の本務校: 北星学園大学 文学部心理・応用コミュニケーション学科
Email: kataoka@hokusei.ac.jp

質問等を大歓迎しますので、遠慮なくメールを送って下さい。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際貿易投資論				ナンバリング	3728
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「世界と繋がるために国際社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、なぜ貿易や投資が生じるのか、貿易や投資を行うことの利益は何か、どのような貿易や投資のパターンが国家間で生じるのかについて、国際貿易論や国際投資論における理論・実証をバランスよく学ぶ。また、貿易の利益の分配上の対立についても学ぶ。伝統的な比較優位の概念を正しく理解し、貿易理論をもとに貿易利益や貿易利益を分配する上での対立、伝統的貿易理論から新貿易理論までの歴史的背景を理解することを目的とする。また、国際投資の間接投資と直接投資について、理論と事例から理解できることも目的である。

到達目標

日常報道される世界経済問題において、自ら関心を持った課題につき、通説的理解を認識しておく。その上で、自ら、統計資料等を用い問題の構造を分析し、そうした通説的理解の適否を論じることができ、それらが適切でないと判断する場合には的確な政策的処方箋をまとめ、国際的共通言語である国際経済学の枠組みにもとづいて発信できる能力を養う。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行う。受講者の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を目指す。

ICT活用

関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、国際経済及び国内における産業政策の形成過程と国際的な政策調整に関わった実務経験を踏まえた教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中での積極的なディスカッションを奨励するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1: イントロダクション データで学ぶ日本の貿易と国際収支	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第2回	2: 貿易と市場1 貿易市場のメカニズム(需要・供給分析)	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	3: 貿易と市場2 貿易市場の資源配分(余剰分析)	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第4回	4: 貿易と市場3 貿易による利益と市場競争	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	5: 日本の比較優位と貿易1 データで学ぶ国際分業と日本の比較優位	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	6: 日本の比較優位と貿易2 技術格差と貿易パターン	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第7回	7: 日本の比較優位と貿易3 生産要素の賦存量と貿易パターン	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	8: 新しい貿易理論と日本の貿易1 伝統的貿易理論と新しい貿易理論の違い	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	9: 新しい貿易理論と日本の貿易2 製品差別化・規模の経済と日本の自動車の貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	10:新しい貿易理論と日本の貿易3 生産工程の細分化・規模の経済と機械製品の貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	11:新しい貿易理論と日本の貿易4 企業の生産性の違いと貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	12:生産要素の国際間移動1 海外直接投資と日本の経済	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	13:生産要素の国際間移動2 外国人労働の受け入れと日本の経済	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	14:開発協力と貿易	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	15:まとめ 21世紀の貿易と投資の様相	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席と講義参加の積極性30%、小課題提出状況30%、期末課題40%
その他	0	
教科書		
現時点では特に指定しない。		
参考文献		

Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2023) International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Pearson.
現時点では世界的な標準となっている教科書を紹介しておくが、講義の中で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		地方自治論				ナンバリング	4750
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

国際教養学科としては、地方自治体への就職を特に意識した過程とはなっていないが、EU研究における「補完性原理」や日本政治経済論で学んだ日本政治の知識の上に、4年生科目として就職先で知的実践を前に地方、とりわけ北海道にローカルの問題に再度焦点を当てようとするものである。「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」に特に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、地方自治が現代政治や民主主義の中で担っている役割を、中央政府との関係、そして市民との関係を検討することによって学んでいく。本講義では、現代地方自治の特質と課題を、政治学・経済学・社会学・行政学などの概念を用いながら検討していく。現代日本の地方自治の特質と課題を、現実の制度運用の観点から、歴史的観点から、また国際比較の観点から理解できるようにする。

到達目標

1. 中央政府と地方政府という国家の構成について、基本的原理と各国における多様な現実を理解した上で、日本の特徴について理解している。 2. 日本における国政と地方政治の相関関係について理解し、知的教養を持った主権者として一定の見識の上で正しく判断し、正しく行動を行うことができる。 3. 現代日本の地方自治の抱える問題点を理解し、その是正のために自ら主体的に行動を企画することができる。

授業の方法

講義担当者による講義を中心とし、課題について受講生のディスカッションを踏まえて進めていく。 受講者は4年生であることに鑑み、地方自治を学ぶニーズが多様であることを前提に、受講者の関心に最大限応えるよう講義内容の重点を変える。また後半の「政策ケーススタディ」については、毎回担当する受講者がシラバスに指定された参考文献を読んだうえで自ら主体的に45分程度の論点整理と自らの考えを述べるプレゼン1を行うことにより授業を進める。受講希望者は、事前に講義担当者に連絡して自らの関心のありかをつたえることが必要になる。プレゼンテーションは単独でもグループで行っても構わないが行わなかった者は単位を認めない。中間課題及び期末課題は単独で提出されたものを評価する。

ICT活用

Google Classroomによる授業時間以外におけるコミュニケーションをとる。 中間課題及び期末課題については、Google Classroomで課題を課し、提出物を受け取る。 その他、ドキュメンタリー、Web上の資料を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

学問として政治過程論・行政学を日米の大学及び大学院で修めているだけでなく、旧通商産業省職員として中央省庁における政策決定過程に約10年習熟した経験と、実際に各種の選挙にも携わった経験を持つ者が講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom等でのFeedbacksを頻繁に行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. Introduction 秋吉貴雄『入門 公共政策学』中公新書2017	シラバス及び参考文献を読み、 自らの関心を明確にしておくこと (90分)	配布プリントや参考文献を読了 し講義の内容をノート等で復習 すること(90分)
担当教員			
第2回	2. 制度論 (1) 地方自治制度 ① 自治体と地方自治 ホーンブック地方自治 第1章 ② EUにおける補完性原理 遠藤乾「ポスト主権の政治思想—ヨーロッパ連合における 補完性原理の可能性」『思想』EUの945号 2003 ③ 地方自治の現場 杉浦明平『台風十三号始末記』岩波新書1955	指定された参考文献を読んでお くこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了 し講義の内容をノート等で復習 すること(90分)
担当教員			
第3回	(2) 日本の地方自治制度の歴史 ① 帝国憲法下の国家体制 村松岐夫『日本の行政』中公新書1994 藤田省三「天皇制国家の支配原理」市川弘正編『藤田省 三コレクション』平凡社ライブラリー2010所収 ホーンブック地方自治 第2章 ② 占領改革と戦後地方自治 ホーンブック地方自治 第3章 西尾勝『地方分権改革』東京大学出版会2007	指定された参考文献を読んでお くこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了 し講義の内容をノート等で復習 すること(90分)
担当教員			

第4回	③ 三位一体改革と地方分権 木寺元『地方分権改革の政治学』有斐閣2012 田村秀『暴走する地方自治』筑摩書房2012 ④ 都道府県と市区町村 ホーンプブック地方自治 第4章 礒崎初仁「都道府県制度の改革と道州制—府県のアイデンティティとは何か—」礒崎初仁編著『変革の中の地方自治—自治・分権の制度設計』中央大学出版部 2010 久邇良子「フランス第五共和制における地方分権化・地方分散化」東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ 61 2010	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	(3) 統治構造 ① 二元代表制 ホーンプブック地方自治 第5章 ② 首長と執行機関 ホーンプブック地方自治 第6章	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	② 議会と議員 ホーンプブック地方自治 第7章 待鳥聡史『代議制民主主義』中公新書2015	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	中間課題(ここまでの講義の内容を踏まえ、第7回以降に掲示された政策課題の中から1つを選び、なぜその課題を選択して今後分析することにしたかまとめて提出すること)を作成すること(90分)
担当教員			

第7回	政策ケーススタディ1 自治基本条例と住民参加のまちづくり 伊藤修一郎「なぜ自治体は規制を避けるのか」レヴアイアサン38号 2006 神原勝『自治・議会基本条例論』公人の友者2008 砂原庸介「住民投票の比較分析―「拒否権」を通じた行政統制の可能性」『公共選択』68 2017	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	政策ケーススタディ2 まちづくりと公共事業 ホーンブック地方自治 第11章 早野透『田中角栄一戦後日本の悲しき自画像』中公新書2012	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	政策ケーススタディ3 環境とリサイクル ホーンブック地方自治 第12章 寄本勝美『リサイクル社会への道』岩波新書2003 『リサイクル政策の形成と市民参加』有斐閣2009	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	政策ケーススタディ4 人口減少と地域社会 ホーンプック地方自治 第14章 増田寛也編『地方消滅』中公新書2014 山下祐介『地方消滅の罫―増田レポート』と人口減少社会の正体』ちくま新書2014 赤川学『子供が減って何が悪い！』ちくま新書2004	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	政策ケーススタディ5 教育と地域格差 荻谷剛彦『教育と平等:大衆教育社会はいかに生成したか』中公新書2006 『学力と階層』朝日文庫2012 辻田真佐憲『文部省の研究』文春新書2017 田村秀『自治体と大学』ちくま新書2022	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	政策ケーススタディ6 産業政策と地域創生 ホーンプック地方自治 第10章 神野直彦『地域再生の経済学』中公新書2002 山下祐介・金井利之『地方創生の正体―なぜ地域政策は失敗するのか』ちくま新書2015	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	政策ケーススタディ7 エネルギー政策 大野輝之『自治体のエネルギー戦略ーアメリカと東京』岩波新書2013	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	政策ケーススタディ8 大阪 砂原庸介『大阪一大都市は国家を超えるか』中公新書2012 大嶽秀夫『日本型ポピュリズム』中公新書2003 中央公論 特集「維新の正体」2023年8月	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 地方自治の夢と現実	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義への参加度及び参加態度 30% 中間課題 30% 期末課題 40%
その他	0	
教科書		
磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『新版 ホーンプブック地方自治』北樹出版2020		
参考文献		

秋吉貴雄『入門 公共政策学』中公新書2017
 曾我謙悟『日本の地方政府』中公新書2019
 辻陽『日本の地方議会』中公新書2019
 砂原庸介『大阪一大都市は国家を越えるか』中公新書2012
 大野輝之『自治体のエネルギー戦略』岩波新書2013

履修条件・留意事項等

担当教員としては、地方自治体への就職を本気で検討することを推奨している。国際学部国際教養学科としての視野の広さは必ず自治体職員としての強みとなるはずだからである。このため各回でこのシラバスで紹介している参考文献を全力で読み込んでディスカッションに参加することを期待している。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		メディア社会論				ナンバリング	4752
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諄						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」とと特に関係があり、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」とと関係がある科目である。メディアと社会との関係を理解することを通して、メディア・リテラシーを向上させるための科目である。

授業の概要

この授業は、世界を駆け巡る情報が、様々な社会的条件のもとで生み出され流通している実態について学ぶ。メディア社会の進展の中で、テレビなどのメディアに媒介された情報を一方的に受容するのではなく、クリティカルに読み解くスキルの獲得が、ますます重要になってきている。本講義では、情報の単なる「受け手」ではなく、よき「読み手」となるための基本的な知識を学ぶ。各種メディアによる表現の鑑賞と分析（腑分け、読み解き）を通して、現代におけるメディアとその環境について理解を深め、情報の「発信者」となるための前段階を整えることを目標とする。

到達目標

メディアの発展の歴史について述べることができる。インターネット時代のメディアと社会の関係について、何が問題となっているかを理解することができる。これから私たちがどのようにメディアと向き合っていけばいいのかについて、自らの意見を述べるとともに議論することができる。

授業の方法

第1～3セッション(第1回～第13回)は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進めるが、うち3回は実践学習として、受講者にニュース生産過程を体験させる。また、各回の講義では担当教員によるコメントを入れながら、全員参加の討論も取り入れる。第14回と第15回の授業は、受講者にグループを分けて、関心を持つテーマについて、プレゼンテーションを行う。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。新聞記事や報道写真、教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

新聞社で勤務する経験があり、ニュース報道について幅広い知識を有している。この経験を活かしてメディアと社会の関係について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントをする。授業全体の理解度、独自の考えが生まれたのかをリアクションペーパーで確かめ、そのフィードバックも行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1セッション(第1～6回):メディア・コミュニケーションを知る 第1セッションでは、新聞、ラジオ、テレビ、インターネットといったメディアの発展の歴史を学ぶ。そして、メディアの発達は、現代社会の成り立ちとコミュニケーションの形態にどのような影響を与えてきたのかについて考える。 第1回:メディアの歴史を振り返りながら、「メディア」と「コミュニケーション」「ジャーナリズム」の概念の関連性と相違点を検討する。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	第2回:「新聞」というメディアについて学ぶ。新聞の歴史を学ぶとともに、新聞というメディアが社会に対する影響について考察し、議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	第3回:ラジオ、テレビについて学ぶ。ラジオとテレビの歴史を踏まえながら、特にメディア(技術の発展)と戦争との関連性について考察し、議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第4回	第4回:インターネットメディアについて学ぶ。「フェイクニュース」「ポスト真実」「ディープフェイク」などの概念を勉強し、インターネットメディアやSNSの発展と課題について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第5回	第5回:コミュニケーション理論について学ぶ。マスメディアの効果論に力点を置き、講義をする。魔法の弾丸理論→限定効果理論(オピニオンリーダー)→強力効果論(議題設定、フレーミング効果、沈黙の螺旋仮説)	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	第6回:アクティブラーニング 各自調べたマスメディアの効果論に関する事例について、議論と質疑応答を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第7回	第2セッション(第7～11回):メディア実践 第2セッションは、講義と実践学習を結びつき、ニュースの生産過程について学ぶ。 第7回:取材から報道に至る活動を紹介し、メディアの限界について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第8回	第8回:インタビュー 事実を確認する手段として、情報源を探し出し、インタビューすることが最も重要である。そして、実際のメディアの報道に見られる工夫の一つは、「情報源の明示」という原則である。 情報源の明示は報道の信頼度を高める一方、人権侵害のリスクも孕んでいる。 講義では、記事の内容による情報源の扱い方について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第9回	第9回:調査報道とスクープ 吉田調書をめぐる報道を事例として、新聞記事、研究論文、ノンフィクション作品など多様なテキストを分析し、調査報道とスクープについて学ぶ。 第7回と第8回で議論してきた事実の確認や情報源の扱い方をより一層深く理解する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第10回	第10回:映像メディアについて学ぶ。 実践学習として、受講者にテレビニュース用の原稿を作る作業を体験させる。 課題1:各種のニュースアプリを立ち上げて、トップページから一つの記事を選んで、原稿に仕上げる。 ① 原稿を1分以内にまとめる ② 作業は15分程度 課題2:お互いにインタビューさせる	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第11回	第11回:グループワークで作成された映像コンテンツを発表する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第12回	第3セッション(第12回～第13回):第3セッションでは、グローバル化とメディアについて議論する。インターネットの発達により、情報も国境を越えて流通できるようになったが、メディアの在り方、ジャーナリズムの位置づけには、国家間の政治体制や宗教・文化、価値観の違いに伴うギャップも存在している。このセッションでは、受講者の関心に合わせたテーマを取り上げ、グローバル化時代における国際ニュース報道の問題点を考える。 ウクライナ情勢、北朝鮮核問題、パレスチナ問題などの国際問題や、ジェンダー、環境問題など公共性に関する 이슈など	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第13回	第3セッション(第12回～第13回):第3セッションでは、グローバル化とメディアについて議論する。インターネットの発達により、情報も国境を越えて流通できるようになったが、メディアの在り方、ジャーナリズムの位置づけには、国家間の政治体制や宗教・文化、価値観の違いに伴うギャップも存在している。このセッションでは、受講者の関心に合わせたテーマを取り上げ、グローバル化時代における国際ニュース報道の問題点を考える。 ウクライナ情勢、北朝鮮核問題、パレスチナ問題などの国際問題や、ジェンダー、環境問題など公共性に関する 이슈など	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第14回	プレゼンテーションⅠ:関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。そして、受講者全員がプレゼンテーションで提示された重要な論点や疑問点について、議論する。担当教員はコメントをし、フィードバックを行う。	関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)	プレゼンテーションと議論の内容を振り返り、フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員	魯 諍		
第15回	プレゼンテーションⅡ:関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。そして、受講者全員がプレゼンテーションで提示された重要な論点や疑問点について、議論する。担当教員はコメントをし、フィードバックを行う。	関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)	プレゼンテーションと議論の内容を振り返り、フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業・討論への積極的な参加度(30%) プレゼンテーション(40%) リアクションペーパーやレポートの提出状況(30%)
その他	0	無断欠席は必ず減点要素とする。
教科書		
プリントを配布または配信する。		
参考文献		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には、参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際関係研究				ナンバリング	4716
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備える(関心・意欲・態度)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につける(知識・技能)」とともに、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだ国際政治経済科目群の集大成であるとともに、1年後期科目「国際関係論」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、1～3年次で学習してきた社会科学の考え方を応用・発展させて、様々な国際問題さらには広く社会問題について、論理的・科学的に分析する能力を身につけることである。その目的を達成するため、まず、現代の様々な国際問題、さらには幅広い社会問題を科学的・理論的に分析する素地を習得する。次に、国際関係やグローバル化に関する基本的理論・概念を確認し、それを実際の問題に応用する力を養う。さらにグローバルな諸課題に関して溢れる情報の中から重要なもの、本質的なものを抽出する批判的思考力・判断力を養うと同時に、異なる意見や立場を尊重しつつ、自らの考えを主張、発展させていく姿勢を確立する。

到達目標

この授業は、自ら発見した世界や地域の課題を、国際政治経済の科目群で養った社会科学の方法論を用いて分析するとともに、課題解決に向けて自律的に思考し、論理的に発信する力をつけることを目標とする。

授業の方法

これまでの国際政治経済を中心とした学びで関心を持った課題やテーマについて各自がリサーチしてきた内容をプレゼンし、参加する学生でディスカッションを行い、教員からアドバイスや補足説明や講義を行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれぞれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. オリエンテーション。授業内容、評価、進め方についての説明。 2. 各学生の現時点で関心のあるテーマや課題についての発表。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第2回	国際関係研究(1) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第3回	国際関係研究(2) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			

第4回	国際関係研究(3) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第5回	国際関係研究(4) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第6回	国際関係研究(5) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			

第7回	国際関係研究(6) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第8回	国際関係研究(7) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第9回	国際関係研究(8) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			

第10回	国際関係研究(9) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第11回	国際関係研究(10) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第12回	国際関係研究(11) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			

第13回	国際関係研究(12) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第14回	国際関係研究(13) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第15回	国際関係研究(14) まとめ 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。 教員からの総括的講義。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性、課題、発表内容などを総合的に評価する(100%)。
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

野村 康 (2017)『社会科学の考え方:認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会。
野村 康 著各自の発表や授業内容に基づいて、適宜指示。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		国際地域文化論				ナンバリング	1800
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界の諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、これから世界の各地域の社会や文化、政治経済について勉強していく国際教養学科の1年生のために開講される科目である。国際教養学科では、日本と密接な関係にある世界の各地域や国々の文化について、その地域の出身であったり、その地域に詳しい教員によって2年次以降学習していくが、この授業では、世界の各地域の文化や社会などについて世界を俯瞰する講義を行い、学生がさまざまな地域の社会や文化について大きな見取り図の中から基礎的な知識を修得し2年次以降の学習に発展する前段階を準備することを目的とする。

到達目標

この授業では、学生が、古代から現代にいたる文化、社会や政治経済のグローバル化を、比較文化や国際交流の視点から考察することができるようになることを到達目標とする。まず、学生自身が、欧米やアジア、イスラーム、アフリカなど世界のいくつかの地域を、言語・思想・社会・芸術などの様式の違いや共通点に着目し俯瞰することで、文化を比較するカテゴリーを習得し、次に、世界の文化や地域を見る中で養った「眼」で、日本列島の歴史的・現代的な社会と文化を、客観的に考察し、グローバル化時代の日本のあり方を、世界的な視点から理解できるようになることを目指す。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
授業内容に関連するホームページや動画など。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・イントロダクション～「地域の特徴って何だろう？自分探しの旅にでかけよう」 何気なく使っている「地域」や「異文化」という言葉。ある胃地域の「文化的特徴とは何か？」という問いに、絶対の答えはないが、文化とは個人や集団の「らしさ」＝identityを形成したり規定する諸々の総体として学ぶ。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	・欧米の社会文化(1)～ヨーロッパとは何か？ 広域地域統合の試みであるEUが注目を集めるヨーロッパ。国家、市民、民主主義など近代や現代の「標準」を生み出したヨーロッパの特性は、「雑種性」hybridityからなる自己革新の力の伝統であることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・欧米の社会文化(2)～アメリカの光と影 自由と民主主義の「聖地」にして、ポップカルチャーの中心地であり、巨大な移民国家。外から見るアメリカと、内から見える深さ・複雑さを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	・イスラームの社会文化(1)～世界文明としてのイスラーム ヨーロッパの次にイスラムを学ぶことには大きな意義がある。 キリスト教とイスラム教という、世界史では対立の図式で語られる二つの文化圏の交流の歴史の大きさを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	・イスラームの社会文化(2)～近現代とイスラーム 文化・社会・法・宗教・経済など全てを包括する、巨大システムとしてのイスラームならではの近代化への適応の問題など、政治・経済・文化が分から難いイスラームを考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・アフリカの社会文化～人類発祥の地にして「未知」の大陸 言語・文化・芸術の宝庫にして豊かな歴史を持つアフリカの魅力を、ヨーロッパやイスラームとの国際交流の視点も取り入れて、その奥深さを感じつつ学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	・中南米の社会文化～古代文明からクレオールまで 中南米の古代文明は、極めて高度な都市と文化を築きながら、忽然と姿を消した。文明の隆盛と衰退の外部環境との関係は、中南米のみならず他の全ての文化・文明にもあてはまる。同時に、現代の中南米から着と外来の文化・習慣・言語などの多様で豊かな、クレ奥ールの魅力と社会文的融合の可能性についても学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	・インド周辺の社会文化～「文明の母」と世界 古代日本にとって西の端であるインドの文化は、東アジアのみならず、東南アジアや古代ペルシアにとっても重要な文化の発信地であった。サンスクリット語は東へ仏教として流れ、また同時に西方の言語の語源でもある。多言語・多文化社会としての現代インドも深い豊かさを持ち、一言語一国民の均質な近代国家とは異質のモデルを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・東南アジアの社会文化～インドシナの豊穡 現在私たちが東南アジアと呼ぶ地域は、かつて「インドシナ」と呼ばれた。文字通り「インド」と「中国」の両方の文化の影響を受けた地域ということである。また、インドネシアに見られるようにイスラムの影響も大きい。文化の交差点である東南アジアの文化を歴史的に俯瞰しつつ、現代の当該地域の文化のダイナミズムも考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	・東アジアの社会文化～日本との交流を中心に 近代以前の東アジア地域の社会と文化は、どこまでが中華で、どこからが朝鮮か日本かわからないぐらい、連綿とした文化圏であった。近世まで日本を大きく形作った「高文化」としての大陸と日本列島の関係を言語と文化から検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	・日本の異文化交流史～朝鮮半島・中国大陆から欧米まで 日本列島は「世界の文化の博物館」と呼ばれることがある。世界のたくさんの文化や習慣や技術が日本の中に息づいているからである。日本は閉鎖的な島国ではなく、島国がいかに関心の開放性とそこからくる多様性や豊かさを持っているのか、今一度、国際交流史の視点から「日本らしさ」を検証する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・グローバル化の中の日本文化(1)～世界の中の日本 日本にありがちな自国文化や歴史の謙虚で消極的な評価は、主に欧米のフィルターを通して見る世界観に原因がある。欧米以外の世界の大半で、日本は引き続き魅力的な目標であり、外交から文化にいたるまで独自の貢献と成果をあげていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	・グローバル化の中の日本文化(2)～日本の中の世界 一昔前まで国会では「単一民族」発言という「失言」が問題となった。日本列島の歴史は一度として単一の言語、単一の文化のみで構成されたことがない。古くは、アイヌと琉球の先住民の文化と権利の問題があり、現代においてはほぼ世界中全ての文化と言語が日本において確認できる。多言語・多文化社会としての日本を考える。	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第14回	・小論文による理解度と応用力の確認 異文化理解において、どの視点が一番大事であるとか、どの地域が最重要である、ということはありません。何をどう選び、あるいは組み合わせて、世界のどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学んだかをまとめる。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～異文化間コミュニケーション論再考 異文化間コミュニケーション論の流れの一つとして、アメリカ流の自分の文化の基準性を疑わずに、世界各地の文化を「地域文化」に分割して、「異文化」として矮小化して理解する方法がある。政治や経済ではなく文化へ着目することで、国家・民族・国民などの「境界」を「越境」する人間の国際交流を学ぶ。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

池田温(2002)『東アジアの文化交流史』吉川弘文館
 岡田恵美子(2020)『イラン人の心: 詩の国に愛を込めて』人文書館
 中沢新一(2006)『森のバロック』講談社学術文庫
 マックス ヴェーバー (1989)『デスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫
 量義治(2008)『宗教哲学入門』講談社学術文庫
 各授業内容に関連する参考文献や資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

異なる複数の文化の相違点に関心を持つ学生の参加を歓迎する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		東アジア地域論				ナンバリング	2812
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	巫 靚						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会文化等の国際教養を身につけている」ことや、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関係がある科目である。日本と関わりの深い東アジア地域の近現代史を踏まえながら、現在地域が抱える諸問題についての理解を深めるための科目である。							
授業の概要							
この授業は、日本と歴史のかかわりが深い、中国大陸や朝鮮半島を含む東アジア地域について学ぶ。この授業では、現在の日本の社会や文化を理解するうえでも必要不可欠な東アジア地域の社会や文化、あるいは政治経済について、地域全体の特徴から各国の文化的背景などについて、歴史と地理的広がり二つの軸から立体的に理解することを目指す。							
到達目標							

- ①東アジア地域の多様性を理解し、地域が抱える課題を複眼的に考察することができる。
 ②目的に応じてさまざまな日本語の文献から必要な情報を検索・収集することができる。
 ③文献調査から得られた結果を日本語でまとめ、わかりやすい表現で他者に伝えることができる。

授業の方法

主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進める。なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業全体の理解度、独自の考えが生まれたのかをリアクションペーパーで確かめ、そのフィードバックも行う。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理する(60分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第2回	【セクション1 琉球・沖縄】①琉球から沖縄まで	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第3回	【セクション1 琉球・沖縄】②琉球の人々が「日本人」になるとは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第4回	【セクション1 琉球・沖縄】③戦後の日本復帰	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第5回	【セクション2 台湾】①清国から日本領まで	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第6回	【セクション2 台湾】②台湾の人々が「日本人」になるとは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	【セクション2 台湾】③戦後の日華関係・日台関係	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	【セクション2 台湾】④戦後の中台関係	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第9回	【セクション3 朝鮮半島】①保護国から併合まで	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第10回	【セクション3 朝鮮半島】②朝鮮の人々が「日本人」になるとは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第11回	【セクション3 朝鮮半島】③戦後の日韓関係	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	【セクション4 北方】①先住民とは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第13回	【セクション4 北方】②「北方領土」とは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	【セクション4 北方】③「サハリン」と「樺太」は違う島？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度30%、予習・復習課題30%、期末レポート40%
その他	0	
教科書		
『あなたとともに知る台湾:近現代の歴史と社会』胎中千鶴、清水書院、2019年。 『国境は誰のためにある?』中山大将、清水書院、2019年。 『先住民アイヌはどんな歴史を歩んできたか』坂田美奈子、清水書院、2018年 『つながる沖縄近現代史:沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』前田勇樹ほか編、ボーダーインク、2021年。 『北方領土のなにが問題?』黒岩幸子、清水書院、2022年。 『歴史からひもとく 竹島／独島領有権問題:その解決への道のり』坂本悠一、清水書院、2021年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		東南アジア地域論				ナンバリング	2814
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

学術目的の言語使用に主眼をおいた英語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

授業の概要

この授業は、近年、インバウンドなどで北海道にも多数の人々が訪れるようになった東南アジア地域。多様な民族、宗教、文化が入り混じる東南アジアの社会や文化について、その多様性と多元性の概要と豊かさについて学習する。また、歴史的、文化的、経済的にも日本と深いかわりを持つ地域として、私たちとのつながりについての理解も目標とする。

到達目標

東南アジアの地域文化の特徴について、具体的事例を挙げて説明することができる。
東南アジアの政治・経済の現状を、具体的かつ抽象的に論じることができるようになる。
東南アジア各国と日本との関係を、具体的に説明することができる。

授業の方法

The class will focus on building the necessary vocabulary for discussing Southeast Asia in English while encouraging students to grapple with some of the key topics related to countries such as Thailand, Myanmar, Indonesia, and Vietnam.

ICT活用

Students will be expected to use Google Classroom to study the key vocabulary and topic before each class. They will also be expected to do extensive online research in order to prepare for each lesson and consolidate their knowledge of the previous lesson.

実務経験のある教員の教育内容

JICA勤務経験を有する教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

All tests will be graded and shown to the students and students will be provided with feedback on their presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	This lesson introduces the course and the syllabus. Students will be told how the course will be graded, the rules for the course, and the types of topics that will be covered.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	This lesson focuses on a general overview of Southeast Asian countries and looks at some of the key current events.	Study the course content for week 2 and carefully check any words you don't understand. 90 分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	The lesson examines a very important and influential time in Southeast Asian history revolving around Angkor Wat, the temple complex in Cambodia.	Study the course content for week 3 and carefully check any words you don't understand. 90 分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	This lesson examines the Vietnam War and its global significance and the lessons that can be learned from it. In addition, we will discuss the similarities and differences between the Vietnam War and the conflicts in Afghanistan and Ukraine.	Study the course content for week 4 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	In this lesson we will look at the political situation in Myanmar and the rise and fall of one of Southeast Asia's most iconic leaders, Aung San Suu Kyi.	Study the course content for week 5 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	This lesson focuses on the meaning of religious blasphemy in the context of Islam and Indonesia. We also discuss whether we should have laws against disrespecting religious beliefs and whether these kinds of laws are good or bad for society.	Study the course content for week 6 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	Students deliver their midterm presentations on a topic that relates to an issue covered in previous lessons.	Review the content for the first half of the course and prepare for the midterm test and presentation. 90分	Reflect on your presentation. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第8回	Students complete the midterm test aimed at assessing how much students have understood and thought about the topics covered in previous lessons.	Review the content for the first half of the course and prepare for the midterm test. 90分	Reflect on your performance in the test. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第9回	The lesson examines a very important and influential time in Southeast Asian history revolving around Ayutthya, the former capital of Thailand.	Study the course content for week 9 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	In this lesson we look at the political situation in Thailand and the impact of military coups and the power of the monarchy.	Study the course content for week 10 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	This lesson focuses on popular tourist locations and briefly discusses the dark side of Thai tourism while also asking whether it is good for a country to have large areas that are designed primarily for overseas visitors.	Study the course content for week 11 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	The lesson introduces well-known dishes and popular drinks in Thailand.	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	In this lesson we discuss the many supernatural beliefs that can be found in Thailand with special focus on the northeastern region.	Study the course content for week 13 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Students deliver their final presentations on a topic that relates to an issue covered in previous lessons.	Review the content for the first half of the course and prepare for the final test and presentation. 90分	Reflect on your presentation. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第15回	Students complete the final test aimed at assessing how much students have understood and thought about the topics covered in previous lessons.	Review the content for the second half of the course and prepare for the final test. 90分	Reflect on the content of the final test. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation: 20%, midterm test: 25%, midterm presentation: 15%, final test: 25%, final presentation: 15%
その他	0	
教科書		
none		
参考文献		

『東南アジア地域研究入門2社会』井上眞著 慶応義塾大学出版会 2017年

履修条件・留意事項等

none

備考欄

none

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		アフリカ地域論				ナンバリング	2816
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉田 勉幸						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)と関連の深い科目である。

授業の概要

この授業は、アフリカに関する知識を幅広く学ぶと同時に、アフリカと世界、アフリカと日本との関係性から、アフリカがわたしたちの身近な生活に関係していることを理解することを目的とする。アフリカ大陸には54もの国があり、その文化や社会は多様である。また、経済面では世界最後の成長市場と言われており、近年は日本企業もアフリカに進出している。

この授業では、アフリカが抱える課題がアフリカの歴史、社会、文化、政治、経済にどのように関連しているのか、国際社会や日本はアフリカとどのような関係を築いているのかについて学ぶ。

到達目標

この授業では、以下に掲げる項目を目標とする。

- ・アフリカの言語、政治、経済、社会、文化等の教養を身につけ、論理的に説明できる。
- ・アフリカ諸国が抱える様々な基本的な課題を分析することができる。
- ・アフリカにおける基本的な課題の議論に参加できる。

授業の方法

授業で取り上げるテーマについて事前に調べ、予習すること。
授業後、授業の内容を整理し、自分の考えも交えて内容をまとめる。
授業内容を理解できたのか、授業後レポートの作成を求め、評価する。

ICT活用

PC、タブレット等を使用し、スライド、動画を多く使用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業で説明した直近の内容を確認するために、レポートの作成を求めることがある。各種レポート課題を評価し、コメントを行う。
また、アフリカの基本的な知識(地理等)を確認するため、ミニテストを実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	アフリカをどう学ぶのか～授業のガイダンス～ 授業の心得を始め、授業の概要、アフリカに関わる意義やその重要性について説明する。初回では、授業計画を調整するため、出席者の意見、考えを積極的に求める。	あなたにとって「アフリカ」とは？ 自身の現在と未来におけるアフリカとの繋がりについて考え、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員	吉田 勉幸		
第2回	アフリカの魅力～人類発祥の地～ アフリカはかつて「暗黒大陸」と呼ばれていた。しかし、現在は世界中から注目が集まっている。アフリカとは何か？アフリカとアフリカに関わる国家及び人々を概説する。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第3回	歴史～人類誕生から呻吟の時代～ 500年の間にアフリカ大陸から「積み出された」奴隷の数は、1,200万から2,000万人と言われる。奴隷貿易やマアファ、アパルトヘイト、紛争等、アフリカの悲劇の歴史について詳説する。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第4回	アフリカ社会の特徴と政治 植民地支配が終わり、独自に政治体制を築いていった国々は、独立後順風満帆ではない。アフリカ社会の特徴を整理した上で、ディアスポラや、歪な国境線に区切られた政治体制に注目し、学ぶ。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第5回	農業と食品 アフリカの飢餓は、なぜ起こるのか？アフリカの農業における問題点を整理し、解説する。 また、アフリカ北部と東部、南部の食文化を紹介し、アフリカの農作物やユニークな食品(「ウガリ」「スカーティ」「マドラ」「クスクス」など)について学ぶ。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第6回	ビジネスの課題と可能性～援助ではなく投資を～ 近年、アフリカの経済発展が著しい。「援助」から「投資」へと流れが転換する中で、何が起きているのか？幾つか事例を挙げて説明する。 また、アフリカ人は時間にルーズと言われる。その原因を分析し、日本人の仕事観と比較して、アフリカの経済発展について考える。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第7回	自然環境 アフリカにおける、自然環境の変化(砂漠化やキリマンジャロの氷河が減る等)や自然破壊、環境汚染(ゴミ問題や土壌汚染など)を学び、様々な要因について理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第8回	アフリカの観光産業1～北部と東部を中心に～ アフリカの経済にとって観光は、貴重な外貨を得る重要な産業である。 人気の観光地を有するエジプトとタンザニアの事例を参考に、観光資産とその重要性について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第9回	アフリカの観光産業2～南部を中心に～ アフリカ南部は、「Africa's adventure playground」称される。欧米資本が流入する南部の観光産業の発展は著しく、今後さらなる成長が期待されている。ジンバブエと南アフリカの事例を中心にその潜在力を学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第10回	芸術 現在のアフリカの文化は、欧米の影響を強く受けている。この授業では、「欧米の文化」と「土着の文化」との融合であるアフリカの芸術に着目し、学習する。なお、エジプトの壁画やタンザニアの絵画「ティンガティンガ」等を紹介する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第11回	アフリカの言語 アフリカには、英語やフランス語等の公用語、そして各種部族語があり、1,000以上の言語が存在する。この授業では彼らの多言語社会に焦点を当て、学習する。また、その中で「ショナ語」と「ンデベレ語」に注目し、そのユニークな発音を紹介する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第12回	音楽とダンス 昔から文字を持たないアフリカの社会において、音楽とダンスは著しく発展してきた。また、アフリカを離れ、アフリカ系の音楽やダンスは、世界中に影響し続けている。アフリカにおける音楽やダンスを概説し、ジンバブエの伝統楽器「ムビラ」や「マリンバ」、またアンゴラのダンス「クドゥロ」やジンバブエのダンス「タンバ」等を紹介する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第13回	イスラム社会 アフリカ大陸にもイスラム教徒は多く住んでいる。この授業では、日本ではあまり知られていないイスラム思想に焦点を当て、イスラム社会におけるコーランやジェンダー、シャリーア等について考える。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第14回	アフリカにある日本社会 アフリカには数多くの日系組織が活躍している。 JICA海外協力隊やWASSHA等を取り上げ、アフリカで働く日本人と日系組織、その日本人社会について学ぶ。	これまでの授業内容をまとめ、最終レポートに備える。(120分)	まとめた内容を吟味し、再考する。(60分)
担当教員	吉田 勉幸		
第15回	アフリカの未来～さらなるコンヴィヴィアリティの発展に向けて～ 今後のアフリカの経済発展は、どこまで拡大するのか？アフリカの未来について展望し、学生達の将来との関わりについて考える。 学生達が自由に意見を述べ、議論をする。	これまでの授業内容をまとめ、最終レポートに備える。(120分)	最終レポートの内容を見直し、最終レポートを完成させる。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	レポート課題の提出状況・ミニテスト
その他	10	授業参加の積極性
教科書		
新聞等		
参考文献		

大学生のためのレポート・論文術/小笠原 喜康/ 講談社
その他、授業中に適宜提示する。

履修条件・留意事項等

日々、新聞を読むことが望ましい。
レポート課題における「盗用」は厳しくチェックする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		ヨーロッパ地域論				ナンバリング	2818
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」や「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感性を備えている。(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、近代世界において重要な役割を果たしたヨーロッパ地域の社会と文化の特色について学習する。近代の思想や制度の重要な柱であるヨーロッパの社会と文化について学ぶことは、現代の私たちが寄って立つ国家や社会の考え方が、どのような背景から生まれてきたのかを理解することでもある。北海道とも経済的な結びつきを強めているヨーロッパ地域の特徴について、ヨーロッパ全体と各国について具体的に学ぶ。

到達目標

学生が、ヨーロッパの地域文化の特徴についてある程度の具体的事例を挙げて説明することができることを到達目標とする。ヨーロッパの文化の全体的共通性と各国や各地域の違いについて、具体的かつ抽象的に論じることができるようになることを目的とする。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
ヨーロッパ地域文化に関連する国家や機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・導入～「ヨーロッパとは何か？」 ヨーロッパという概念の強力さと曖昧さに私たちはあまり真正面から向き合ったことがない。明らかに近代世界の意味の中心の一つであるヨーロッパとは通史的にどのような存在であったのか。また経済的に縮小する現在のヨーロッパが文化や国際社会で果たしている役割について外観する。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	＜第1部 古代ギリシア・ローマ＞ ・古代ギリシア～ヨーロッパ思想の起源 古代ローマや中世イスラーム世界にも大きな影響を与えた古代ギリシア世界の思想・哲学は、今日の世界においても知の大きな一角を占めるものである。ソクラテス、プラトン、アリストテレスを始めとした現代の学問にもつながる、古代ギリシア世界の思想と科学の系譜を俯瞰する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・古代ローマ～「ヨーロッパ」の範囲の原型としてのイギリス産業革命までその文明の水準にヨーロッパが及ぶことがなかった古代ローマは、のちのEUにまでつながる広域ヨーロッパの一つの原型である。その古代ローマの技術、社会、文化、宗教の変遷などから、今日に至るその版図に共通する文化を「古代ローマの跡地としてのヨーロッパ」をキーワードに解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	<第2部 中世ヨーロッパ・ルネサンス> ・中世ヨーロッパ～帝国が減じた後に残る文化圏域としての西ローマ帝国が減亡した後も、ローマ帝国の国教であったキリスト教はこの地域の文化と社会の支柱として、ヨーロッパを覆うものとして残っていく。暗黒時代ともいわれる中世ヨーロッパの世界観について、各分野の特徴から迫っていく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	・ルネサンス～イスラムとの交流と再発見のプロセス ヨーロッパ文化の一つの特徴として、外部世界の文化の接触や影響を精力的に飲み込み、自分の文化に取り入れて活力とする雑種性が挙げられる。ルネサンスは、十字軍などのイスラムとの交流の中から、異文化の中に自文化の起源を発見する過程として、その後のヨーロッパ文化を花開かせる大きな起点となる。そのダイナミズムを追う。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・プロテスタンティズムと資本主義の発生 イスラムとの交流とならんで、ヨーロッパにインパクトを与えたものとしてモンゴルの侵攻が挙げられる。ペストの拡大や、神や教会、身分制の失墜は大きな社会変化としての宗教改革を巻き起こす。そして、プロテスタンティズムは今日の資本主義につながる思想と行動を内包していることに、ウェーバーが手がかりに接近する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	・ヨーロッパ芸術に見る南から北への流れ 古代から中世、そしてルネサンスまで長い間アルプス山脈はヨーロッパの文化と文明を分ける大きな地理的境界線であった。ヨーロッパの芸術が、北から南への憧れで生成してきた側面、また南が芸術の発展について大きな原動力になってきた様子を具体的な事例を挙げながら解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	＜第3部 現代ヨーロッパの各国文化＞ ・イタリア かつてローマ帝国の中心だったイタリア。その帝国時代から続く人々や文化の交差点としての役割は、古くてそして新しいイタリアの魅力として、今日も変わることなく息づいている。難民や移民にも比較的寛容と言われるイタリア人気質の根本に各分野の事例から迫る。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・スペイン・ポルトガル かつて世界を二分した海洋大国のポルトガルとスペイン。戦国時代から江戸時代にかけては、この両国の言葉が世界共通語の役割を果たすほどであった。海に囲まれた二つの国と日本との繋がりは多く、食文化や音楽など幅広い分野において共通点も多い。イベリア半島の文化と社会を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	・フランス～近代化の共通語 近代国家として、官僚制や常備軍などを整え、近代以降のドイツ語や英語などに様々な語を提供したフランス語。最先端のファッションや食が彩るパリから、美しい田舎の数々まで、フランス的なものとは何か、その魅力と特徴について学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)0
担当教員			
第11回	・ドイツ 法律や医学の分野で日本も大きな影響を受けたドイツ。プロイセン、ワイマール、ナチスそして現代ドイツと目まぐるしく変遷する近代以降のドイツ社会の特徴は何か。また、ドイツ的なものを定義するものとは何か。私たちとも、そして英語とも関係が深いドイツ文化について、各分野の事例を引きながら考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・イギリス 産業革命が始まった地として、日本の近代化に大きな影響を与えたイギリス。連合王国として様々な言葉や文化を融合させながら7つの海を支配した大英帝国を築き上げた、小さな島の文化的な多様性とは何か。世界最古の議会制民主主義の国の知っているようで知らない奥深さを、その伝統と革新から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	・北欧の文化 教育、福祉など豊かな生活が注目される北欧。その背景にある激しい歴史と厳しい自然環境は、意外と知られることがない。税金が重く、国民が幸せなこの地域に共通する社会哲学や文化とは何か。人間がより人間らしく、人間が幸せになるためのヒントを北欧の人々の思想と実践を学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	＜第3部 あなたのヨーロッパ地域文化論＞ ・小論文による理解度と応用力の確認 ヨーロッパ地域文化の特定の時代や場所が他より重要ということはありません。ヨーロッパのどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文でヨーロッパ地域文化から何を学んだか、考えたのか書く。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～「ヨーロッパと世界」 学生の皆さんから出された、いろいろな形のヨーロッパ文化論から、私たちがヨーロッパをどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

各授業で関連する文献や参考資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

ヨーロッパ地域の社会や文化にさまざまな形で興味関心を持つ学生を歓迎します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		北米地域論				ナンバリング	1810
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「北海道や日本、世界各地の問題に対処するために、情報を処理・分析し、論理的・批判的に思考・判断する能力を身につける」と関連する科目である。							

Students will improve listening comprehension skills, learn a lot of daily use vocabulary, and study about 150 natural spoken idioms, as well as learning about changes in the representation of family life in American media over the last 70 years.

授業の方法

There will be weekly handouts with vocabulary and idioms. Students will practice a dialog every week which uses newly studied idioms. Students will be expected to preview for each lesson diligently. The class itself will feature a lot of English only lecture, and watching of short television clips.

ICT活用

There will be regular media examples (TV, movie clips, Youtube, etc). Students can interact digitally while working on projects.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive daily oral feedback during class time, plus graded quizzes and tests, and written responses to presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduce topic and Syllabus. TV history Background “Speak English Like an American” 1	Prepare “Speak Like an American” unit 2, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第2回	Birth of TV, the 50s—I love Lucy, Donna Reed, Father Knows Best	Prepare “Speak Like an American” unit 3, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第3回	Sixties: from Beaver to Munsters and Adams’ s—The Andy Griffith Show	Prepare “Speak Like an American” unit 5, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第4回	70s Part 1: New Sitcom familys: More clean, white, attractive, and idealized---Bradys, Partridge, Happy Days	Prepare “Speak Like an American” unit 5, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第5回	70s Part 2: Introducing Politics and Race—All in the Family, Good Times	Prepare “Speak Like an American” unit 6, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第6回	80s part 1: New Kinds of Happy Families: The Cosby Show, Full-house, Family Matters	Prepare “Speak Like an American” unit 7, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第7回	80s part 2: Darker side: From political intra family conflict of Family Ties to the first Anti-family family: Married with Children	Review, review, review!! (90 minutes)	Study for midterm!!!
担当教員			
第8回	Midterm	Prepare “Speak Like an American” unit 8, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第9回	90s: Going where other sitcoms couldn't: The Simpsons	Prepare “Speak Like an American” unit 9, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第10回	Prepare “Speak Like an American” unit 10, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第11回	Beyond the Simpsons: 2000s-- Weird Animation and attack on tradition--- South Park and Family Guy	Cumulative review of Speak Like an American 1-10	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第12回	Looking at “difference” in sitcoms: Modern Family	Prepare “Speak Like an American” unit 11, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第13回	Class in sitcoms: Schitt’s Creek, Beverly Hillbillys	Prepare “Speak Like an American” unit 12, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第14回	Review	Cumultave review of idoms. (90 minutes)	prepare for final!!
担当教員			
第15回	Final	Make sure all late work is finished!	Turn in final work to teacher.
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 35 Final 35 Attendance, quizzes, and Participation
その他	0	
教科書		
Receive handouts from teacher. Do not lose them!!!		
参考文献		

A good bilingual dictionary is recommended

履修条件・留意事項等

Please be ready, with your textbook, notebook, and pen at the beginning of each class!

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		中国研究				ナンバリング	3820
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諄						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」と特に関係がある科目である。2年次の東アジア地域論と連携している国際教養科目である。世界の地域の中で、中国の存在は今日ますます重要性を帯びてきている。国際性を身につけるうえで、中国の政治、経済や文化などの基礎知識は不可欠のものである。この授業では地域としての中国の諸特性を学ぶ。

授業の概要

この授業は、2年次の東アジア地域論での学びを基礎に、日本にとって政治的、経済的に重要なパートナーである中国についての理解を深める科目である。日本の隣国であり、アメリカと共に世界秩序の形成に重要な役割を果たすようになった中国の国内の政治体制や経済のあり方について、制度や思想の基礎を理解しつつ、現代のダイナミックな中国国内の社会変化や文化についても、最新のトレンドや事例をまじえながら学ぶ。

到達目標

中国の政治、経済、文化、社会などに対する理解を獲得し、講義で取り上げる内容について、自らの意見を述べるとともに議論に貢献することができる。

授業の方法

週2回で行う授業であるため、1回目は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進め、2回目は討論を中心とする授業を展開する。受講者は前回の講義内容にコメントし、課題とした文献についての報告も行う。そして、受講者のプレゼンテーションも2回行う(第7回と第14回)。
なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①オリエンテーション ②第1回 中国に関する基礎的な知識を学ぶ。 中国の行政区分(省と省都、直轄市、自治区)について、それぞれの特徴を学ぶ。特に「少数民族」と各民族の集住地域について学び、「民族区域自治」という少数民族の統治政策を理解する。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(60分)	配布資料を熟読し、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	第2回: 中国と諸外国との領土紛争について、歴史的文脈と関連付けてその成因を考える。そして、前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	第3回「南北」と「東西」の差異 中国の北方と南方の地理的な境界線ー「秦嶺・淮河線」と、人口の分布状況を反映する「胡漢庸線」について学び、中国における格差問題を理解する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第4回	第4回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第5回	第5回 中国と周辺国との関係 古代シルクロードと中国主導の「一帯一路」構想と、日中関係の歴史について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	第6回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第7回	第7回 プレゼンテーション1 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	プレゼンテーションと議論の準備をする。(60分)	配布資料を再読して、内容を確認する。(90分)
担当教員	魯 諍		
第8回	第8回 台湾問題について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第9回	第9回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第10回	第10回 香港問題について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第11回	第11回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第12回	第12回 中国の歴史と文化について学ぶ。「中華」、「儒教」などの概念について説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第13回	第13回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第14回	第14回 プレゼンテーション2 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	プレゼンテーションと議論の準備をする。(60分)	配布資料を再読して、内容を確認する。最終レポートのテーマを決める。(90分)
担当教員	魯 諍		
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、最終レポート課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考にレポートの執筆を準備する。(90分)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業・討論への積極的な参加度(30%)、プレゼンテーション(30%)、最終レポート(40%)
その他	0	
教科書		
『よくわかる現代中国政治』川島 真／小嶋華津子 編著 ミネルヴァ書房		
参考文献		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		アメリカ研究				ナンバリング	3822
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

HBUの方針に従い、北海道や日本、世界各地の問題に対処するために、情報を処理・分析し、論理的・批判的に思考・判断する能力を身につけることを目的としています。(思考力・判断力・表現力))

授業の概要

この授業は、戦後日本にとって最も重要な国であるアメリカ合衆国について、理解を深めることを目的とする科目である。アメリカはその歴史的背景と形成過程からきわめて多様な社会であり、アメリカの多様性を理解することは、世界の今後を考える上でも重要な項目である。アメリカ文化を、人種、ジェンダー、階級、宗教、アイデンティティなどの視点から再考察し、それらが現代のアメリカの政治経済にどのようにつながっているのかを理解する。

到達目標

Course Subtitle: American Culture and English Improvement through "Modern Family"--the TV show
 In this class you will watch media in English, usually (but not always) with English subtitles. There will be large amounts of lecture, and reading as well, so listening comprehension and vocabulary growth will be a big part of this class. Students are also expected to speak and discuss various issues in American Media history, and will eventually give presentations on their own topic

授業の方法

There will be in class video watching and discussion, in pairs, small groups, and whole class discussions. Students will also need to do weekly readings.

ICT活用

There will be a lot of multi-media in the class. Students may be able to use their own devices for certain activities, depending on the lesson.

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive constant feedback on pronunciation and other oral issues in class activities, as well as written feedback on quizzes, tests, and presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Week 1: Introduction—history of American family sitcom	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第2回	Week 2: Speak Like an American (S.L.A), unit 1, Introduction to “Friends”, VOCAB 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第3回	Week 3: S.L.A. unit 2, Friends 1, part 1 (Jellyfish) Vocab quiz 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第4回	Week 4: S.L.A. unit 3, Friends 1, part 2 VOCAB 2	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第5回	Week 5: S.L.A. unit 4, Vocab quiz 2, Fr. Episode 2 (The Cat), Part 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第6回	Week 6: S.L.A. unit 5, MF, Ep 2, Part 2, Vocab 3	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第7回	Week 7: Vocab quiz 3, Episode 3--All	Prepare for exam!	Review all materials covered in class in first 7 weeks.
担当教員			
第8回	8. MITERM EXAM Also: 1950s Television, Hollywood reaction--Clips from shows (including "I Love Lucy" and "Leave it to Beaver")	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第9回	Week 9: S.L.A. unit 6, Vocab 4, Episode 4, Part 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第10回	Week 10: S.L.A. unit 7, Vocab Quiz 4 Episode 5, Part 2	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第11回	Week 11: S.L.A. unit 8, Vocab 5, Episode 6 (all)	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第12回	Week 12: S.L.A. unit 9, Vocab Quiz 5, Episode 7	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第13回	Week 13: S.L.A. unit 10, Episode 8	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第14回	Week 14: Presentations	Prepare for final exam	Review, Review, Review!
担当教員			
第15回	Week 14: Presentations	Make sure you have finished all assignments and other work.	Send anything required to Allen within one week of final class.
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance, quizzes, and participation 30 Presentation 10
その他	0	
教科書		
All materials will be provided by teacher.		
参考文献		

There will be weekly handouts and various prints. Please do not lose them!!

履修条件・留意事項等

Please be ready, with your textbook, notebook, and pen at the beginning of each class!

備考欄

Bring handouts to class, with questions prepared (if necessary).

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		イギリス研究				ナンバリング	3824
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」や「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、日本の近代化にも大きな影響を与え、EUからの離脱で注目されるイギリス。英語が誕生した国でもあり、かつて世界の半分以上を支配していたと言われたイギリスの歴史や文化は、日本のみならず世界に大きな影響を与えている。本講義では、イギリスの社会と文化の伝統の持つ豊かさと同時に、多くの分野でいまだに世界の新しいトレンドを作り出している現代イギリスの現状について、その本質を理解することを目的とする。ヨーロッパとの関係性の理解も重要となってくる。

到達目標

イギリスの地理、歴史、政治構造について基本的な知識を得ることができる。ポップカルチャー、社会的安全や特定の宗教的信仰の影響について、知識や考え方を身につけることができる。現代のイギリスの社会文化について自ら思考し分析することができる。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
いくつかのテーマについて学生のプレゼンテーションを行う。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。
プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション シラバスの説明と授業内容の紹介。 各学生のイギリスのイメージと関心事についての簡単なプレゼン。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	イギリスとはどんな国か イギリス(連合王国)の重要な特徴について概観し、学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	イギリスの社会構成 イギリスの社会構成について、人口、社会的・民族的背景、政治的信条、信仰する宗教とそれらの分布について学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	イギリスの食文化 イギリスの特徴的な食べ物や飲み物について概観する。また、グローバル化するイギリスにおいて、近年人気の食べ物についても学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	イギリスの地方・名所 イギリスのいくつかも地方や名所について、その意義について学ぶ。事例としてストーンヘンジの歴史的、宗教的、社会的な意義について解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	イギリスの治安 現代のイギリスが直面する治安の課題と諜報機関について学習する。後半では、イギリスの諜報機関のポップカルチャーへの影響を分析する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	学生の間中間プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備。中間テストへの準備。(90分)	プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。中間テストへの準備。(90分)
担当教員			
第8回	中間テストの実施	中間テストへの準備。(90分)	中間テストの振り返りと復習。学習改善の方向性の考察。(90分)
担当教員			
第9回	ウエストミンスター大聖堂 この講義では、ウエストミンスター大聖堂とその歴史、そこに関わる人物たちに焦点を当てて学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	イギリスのポップカルチャー ポップカルチャーを代表する人物たちやコンテンツについて考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	イギリスの現代史 20世紀と21世紀におけるイギリスの重要な出来事について学習する。特に、第2次世界大戦、フォークランド紛争、アフガニスタン紛争、ブレグジット、コロナ禍について。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	イギリスの観光産業(1) イギリスの観光について、レイク・ディストリクトやウィリアム・シェイクスピアなどを事例に考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	イギリスの観光産業(2) 前回に引き続きイギリスの観光産業について学習する。この回では、スコットランドのウエスト・ハイランド・ウェイなどに焦点を当てる。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	学生の最終プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備。最終テストの準備を始める。(90分)	プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。最終テストへの準備。(90分)
担当教員			
第15回	最終テストの実施	最終テストに向けて準備する。(90分)	これまでの授業全体と最終テストの内容について振り返り、今後の学習改善の方向性について考察すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加への積極性 20% 中間テスト 40% 期末テスト 40%
その他	0	
教科書		
なし。		
参考文献		

各授業で関連する文献や参考資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

イギリスの社会や文化、歴史にさまざまな形で興味関心を持つ学生を歓迎します。

備考欄

特になし。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		中南米研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この科目は中南米という我が国にとって従前は移民先であったが近年は日系移民が日本で働くようになったという距離感が変化し重要性を増している地域を学ぶことにより、国際感覚を身につけていく科目である。ディプロマ・ポリシーとの関連では、「世界とつながるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」に最も深く関連し、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(思考・判断・表現)」にも関連する科目である。

授業の概要

この授業は、近代世界において重要な役割を果たした中南米地域の社会と文化の特色について学習する。近年、日本に定住する南米日系人が増加している中、中南米の社会と文化について学ぶことは、身近となった異文化理解を促進する上で重要である。

到達目標

中南米の地域文化の特徴についてある程度の具体的事例を挙げて説明することができる。
 中南米の文化の全体的共通性と各国や各地域の違いについて、具体的かつ抽象的に論じることができる。
 中南米について関心を高め、自ら同地域について個別の事項について更に探求を深める行動を起こすことができる。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
 ヨーロッパ地域文化に関連する国家や機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

JICAで中南米諸国に勤務した経験を有する教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	中南米とは何か？ 中南米とは通史的にどのような存在であったのか。また現在の中南米が文化や国際社会で果たしている役割について外観する。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	中南米の政治・経済1:概要 政治・経済を歴史的に概観することにより、その共通性と個性を理解していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	中南米の政治・経済2:概要 政治・経済を歴史的に概観することにより、その共通性と個性を理解していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	中南米の世界遺産 世界遺産について概観し、中南米の世界遺産を文化遺産と自然遺産の視点から、その特徴を理解していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	中南米の暮らし:生活(住居とファッションなど) 私たちは環境に応じてどのような知恵(多様な技術や芸術等)を生み出し、それにどのような意味を与えているかを、中南米の住居と衣服からその文化的意味を理解していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	中南米のラテンアメリカの社会と文化1:食 中南米の食文化に関して、食材や調理法などから食の文化的混淆について学んでいく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	中南米の社会と文化2:家族とジェンダー 中南米におけるジェンダーの特徴を把握し、家族の多様性を理解していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	中南米の社会と文化3:祭りと音楽 中南米音楽の多様性をその成り立ちから把握することで、音楽における文化の混淆の地域性(地域差)を理解していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	中南米における宗教 中南米におけるキリスト教カトリック、またそれ以外の宗教の特徴がどのような背景によって普及していったのかを理解していく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	中南米における先住民1:アイデンティティ 「先住民」を社会・政治的構築物として理解するにあたり、先住民アイデンティティの社会・文化的背景(法的規定も含む)を学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)0
担当教員			
第11回	中南米における先住民2:先住民運動と医療 先住民文化復興運動の一つとして、民族医療を取り上げ、医療を通して行われる先住民の活動が、社会にどのような影響があるかを考えていく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	在米ラティーノの理解のあり方1:対メキシコ 米国における「ラティーノ」、中南米出身移民(主にメキシコ)およびその子孫の実態とその背景を概観し、米国を目指す移民の歴史的経緯と今日の状況から、移民の政治的・社会的・文化的側面を考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	在米ラティーノの理解のあり方2:メキシコ以外の中米を中心に 米国における「ラティーノ」、中南米出身移民(メキシコ以外の中米)およびその子孫の実態とその背景を概観し、米国を目指す移民の歴史的経緯と今日の状況から、移民の政治的・社会的・文化的側面を考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	中南米における日本:外交関係と「日系」 日本の明治以降の移民政策を概観し、第二次大戦後に海外移住が再開された戦後の南米移住者たちは、どのような理由で移住し、どのような状況を生きてきたのか理解していく。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ～「中南米と世界」 中南米と世界とのつながりについて考える。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

増田義郎『物語ラテン・アメリカの歴史』中公新書、1998年
堀坂浩太郎『ブラジル：跳躍の軌跡』岩波新書、2012年
西島章次・小池洋一（編）『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011年

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		EU研究				ナンバリング	3826
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「グローバル化の中で、世界の人々と共生・協力することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために国際社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、EUを形成している現代ヨーロッパの特徴について学ぶ。EUは現代世界で最も進んだ政治的共同体であり、EUが体現する国境のない政治、経済、社会、文化の空間は、人類の未来のあり方の重要な選択肢の一つである。環境や人権などの普遍的価値に基づこうとするEUと加盟諸国の取り組みについて学ぶとともに、ヨーロッパの生き残りをかけた政治、経済の戦略としてのEUから現代ヨーロッパの思想と実践について考察する。

到達目標

3年次配当科目として、学生自らが主体的に課題を設定し学ぶ方法論を身につけることを到達目標とする。「EU」という幅広いテーマの中で、自ら漠然と持つ「疑問」を「設問」として捉え直し、その「設問」に答えるためには何をどのように学べば良いか考えるActive Learningを、学生自ら、担当教員の指導の下に実践する。自ら設定した課題に役立つ文献を、教員の指導の下ではあるが学生自らが探し、自ら学び、それなりの自分としての解答を獲得し、それを他人との対話を通じてより深い理解へと進化させることができるようになることを目標とする。

授業の方法

まず、理論編として教科書を内容を受講者自らポイントにまとめる。自ら要点整理しないと、自ら設定する問題の解決法として応用できないからである。受講生は1章ずつ担当し、ポイントをプレゼンし、他の受講生からのコメントとディスカッションに応えた後、教員から指導を受ける。EU全体が構造的に外観できるようになったところで、受講生は自ら単独または複数で課題を設定し、その課題を分析してレポートにまとめる。教員は、受講生の関心に合わせて適宜ガイダンスを行う。

ICT活用

EU関連の法的枠組みやEU委員会の発表しているインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

EUに直接関わるものはなし。ただし、Brexit以前のEUの一部だったイギリスのウォーリック大学大学院に留学経験、ドイツ連邦共和国デュースブルグ大学(現デュースブルグ＝エッセン大学)の研究所にて研究員として勤務経験あり。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での積極的なディスカッションを慫慂するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション ウクライナ戦争、トランプ大統領の時代に近現代ヨーロッパ、EUについて日本で学ぶ意義とは。 講義の流れとシラバスの説明 参考文献の紹介	シラバスを読み、自らの問題意識を明確にしておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	<ヨーロッパ統合史(1)> ヨーロッパとは何か。近代ヨーロッパの成立から、戦間期欧州の政治、第2次世界大戦を経てローマ条約の成立へ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	<ヨーロッパ統合史(2)> 統合の停滞と再生。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	＜ヨーロッパ統合史(3)＞ 拡大と正統性の危機。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	＜EUの政治制度と政治過程(1)＞ EUの全体像を俯瞰する。欧州議会、欧州委員会、欧州委員長。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	＜EUの政治制度と政治過程(2)＞ EUの諸機構。政策分野別に見るEUの働き。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	<EUの政治制度と政治過程(3)> EUの政策過程。EU独自の政治過程について考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	<EUの政策(1)> EUの経済政策。経済・金融、産業・貿易、環境・気候変動、農業・食品などの政策を概観する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	<EUの政策(2)> EUの雇用・社会政策。移民政策と域内、域外の境界管理の変容。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	<EUの政策(3)> 世界のなかのEU。激変する世界情勢における、EUの存在意義と役割とは。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	<EUの政策(4)> 安全保障政策(CFSP、CSDP)と欧州防衛産業戦略(EDIS)。NATOとのEU。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	<EUのガバナンス> 各国政治とEU、デモクラシーと正統性	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	<EUが直面する現代の問題> ウクライナ戦争の衝撃、ヨーロッパという夢と現実、模倣の罟と東欧の離反	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	<小論文試験> 小論文による理解度と応用力の確認を行う。これまで学習したことと、考えたことを自分なりにまとめる。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	<まとめ> 小論文の講評を踏まえて、EUの現在地とこれからについて、特に日本との関係について考察する。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% レポート課題40% 小論文試験40%
その他	0	
教科書		
なし。		
参考文献		

講義各回で適宜紹介していく。
 イマヌエル・カント『永遠平和のために』岩波文庫(青 625-9) 1985
 カール・シュミット『大地のノモス:ヨーロッパ公法という国際法における』慈学社 2007
 カール・シュミット『陸と海と:世界史的一考察』慈学社 2006
 E. H. カール『危機の二十年:理想と現実』岩波文庫(白 22-1) 2011
 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』(増補版)名古屋大学出版会 2014
 山本健『ヨーロッパ冷戦史』ちくま新書 2021
 篠原孝『EUの農業交渉力』農山漁村文化協会 2000
 遠藤乾・鈴木一人 編『EUの規制力』日本評論社 2012
 遠藤乾『統合の終焉—EUの実像と論理』岩波書店 2013
 イワン・クラステフ、スティーヴン・ホームズ『模倣の罠:自由主義の没落』中央公論社 2021

履修条件・留意事項等

トランプ大統領の誕生によって、日本にとって更に重要になった欧州の近現代や、EUの政策理念・実践に強い関心を持つ者を歓迎します。全回出席を基本とし、与えられた課題は期日までに提出すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。この授業では私たちが社会生活をしていく上で、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要になることに鑑み、入門のキャリア教育を行う。本科目は、初年次教育の一環として、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけ、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」 「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、自己のキャリアを考察するにあたり、スタート地点となるべき授業である。世の中にどのような仕事があり、先人がどのようにして道を切り開いてきたのかを考える。自分のやりたいこと、目指したい目標を見つけるきっかけになることを目指した授業である。キャリアプランを考える際に重要な2つの視点は、自分を知ることと、相手(仕事や会社)を知ることである。自分がどのような仕事をしたいと望むのか、そして、その仕事を遂行するための資質とは何かを探ることで自分を知ることができる。また、そのような仕事を実際に存在するのか、そしてどのようにしたら、その仕事に就けるのかを考えることが、相手を知ることである。ここでは、この2点を理解するための授業を展開する。							
到達目標							

1. 他者について、表面的なことだけでなく内面的なことも理解し、配慮や協調を持って接することができるようになる。
2. 自分についての強みや弱みを把握し、説明ができるようになる。
3. 置かれている状況の機会や脅威を予測し、仮説を立てて行動ができるようになる。
4. 自分の社会人・職業人としての具体的な方向性をイメージし、それに向けた目標を立てて行動をすることができるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる	これまでの人生について振り返り、行ってきたことをまとめておく こと(90分)	授業内容を復習しまとめておく こと(90分)
担当教員	小山田 健		
第2回	これからの大学生活についてⅠ →本学での4年間に学んでいくことの再把握と、個々に取り 組んでいくことを再認識してもらいます。	大学生活の4年間で達成したい 具体的目標を3つ考えてきてく ださい。また、それを達成するた めに4年間どのように取り組むの かを具体的に書いてきてくださ い(90分)	本日の内容の振り返りをしておく こと(重要点の把握と整理)(90 分)
担当教員	小山田 健		
第3回	これからの大学生活についてⅡ →社会人基礎力についての把握。社会人基礎力の現状分 析と、「他者とのかかわる力(コミュニケーション力について)」 の把握。 また、4年間一緒に取り組む同じ科や学部の学生について も把握いただきます。	「社会人基礎力」とは何かを調 べておくこと。また、それらの力 について、自分が備わっている かを分析しておくこと。(90分)	本日の内容の振り返りをしておく こと(重要点の把握と整理)(90 分)
担当教員	小山田 健		

第4回	他者理解Ⅰ →なぜ、他者理解が必要であるのかを、大学在学中や社会人になってからのことを考えながら、理解していただきます。	自分の得意なことについて1分間で話せるようにしていくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	他者理解Ⅱ →なぜ、他者理解が必要であるのかを、大学在学中や社会人になってからのことを考えながら、理解していただきます。	自分の苦手なことについて1分間で話せるようにしていくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	自己分析Ⅰ／自分といえば(6つの自分の特徴を話せるように) →これからの履歴書作成や外部学修へ活かしていくため、6つの自分の特色を話せるようになるための自己ワークを行い、その後、発表をしていただきます。	自己肯定感を高めるために必要なことを考えまとめておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	自己分析Ⅱ／過去・現在・未来 →フレームワークを使った分析や戦略立案ができるようになるため、過去・現在の取り組みを自己分析をいただき、そこから、自分の未来について戦略立案をしてもらいます。	小・中・高・他(専門学校、日本語が学校など)におこなってきたことをまとめておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	SPI試験対策と把握 →SPI試験とは何か、最近の就職事情などをお伝えします。また、就職活動がはやまっているため、就職支援会社にご協力をいただき、SPI試験(模擬版)の実施し、実際にどのようなことが今後の就活で行う必要があるのかを理解してもらいます。	2-3人の学部先輩たちから、就活をどのように行っているかを聞き出し内容を把握すること(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	課題解決分析 →客観的に見た自分の強みや弱みや、外部の機会や脅威などを理解できるようになる。	SWOT分析とは何かを事前に調べておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	これからの大学生活についてⅢ →第6回、第7回でおこなった内容を、第9回で行ったSWOT分析で再度考察していく。また、SWOT分析からの戦略立案方法も把握していく。	第6回、第7回で行ったワークの内容を再度取り組み、ブラッシュアップしておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	これからの大学生活についてⅣ →先輩の取組について把握(身近にいる先輩から学んでいく))* 第10回の内容をさらに掘り下げていきます。	在学中に英語を話せるようになった先輩が、1年生からどのような勉強や取り組みをしていたかを考え書き出しておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	これからの大学生活についてⅤ →就活のために行うことが増えているインターンシップについてと、他の大学生の取り組みなどを、外部の方をお招きしながらお伝えしていきます。	本学の就職センターにいき、どのようなインターンシップがあるのかを見たり聞いたりして頂くこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	他者理解Ⅲ →インターンシップで重要となる「他者と働く力(コミュニケーション力)」についての再把握(第4回、第5回も踏まえて)と、ゲーム手法を使った実践演習で、それらの強化と測定を行っていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を理解しておくこと(90分)	本日の内容の振り返りをしておくこと(重要点の把握と整理)(90分)
担当教員	小山田 健		
第14回	履歴書の作成～夏季に向けての準備～ →インターンシップや外部と関わる学外学修を行うために、しっかりとした履歴書が書けるようにします。	履歴書の作成(90分)	履歴書の完成(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	最終レポート →これまでの内容を踏まえて、これからの大学生活での目標と、具体的にに取り組んでいくことを考え書き出してもらいます。	これまで取り組んできたことを整理していくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○履歴書の内容(第14回、第15回で行います) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認するため、最終レポートの作成を行っていただきます。最終回第15回に御乞います。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリアデザイン				ナンバリング	3402
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						

授業の位置づけ

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。私たちが社会生活や職業生活をしていく上では、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要となる。本講義は、自身のキャリア形成を設計し就業に向けての方策を主体的にプランニングし(関心・意欲・態度)、その基盤となる家庭生活や社会生活といった人生設計を意識化する。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、就活真っ只中の3年生以上を対象とする就職活動準備講座である。職業を通じて社会に貢献し、生計を立てていけるよう、これからの1年間は最大限の準備をすることが求められる。その就職活動の手順やルールについて学びながら、豊かに自己を表現できることを目指す。就職活動に必要な基本的知識や実践を身につけることを課する。自分の進路についての考え方や、採用する企業の視点について理解し、就職活動において必須となる基本的なルール、企業情報の検索や活用、エントリーシートや履歴書の書き方、面接の傾向と対策など就職活動に直結する具体的かつ実践的な能力を身につけることを目標としている。

到達目標

この講義では、キャリアプランニングの方法論を学んだ上で、自身の希望する職業について調べ、職業と家庭生活や社会生活のバランスを図りながら、生涯を通して自己実現と多様な人々との共生をどのようにしていくのかについての人生設計・プランニングを行うことを目的とする。

授業の方法

アクティブラーニング(AL)のために、発表、討論、ゲーミング、調べ学習、グループ学習等、様々な授業方法を活用する。

ICT活用

スマートフォン、パソコンなどのICT機器やインターネットやWebコンテンツなどを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション →この科目で何を学ぶのか、授業の進め方や日程についてお伝えしていきます。また、皆さんの状況を調査するためのアンケートや、就活支援会社の登録なども行います。	現在までの就活の取り組みを書き出し、自己分析しておいてください。また、進路決定後の新たな目標と、その取り組み方法を考え書き出してください(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第2回	○自己分析Ⅰ 本学就職課の協力をいただき、自分の興味・志向・価値観を客観的に分析できる職業適性診断を行います。また、後半では、会社について(大企業、中小企業の違い)の講義を行います。	日本における「大企業」「中小企業」の割合と、その違いについて調べておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第3回	○自己分析Ⅱ(「目的」と「手段」／自分の軸、探し) →これから社会に出るにあたって、「なぜ、あなたは働くのか」「あなたの働く目的は何なのか」をはっきりさせるための講義、ワークを行っていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第4回	○SPI対策試験 →SPIとは何かを講義し、対策模擬試験を行います。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第5回	○業界分析研究と企業分析ノートの作成 →各種業界についての把握と、企業分析について理解いただきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	○就活実践Ⅰ →第2回で行った職業適性診断の結果を踏まえ、再度内容自己分析を行っていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	○就活実践Ⅱ →履歴書・エントリーシート対策(1回目)基礎的内容を把握し、書けるようになる。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	○就活実践Ⅲ →履歴書・エントリーシート対策(2回目)個性が伝えられる内容を把握し、書けるようになる。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	○就活実践Ⅳ →面接対策(1回目)	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	○就活実践Ⅴ →面接対策(2回目)	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	○就活実践Ⅵ →企業研究を、採用する企業側の視点で考えていきます。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第12回	○就活実践Ⅶ →インターンシップの取り組み方について	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	○就活実践Ⅷ →先輩やOBを招いて(学生側、企業側の視点での考え方):学生の皆さんへアンケートを取り行って希望が多い企業を紹介する。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第14回	○就活実践Ⅸ →先輩やOBを招いて(学生側、企業側の視点での考え方):就職課と教員がセレストした国際学部の学生へおススメしたい企業を紹介する。	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第15回	○最終レポート これまでの内容を踏まえて ①働く目的 ②これまでの取り組みの整理と、これから行うことの整理 ③就活終了後の目標と取り組み ④社会人になってからの目標と取り組み	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員	小山田 健		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認するため、最終レポートの作成を行っていただきます。レポートの内容については、当日伝えます)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		経営マネジメント				ナンバリング	3432
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝 香						

授業の位置づけ

グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感性」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚」を身につけること「関心・意欲・態度」に関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化に対応するためのマネジメントについて学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。

授業の概要

この授業は、経営とはなにか、ドラッカーの『マネジメント:基本と原則』をベースに、現代社会と組織・企業におけるマネジメントの課題・責任・実践および事業の成果を上げるためのマネジメントについて、その基礎的な考え方を学ぶ。経営学としてのマネジメントは「ひとりではできないことをやり遂げるために、人の協働と分業の仕組みを作り、その経営資源(モノ・カネ・情報)を含めて、適切に育て活用していくこと」である。マネジメントは、経営学、会計学、商学、生産システム等、複合的な視点から経営問題を考えていく必要があるが、ここでは、組織の社会性と個人、組織における人間行動、人的資源管理に焦点を当て、企業のヒトを活用した経営戦略「人材マネジメント」事例から学ぶ。

到達目標

本授業の到達目標は、以下の3点である。

- 1)授業やテキストで取り上げたレベルの経営学の基本的な考え方を説明できる。
- 2)企業の活動を経営学の視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。
- 3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。

授業の方法

授業では、前半は事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。後半はフィードバックとして理解度を確認するためパワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進める。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

ICT活用

本授業ではGoogleDirveやGoogle Docs、Office365などのクラウドサービスを中心としたOfficeツールを積極的に活用した授業を実施する。具体的には、GoogleClassRoomを用いて事前課題、事後課題を提出するなどの学習管理を実施し、課題にはGoogle SpreadやMicrosoft PowerPointでのプレゼンテーション資料の作成に取り組み、プレゼンテーションをグループ毎に発表するなどのアクティブラーニング型授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営、人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	伝統的組織管理論とモチベーション 伝統的な組織管理の経営学説から現代のマネジメントに至るまで人のやる気を上げるためにどのように取り組んできたのかを学ぶことで、モチベーション向上させることと働きがいとは何かについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第2回	組織のマネジメントに必要な5つの能力 マネジメントには「目標設定」「組織づくり」「コミュニケーション」「評価測定」「人材開発」の5つ能力が必要とされる。この5つについての能力がなぜ組織のマネジメントに必要なのかについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第3回	伝統的組織管理論とモチベーション 伝統的な組織管理の経営学説から現代のマネジメントに至るまで人のやる気を上げるためにどのように取り組んできたのかを学ぶことで、モチベーション向上させることと働きがいとは何かについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第4回	経営組織の構造と形態 マネジメントは権力ではなく人を活かす責任であるとされる。組織において目標達成のためには適切な権限を持つものが適切な範囲で権力を行使しなければならないことを組織の構造と形態を学ぶことで理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第5回	目標設定とKPI 組織が成果を上げるためには組織のメンバー全員が共通認識を持つことができる明確な目標を立てその方向性を確立することが求められる。どのような目標を設定すれば良いのかKPI(重要業績指標)について学ぶことで目標設定の重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第6回	経営者やマネージャーに必要なリーダーシップ 組織が成果をあげるためには経営者やマネージャーといった組織のリーダーによる動機付けと適切なコミュニケーションが必要であることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第7回	外部環境の変化と組織戦略 グローバル化の進展、パンデミック、社会課題の変化などにより、企業や組織を取り巻く外部環境は大きく変化する。変化する環境のなかで優れた解決手法があったとしてもその手法を活かせる組織になっていなければならないことから、どのように組織をデザインすれば変化に対応できる組織となるのかを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第8回	経営戦略とは 戦略の歴史から現代の組織がどのようにして経営戦略に取り組んできたのかということを学ぶことで、経営戦略の基本的な考え方を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第9回	ポジショニングアプローチ ポーターが提唱したポジショニングアプローチによる基本戦略について学ぶことで競合がいる環境下での競争に対応するための考え方について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			

第10回	コトラの市場地位別戦略 企業が保持している経営資源の質と量により、業界内の各企業を、リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワーの4つに分類し、それぞれの地位に基づいた戦略があることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第11回	内部環境分析(BCGとVRIO分析) 企業や組織が保有するリソース(経営資源)に着目し、資源の獲得が競合企業との競争で優位に立てるというリソース・ベースド・ビュー”(Resource-based view)という考え方と分析するフレームワークとしてBCGとVRIO分析を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第12回	顧客価値とイノベーション 企業の存在価値を決めるのは顧客であり、企業はイノベーションによって顧客価値の創出を目指さなければならないことをさまざまなイノベーションのケーススタディを学ぶことでその重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			

第13回	財務分析の基礎(財務3表) 企業分析に必要な財務諸表による企業活動の理解のため、財務3表の構造と意味について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第14回	財務分析の基礎(収益性、安全性、活動性、成長性) 財務諸表分析とも呼ばれる経営分析として、財務諸表の定量的なデータを用いて会社の財務状況の分析手法を学ぶことで、客観的に経営状況を把握し就職活動に役立てる方法について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第15回	戦略と組織の融合としてのビジネスモデル 経営資源(ヒト、モノ・カネ・情報)を含めたすべてを俯瞰的にみる事が可能なビジネスモデルキャンパスのフレームワークを学ぶことで、ビジネスを成功に導くためのアプローチについて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性を総合的に評価する。
その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。
教科書		
必要に応じて配布資料を提示する。		
参考文献		

授業内で資料を提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		マーケティング論				ナンバリング	3434/3676
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝 香						

授業の位置づけ

グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解」することに関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化を分析するマーケティング志向を学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。

授業の概要

この授業は、マーケティングの基本を学んだ上で、「21世紀型マーケティング」の概念を学ぶ。マーケティングの歴史とコンシューマリズムを踏まえ、マーケティングの神様と称されるフィリップ・コトラーの手法をベースに、実践的なマーケティング戦略を理解し、私たちの実際の生活の中でマーケティングがどのように生活に関わっているのかを学ぶ。

到達目標

本授業の到達目標は、以下の3点である。

- 1)授業やテキストで取り上げたレベルのマーケティングの基本的な考え方を説明できる。
- 2)企業の活動をマーケティングの視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。
- 3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。

授業の方法

授業では、パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進め事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

ICT活用

本授業ではGoogleDirveやGoogle Docs、Office365などのクラウドサービスを中心としたOfficeツールを積極的に活用した授業を実施する。具体的には、GoogleClassRoomを用いて事前課題、事後課題を提出するなどの学習管理を実施し、課題にはGoogle SpreadやMicrosoft PowerPointでのプレゼンテーション資料の作成に取り組み、プレゼンテーションをグループ毎に発表するなどのアクティブラーニング型授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営や人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクションとして、マーケティング論の授業の概要と進め方を説明する。 マーケティングとは何か。マーケティングの発想と市場戦略としてのマーケティングの役割と課題について学ぶ。	「マーケティングとは」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第2回	環境分析(PEST、SWOT) 競合他社の動向や、政治や経済の変化など、自社の事業運営に影響をもたらす要因を分析する「外部環境分析」をPEST分析やSWOT分析のフレームワークを学ぶ。	「PEST分析、SWOT分析」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第3回	環境分析(3C→SWOT) 「Customer(市場・顧客)、Competitor(競合)、Company(自社)」の3つの視点から自社と競合他社、市場環境の関係を明らかにしたうえでSWOT分析を行う一連のフレームワークの使い方を学ぶ。	「3C分析」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第4回	事業戦略(STP) Segmentation(セグメンテーション)、Targeting(ターゲティング)、Positioning(ポジショニング)という3つの視点で市場における顧客やニーズを整理し、ターゲット市場を明らかにするSTP分析のフレームワークを学ぶ。	「事業戦略(STP)」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第5回	第2回～第4回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第2回～第4回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第6回	マーケティング戦略(製品と価格) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「製品(Product)」「価格(Price)」の戦略について学ぶ。	「製品戦略、価格戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第7回	マーケティング戦略(広告) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「プロモーション(Promotion)」の戦略として広告戦略、パブリシティ戦略について学ぶ。	「広告戦略、パブリシティ戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第8回	マーケティング戦略(チャネル) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「プロモーション(Promotion)」戦略としてのチャネル戦略を学ぶ。	「チャネル戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第9回	マーケティング戦略(プロセス) これまでに学んだマーケティング分析のフレームワークをより効率的に分析するための一連の流れとしての手順や考え方を学ぶ。	「マーケティングプロセス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第10回	第6回～第9回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第6回～第9回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第11回	顧客関係の構築(リレーションシップ) 顧客と良い関係を築いて距離を縮め、結果的に商品やサービスの成約率を向上させるリレーションシップ・マーケティングについて学ぶ。	「顧客関係の構築」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第12回	消費者行動 企業が提供する製品やサービスを購入・利用する人々(＝消費者)が、一つの商品の購入に至るまでの行動について、購買行動モデルの考え方について学ぶ。	「消費者行動」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第13回	ブランド戦略 企業の製品やサービス、あるいは企業そのもののコンセプトを明確にして、「誰にどんな場面で使ってほしい製品なのか」「自分たちはどんな企業なのか」をユーザーにわかりやすく提示するブランディングの考え方を学ぶ。	「ブランド戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第14回	リーンキャンパス 9つの項目からビジネスモデルをまとめるフレームワークである「リーンキャンパス」の考え方を応用することで、誰に対して、どのような価値を提供しているのか、そして、その価値をどのようなチャネルを通じて顧客に届けるのかというこれまでに学んだマーケティング戦略を活用した実践的なマーケティング戦略の立案手法について学ぶ。	「リーンキャンパス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第15回	第14回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第14回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性やプレゼンテーションを総合的に評価する。 したがって、課題を提出しない場合には出席日数が規定を充たしていても不合格となる場合があることに留意すること。
その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。
教科書		
必要に応じて配布資料を提示する。		
参考文献		

授業内で資料を提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		インターンシップ				ナンバリング	2420/1144
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健、小西 正人、宮本 融、青 晴海						

授業の位置づけ

卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組みや規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。また、学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。そのことで、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につけていく。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組みや規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。

到達目標

- ・就業の現場を知り、働くとはどういうことなのかが討議できるようになる。
- ・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。
- ・自身に足りない力や強みを自覚し、今後の大学生活で身につける力や伸ばすべき力を把握し、目標を明確化する。
- ・プレゼンテーション能力を身につける。

授業の方法

「オリエン・面談(審査)」「事前研修」「インターンシップ」「事後研修」の4つの方式で行う。
「事後研修」では、行ってきたことのプレゼンテーションと、複数のチームに分かれて、得てきた学びやスキルを共有するためのグループディスカッションを行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

約20年間民間企業等で、観光や広告宣伝部門の業務に携わる。また、直近の8年間は、学生が地域をフィールドに、街の活性化に取り組む学外実践授業のコーディネーターとして、40以上のプロジェクトの実施とサポートを行う。また、日本PBL研究所のアドバイザー資格を有し、講師なども担当している。

課題に対するフィードバックの方法

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーションⅠ／科目としての「インターンシップ」について 科目説明、スケジュール、予定インターンシップ先などについて ※春季休暇等を利用して集中的に実施する実習が主になることから、ガイダンス等で配布する資料や掲示等にご注意を払うこと。なお、コロナ禍であるため、各内容については、間際で変更される場合もある。 注:このオリエンテーションの説明を聞いて、履修を決めること。	インターンシップとは、何を学ぶために行うのかを各自が考え調べておくこと(90分)	これまでの大学生活で取り組んだことをまとめておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融、青 晴海		
第2回	オリエンテーションⅡ／受け入れ企業等の紹介と今後について 1. インターンシップ参加手続き、ビジネスマナー等について 2. インターンシップ先企業等の企業研究について	働くことが考えられる職種(業種)や仕事についてまとめ、その内容を整理しておくこと(90分)	絞り込んだ職種(業種)には、どのような会社があるのか、世界・日本・道内の視点で調べ整理しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融、青 晴海		
第3回	オリエンテーションⅢ／面談とレポートの作成 ・面接方式で教員との面談を行う。 ・希望するインターン先についての企業分析等を行い、与えられるレポートが書けるようにしておくこと。	面接でのルールやマナーについて各自が調べ、先生との面談に準備しておくこと(90分)	面談の振り返り(反省と改善)をレポートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融、青 晴海		

第4回	○事前研修 履歴書の作成、企業分析、個人の強み・弱みの把握(研修日誌の作成①)	履歴書を作成し、就職課の添削を受け修正したものを、準備しておくこと。また、顔写真についても忘れず貼ること。(90分)	自己分析、企業分析から、インターンシップをとおして、学びたいことを書き出しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融		
第5回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第6回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第7回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第8回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第9回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第10回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小山田 健		
第11回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小西 正人		
第12回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	小山田 健		

第13回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	宮本 融		
第14回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員	青 晴海		
第15回	○事後研修 ・研修日誌(振り返りと反省など)の作成 ・プレゼンテーションの準備 ・インターンシップ報告(プレゼンテーション) ・最終レポート(課題は当日発表)の作成	インターンシップを終えての振り返りと事後研修報告会プレゼンテーションの準備(90分)	これまで取り組んできたことを就職活動に活かせるようにまとめておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、小山田 健、宮本 融、青 晴海		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席(学内:オリエンテーション・事前研修・事後研修)、実習態度(インターンシップ先での就業内容)＋受け入れ先からの評価、研修日誌、プレゼンテーション発表、最終レポートの各点数の合計で総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし(資料は随時配布します)		
参考文献		

履修条件・留意事項等

〈履修条件〉各科目の単位が修得できている学生、インターンシップ参加企業の希望条件にあう学生など。〈留意事項等〉履修登録者へ、インターンシップ参加企業の希望を伺う。その後、面談を行った後、インターンシップ先企業と協議して派遣する学生を決定する。＊詳細は、後期オリエンテーションでお伝えする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		ファイナンシャルプランニング				ナンバリング	3436/1142
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人、宮本 融						

授業の位置づけ

社会人として必須の金融管理の知識を身に付ける。授業内容は日本FP協会認定資格の取得を目指した授業となる。主として同資格を取得したい学生向けの授業であるが、授業内容の性質上、幅広く金融に関する知識を修得したいという学生であれば資格取得を目的としない学生についても歓迎する。「経営財務分析」の基礎となる。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)。問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる(思考・判断・表現)。

授業の概要

本講は金融に関する知識と経済の仕組みを包括的に学ぶことを目的とする講座である。具体的にはファイナンシャル・プランニングの資格取得を目標とする。個人をとりまく経済・金融環境が急速に変化し、生活者としての個人にも自己責任が求められる場面が増え、「生きる力」の養成が急務となっている。このような環境の下で、ファイナンシャル・プランニングの資格検定学習を通じて、金融の包括的かつ実践的な知識を身につけ、今後の人生に資する力を身につけることを目指す。

到達目標

1. 自分のライフスタイルや価値観、経済環境を確認できる。
2. 自分の家族状況、収入と支出の内容、資産、負債、保険などのデータから、現状を分析できるようになる。
3. 様々な領域にわたる包括的なアプローチによって、必要なファイナンシャル・プランナーとして最小限必要な知識を学び、少なくとも国家資格(FP技能士)3級取得へ意識化できる。

授業の方法

配布教材とプリントを配布して講義形式ですすめる。夏季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。
フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

外部講師より(詳細はオリエンテーション時にお伝えします)

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、指定教科書、勉強方法などを説明し、FP3級資格に求められる基本知識を概説する。	FP資格の活かし方を考えてレポート形式でまとめておくこと（90分）	FP資格取得に向けたスケジュールの作成（90分）
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第2回	ライフプランニングと資金計画(1) FPの倫理、関連法規、FPの考え方・手法について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集で確認し、まとめておくこと（90分）
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第3回	ライフプランニングと資金計画(2) 社会保険、年金、年金と税金、資金計画、ローンとカードについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第4回	リスク管理(1) リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の基礎・商品について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第5回	リスク管理(2) 損害保険の基礎・商品、第三分野の保険、保険と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第6回	金融資産運用(1) マーケット環境、預貯金・金融類似商品、投資信託、債券投資について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第7回	金融資産運用(2) 株式投資、外貨建商品、金融派生商品、ポートフォリオについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第8回	金融資産運用(3) 金融商品と税金、セーフティネット、関連法規について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第9回	タックスプランニング(1) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第10回	タックスプランニング(2) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第11回	不動産(1) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第12回	不動産(2) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第13回	相続・事業承継(1) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第14回	相続・事業承継(2) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第15回	重要ポイントのまとめ 試験出題頻度の高い項目の再学習を行う。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(授業内タスクシート作成含む)70%、課題30%。
その他	0	
教科書		
事前説明会にて説明を行うので、事前説明会には必ず出席すること。		
参考文献		

FP技能士資格取得に推奨できるテキスト、問題集を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

事前説明会および初回ガイダンスには必ず出席する。
また全ての回の講義への積極的参加を必須とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		公務員講座 I				ナンバリング	3441/1146
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。

到達目標

大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。
公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	判断推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	判断推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	判断推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	判断推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	日本史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	日本史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	図形(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図形(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	図形(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	図形(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	世界史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	世界史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する 課題レポート(チャレンジテスト)等
その他	0	
教科書		
資格の大原 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		公務員講座Ⅱ				ナンバリング	3442/1147
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。「公務員受験講座Ⅰ」の履修学生が対象である。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。

到達目標

大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。
公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	地理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	地理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	数的推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	政治経済(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	政治経済(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	政治経済(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	政治経済(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	政治経済(5) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	政治経済(6) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	時事(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	時事(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	チャレンジテスト いままで受講してきた内容を理解できているかどうかの確認を公務員模擬試験によって行う。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する
その他	40	課題レポート(チャレンジテスト)等
教科書		
資格の大原 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語表現技法 I (プレゼンテーション)				ナンバリング	1301/2264
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松本 文治						

授業の位置づけ

「話すことによって伝える」コミュニケーション能力を学修するための科目である。
 ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」と最も深く関係するが、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」とも関係がある。

授業の概要

この授業は、効果的なプレゼンテーションの方法を演習を中心に学ぶ。「話したいこと」だけを話す自分勝手に伝わらないプレゼンテーションを排し、聞く人が聞いてよかった・楽しかったと思えるような(そしてそれゆえにしっかりと内容が伝わるような)win-winのプレゼンテーションの考え方の基礎を完全に固め、実践的運用が可能となるレベルを到達目標とする。そのため授業は「構想・計画→入念な準備→実演→自己反省・相互批評」のループを通じて着実に技術を修得することのできるよう展開される。

到達目標

・聴衆を前に自分の主張を何も見ずに伝えることができる。 ・正しい服装・態度、豊かな声量・表情で聴衆に訴えることができる。 ・グループワーク(ディベート・グループプレゼンテーション)に積極的に取り組み、協働・協調的行動を取ることができる。 ・パワーポイントを駆使して聴衆に自分の主張を訴え、共感を引き出すことができる。 ・大衆の共感を得られる内容の動画などをグループで作成し、SNS上に公開することができる。

授業の方法

・板書、視聴覚メディア、ICT、印刷物を使用して講義形式で説明を行う。 ・説明に基づき、個人で発表(スピーチ・パワーポイント)の準備を行い、発表する。 ・説明に基づき、グループで討論(ディベート)の準備を行い、討論・審判を行う。 ・説明に基づき、グループで大衆の共感を得られる内容の動画などを作成し、SNS上に公開する ・発表・討論の相互評価と自己評価を行う。評価結果は個人・グループにフィードバックする。

ICT活用

・Web上でのアプリケーション(アンケートフォームを用いたプレゼンテーション相互評価の入力・送信・閲覧によるフィードバックに基づく自己評価入力・送信)を用いた双方向授業を取り入れる。 ・プレゼンテーションのスライド作成や発表によるPCやプロジェクターの操作を用いた双方向授業を取り入れ、ICT技術の修得を促す。 ・SNS投稿などを通じて、ネット上における配慮事項の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

公立高等学校の国語科教師としての勤務経験が約37年あり、国語科教育の「話す・聞く」指導に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・ディベートに対する相互評価・自己評価のシェアリングによって履修の成果と課題・解決方法を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション コミュニケーション能力の大切さを認識する。 教材提示(配信)、授業の進め方を説明する。 社会で高評価を得ているプレゼンテーションや日本の伝統 話芸を鑑賞して自身の今後に資する。 上記の学修内容を確認しておく。(90分)	上記の学修内容を事前に確認 しておく。(90分)	配信教材を印刷し一読する。 (90分)
担当教員			
第2回	スピーチ(自己紹介) 配信教材等に基づいて説明する。説明の後、各自原稿作成 や口頭発表の準備を行う。	配信教材等を参考にして原稿 作成や服装・姿勢・声量・声調 等発表準備をしておく。(90分)	上記の学修内容を確認する。 (90分)
担当教員			
第3回	スピーチ(自己紹介)実演1 前回の準備に基づいて履修者の半数について行う。1人3 分以内。 発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行 えるよう、評価方法を理解して臨 む。(90分)	次回発表者は原稿作成や発表 準備をしておく。発表終了者は 相互評価を熟読し自らの課題を 明確化する。(90分)
担当教員			

第4回	スピーチ(自己紹介)実演2 前回の準備に基づいて履修者の残り半数について行う。1人3分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第5回	PPTを用いた発表1(私のオススメ) 上記について説明する。説明の後、各自発表項目決定、スライド作成や発表の準備を行う。(1人5分以内)発表後、相互評価と自己評価を行う。	PPTの操作方法を確認しておく。 他人にその素晴らしさを一番知ってほしい物(事・場所・人)について考えておく。(90分)	PPTを用いた発表の準備を進める。(90分)
担当教員			
第6回	PPTを用いた発表2(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	自身の「お勧め」を明確化しておく。(90分)	スライド作成などの準備を進める。 次回発表者は準備を完了させる。(90分)
担当教員			

第7回	PPTを用いた発表3(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	次回発表者は発表準備を完了させる。発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第8回	PPTを用いた発表4(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の残り1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第9回	「ミニ・ディベートの実践」(1) 「ディベートの方法」に関する発表を振り返り、履修者全員でディベートに取り組む。 ・論題を決定する。 ・肯定側・否定側・審判・聴衆に分かれる。 ・各役割の確認を行う。 ・論題に基づき、立論・反駁を計画立案する。	配信教材等を熟読し、ディベートについて理解しておく。(90分)	自身が分担した役割が果たせるよう準備しておく。(90分)
担当教員			

第10回	「ミニ・ディベートの実践」(2) 前回分担した役割に沿って実際にディベートを行い、審判する。聴衆役は、肯定側・否定側・審判のうち、どの役割が一番優れているか審判する。	授業で示したテーマについて意見文を作成する(90分)	次週の課題発表の準備(90分)
担当教員			
第11回	グループプレゼンテーション1(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) 上記の内容でグループプレゼンテーションを準備する。具体的には履修者間でグループを組み、各自担当とテーマを決定し、発表・投稿等の準備に取り組む。	教材の該当記述を確認する等して、各自の役割を十分に果たせるよう準備準備をした上で授業に臨む。(90分)	グループで決定した内容と役割が順調に実施できるよう準備する。(90分)
担当教員			
第12回	グループプレゼンテーション2(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	教材の該当記述を確認する等して、各自の役割を十分に果たせるよう準備をした上で授業に臨む。(90分)	自己評価・相互評価を通して、今回自分の果たした役割を総括する。(90分)
担当教員			

第13回	グループプレゼンテーション3(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	次回発表者は発表準備を完了させる。発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第14回	グループプレゼンテーション4(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し、自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第15回	グループプレゼンテーション5 全グループ発表済みの場合は、プレゼンテーションのWeb上配信方法技術等を講義する。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	スピーチ(20)、PPTやSNSを用いた発表(50)ディベート(30) 合計100点 出席率66%以上を評価対象とする。
その他	0	なし
教科書		
使用しない。		
参考文献		

授業内で適宜指示する。

履修条件・留意事項等

状況如何で講義内容変更の場合あり。
 教材配信システム使用。
 出席率66%以上で全対象課題提出・発表の場合評定対象とする。
 連絡はGoogle classroom で行う。
 メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。
 メールや授業での言葉遣いが不適切な場合は、単位認定しない場合もある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		世界の言語と日本語				ナンバリング	1320
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

この科目は、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身に付けることを達成する科目であり、他の言語系科目と関連する。

授業の概要

この授業は、できるだけ多くの世界の言語に触れることにより、英語などの大言語だけが「外国語」でないことを知ること、そして日本語を外国語として見るができるようになることにより、世界の言語の中における日本語を発見していく。受講生は、これまでどんな言語を学んだことがあるか、どんな言語に興味があるか調査し、世界の言語、言語学の歴史(世界の言語はどのようにして分かれたのか、どれが兄弟・親子関係にあるのか)について学んでいく。授業では 簡単な諸外国語の会話練習を通して、外国語学習の壁を取りはらい、世界の言語社会への視座を広げていく。

到達目標

この授業では、できるだけ多くの世界の言語にふれることにより、

- 1) 英語だけが「外国語」でないことを知り、一般化することができる。
- 2) 日本語を外国語として見るできるようになり、日本語を本当に知り使用・活用することができる。
- 3) 英語が得意でも苦手でも、他の言語を学ぶことにより他の言語話者への配慮ができる。
- 4) 他の言語を複数学ぶことにより、初見の言語でも予測し学習を容易にすることができる。

また授業では会話練習を徹底的に重ねることにより、

- 1) 英語以外の外国語での挨拶ができるようになる。
- 2) 街で外国人に会ってもどきどきせずに挨拶できるようになる。
- 3) 世界中を旅するコスモポリタンな気分になれる。

※ 以下のシラバスで「学修する」と書かれている場合は、すべて「学び修する」の意である。

授業の方法

板書・配布資料・パワーポイント・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式で進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。

ICT活用

Google Workspaceに付属している機能（Google Formなど）によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。 世界の言語:世界の言語はどのようにして分かれたのか、 どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。 フランス語(1):アルファベットと発音、名詞と冠詞について 学修する。 韓国語:ハングルの形成法、基本母音字10個を学修する。	世界の言語に興味をもち、いろいろ調べてみておいてください(30分)	フランス語の名詞と冠詞について、およびハングルの基本母音字について復習(180分)
担当教員			
第2回	※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習してもらいます。 フランス語(2):人称と動詞変化(活用)について学修する。 韓国語:基本母音字の復習、子音字(가・나・다・라・마・바・사)を学修する。 アイヌ語:言語背景、文字と発音、およびあいさつ言葉などの紹介。	フランス語の人称変化に関する資料を配布あるいは周知するので読んでおく(60分)	フランス語の人称変化に関する練習問題、および韓国語の基本母音字・子音字(가・나・다・라・마・바・사)の練習問題(120分)
担当教員			
第3回	フランス語(3):所有形容詞、指示詞について学修する。 韓国語:その他の基本子音字を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!第1課「これはギョウジャニンニク?」	韓国語の子音字(平音)を復習してすぐに読めるようにしておく(30分)	フランス語の所有形容詞および指示詞に関する問題、韓国語の基本子音字に関する課題(150分)
担当教員			

第4回	フランス語(4):人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学修する。 韓国語:激音、濃音を学修する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイス語:会話に挑戦!第1課復習。	韓国語の基本子音字について復習(30分)	フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)
担当教員			
第5回	フランス語筆記・会話テスト 韓国語:合成母音字を学修する。引き続き韓国語会話に挑戦。	フランス語筆記テストの準備(120分):事前に昨年のテストを配布します。	フランス語のテスト問題を解く(150分)
担当教員			
第6回	ドイツ語(1):発音および名詞(性および主格)について学修する。 韓国語:パッチムを学修する。 アイス語:会話に挑戦!第2課「カラスはトウモロコシを食べる」	韓国語会話練習(30分)	ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハングルを確実に覚える(150分)
担当教員			

第7回	ドイツ語(2):人称および動詞変化について学修する。 韓国語:ハングル発音テストプリントの説明、解説。 アイヌ語:会話に挑戦!第2課復習。	ハングルの復習(30分)	ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハングル発音テストプリントの復習(150分)
担当教員			
第8回	ドイツ語(3):冠詞と格について学修する。 韓国語:指定詞이다, 助詞는/은について学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!第3課「どこから来たの?」	ハングル発音テストの準備(60分)	ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)
担当教員			
第9回	ドイツ語:総復習時間(主に人称代名詞について) 印欧語について(文字・分布・特徴など)学修する。 韓国語:아니다, 助詞가/이を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!第3課復習。	ドイツ語筆記テストの準備(150分)	ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)
担当教員			

第10回	ドイツ語筆記・会話試験 韓国語:存在詞있다、助詞에を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第4課「あなたのお名前は？」	ドイツの試験準備(150分)	ドイツ語試験問題を持ち帰って改めて解く(150分)
担当教員			
第11回	アラビア語(主に文字)について簡単に紹介。 韓国語:練習問題をやりながら総合復習。 アイヌ語:会話に挑戦！第4課復習。	韓国語の復習(30分)	アラビア語の文字練習・会話練習、韓国語の復習・会話練習(150分)
担当教員			
第12回	スワヒリ語(1):文字と発音、人称・時制・アスペクトについて学修する。 韓国語:합니다体、関連助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！(その5)	スワヒリ語について事前調査(30分)	スワヒリ語練習問題、韓国語練習問題(150分)
担当教員			

第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学修する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!第5課「働いて手が痛い」	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習 アイヌ語:会話総復習	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員			
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦)、授業内の課題(ハングルテスト含む)、授業参加度による総合評価を行う。
その他	0	
教科書		
適宜、講義プリントを配布します。		
参考文献		

ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／終風社
事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店
The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge
ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社
その他、授業中およびGoogle classroomにて適宜紹介します。

履修条件・留意事項等

くれぐれも横着しないようにしてください！
そして授業中は大きな声で発音してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語表現技法Ⅱ（文章表現）				ナンバリング	1302/2265
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松本 文治						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、実用日本語の文章作成能力を習得する科目である。ディプロマ・ポリシーの「学術目的の言語使用に主眼を置いた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている。（知識・技能）」という点に最も関係がある科目である。高等教育の基礎となる文章作成能力を身につけることで、今後の論文作成能力の基礎をかたちづくる。

授業の概要

この授業は、大学生生活の基本となる日本語の文章表現能力を養成する。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。大学生のラーニング・スキルとしての基本になる文章表現能力の学修は、このあとに続く全ての科目の基礎能力となる。また、社会で必要となるスキルのひとつでもある文章作成能力は、外国語学習の基礎力であり、様々な文章の「型」を文章作成と添削および相互批評を組み合わせた実作学習によって習得する。

到達目標

- ・社会に存在する様々な文章の「型」について分類することができるようになる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実地的な文章作成ができるようになる。
- ・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。

授業の方法

- 1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。
- 2.説明に基づいて実際に各自文章作成・添削・相互評価を、毎時間行う。
- 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
- 4.全授業で数回文章作成能力到達度チェックを行う。
- 5.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の添削を受け、指定されたものをすべて提出する。

ICT活用

必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

公立高等学校の国語科教師としての勤務経験が37年あり、学校教育、中でも国語科教育に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	手紙文の型 手紙文の形式を理解し、心情を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.6-11の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第2回	ビジネス文書の型 ビジネス文書の形式を理解し、用件を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.12-15の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	三段構成の型 「三段構成で書く」、「常体文で書く」、「一文を40字以内で書く」ことを理解し、これらの書式による文章作成を学ぶ。	PP.16-19の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第4回	原稿用紙を用いた文章作成の型 意見文視写を通して、原稿用紙を用いた日本語表記法に沿った文章作成を学ぶ。	PP.20-23の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	新聞読者投稿欄の文章の型 新聞投書欄の文章作成を通して、客観的な視点で事実を書くことを学ぶ。	PP.24-25の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第6回	見ることと書くことの関係(1) 報道文 身近な事件に関するメモをもとに、報道文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことを学ぶ。	PP.26-27の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第7回	見ることと書くこととの関係(2)観察文 身近な対象に関する観察メモをもとに、観察文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことに習熟することを学ぶ。	PP.28-29の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	インタビュー書き起こし文の型 履修者同士のインタビューと紹介文の作成を通して、聞き書きの手法による文章作成を学ぶ。	PP.30-33の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	聞き書きの型(1) 前回の「インタビュー」を発展させ、「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を聞き書きし、記録する方法を学ぶ。	PP.34-35の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第10回	聞き書きの型(2) 「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を本人に代わって記録させてもらい、聞き書きとして完成させることを学ぶ。	PP.36-37の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第11回	論説文の型 論説文の型に沿って文章を作成することを通して、事実と意見を適切に書き分ける方法を学ぶ。	PP.38-41の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	論文に挑戦！(1) 「はじめに」、「各章」、「考察」、「おわりに」等論文の形式や、書くための資料を入手する(ドキュメンテーション)の手法について学ぶ。	PP.42-45の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第13回	論文に挑戦！(2) 前回までの学習を生かし、形式に沿って論文作成に取り組む。	PP.46-47の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	論文に挑戦！(3) 前回までの学習を生かし、論文形式の文章を作成し、完成させる。	PP.48-49の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	添削と推敲—まとめ— これまで学んだ文章表現にかかわる知見に基づき、習得した文章表現能力について、添削と推敲を通して自己評価することを学ぶ。	PP.50-51の熟読・理解・課題作成。指定された提出課題の完成。(90分)	指定された提出課題の完成・提出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作成した文章のうち指定されたものを提出する。 指示された課題をすべて提出した場合、評価の対象とする。
その他	0	出席率66%以上を評価対象とする。
教科書		
「型」で身につける文章作成技術／矢部玲子／大学図書出版		
参考文献		

必要に応じて提示する。
必要に応じて教材配信システム等ICTを活用する。

履修条件・留意事項等

状況如何で講義内容変更の場合あり。
教材配信システム使用。
出席率66%以上で全対象課題提出の場合評定対象とする。
連絡はGoogle classroom で行う。
メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。
メールでの言葉遣いが不適切な場合は、単位認定しない場合もある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語の表記と語彙				ナンバリング	1322/2262
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

この授業では、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の高度な運用能力を中心に、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけることを目的とする科目であり、他の日本語系の科目と関連する。

授業の概要

この授業は、社会人基礎力に欠かせない正しい日本語表記を身に付け、場面や目的に合わせた語彙を増やしていく。講義と演習を組み合わせ、漢字検定あるいは日本語検定2級程度の漢字・表記・語彙・言葉の意味および公務員試験等で一般常識とされる日本語運用に関する漢字語彙の定着度を測る。本授業の漢字リテラシー基準には、常用漢字、人名・地名漢字、時事用語などの現代日本語漢字の正しい読み方と、四字熟語および諺・故事成語などの意味理解も含め、公的な場面で使える語彙を増やしことばの使い分けを身に付けていく。

到達目標

1. 社会人基礎力となる一般常識とされる常用漢字が定着し、一般的な四字熟語を使用・運用できるようになる。
2. 漢字のしくみを理解し、未知の漢字でも読み方を関連づけ、一般化・推測できるようになる。
3. 日本語の語彙を増やし、いろいろな表現で自己や出来事を知的に描写し操作できるようになる。

授業の方法

板書およびパワーポイントを通じた講義、グループワーク、プレゼンテーションを通じて15回の授業を行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告・紹介したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

小テスト等の提出物は全て採点して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業のやりかた、発表のしかた、評価方法、この授業の意義などを丁寧に講義する。	シラバスを読んでおく(30分)	配布プリントを読み課題に取り組む、発表グループを決める(150分)
担当教員			
第2回	漢検教科書 ステップ1～3:書き取り練習と講義 漢字のしくみ、音訓概講(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:語彙・言葉の意味の各例題)	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第3回	漢検教科書 ステップ4～6:書き取り練習と講義 日本語史について:歴史的変遷、南方・北方説について(講義) 故事成語「矛盾」について(『韓非子』該当箇所の講読を含む)	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第4回	漢検教科書 ステップ7～9:書き取り練習と講義 常用漢字について(講義) 中国史概観(講義)(『漢辞海』第四版附録頁を共有して概観)	教科書該当部分の問題を解く、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			
第5回	漢検教科書 ステップ10～12:書き取り練習と講義 『史記』廉頗藺相如列伝を読む(前半)(講読) 漢字の字体について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」語彙練習4～3級)	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第6回	第1回漢字復習確認テスト(ステップ1～12)・語彙テスト 漢検教科書 ステップ13～15:書き取り練習と講義 『史記』廉頗藺相如列伝を読む(後半)(講読) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」語彙練習2級前半)	描きうにんテストの準備、および教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第7回	漢検教科書 ステップ16～18:書き取り練習と講義 ひらがな・カタカナの歴史について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」語彙練習2級後半) グループ発表(第1回)	教科書該当部分の問題を解く、 グループ発表者や発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および確認テスト・教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第8回	漢検教科書 ステップ19～21:書き取り練習と講義 表記・送りがないについて(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第2回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			
第9回	漢検教科書 ステップ22～24:書き取り練習と講義 漢字の字体について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第3回)	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備、担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第10回	第2回漢字復習確認テスト(ステップ13～24)・語彙テスト 漢検教科書 ステップ25～27:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第4回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第11回	漢検教科書 ステップ28～30:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第5回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第12回	漢検教科書 ステップ31～33:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(現代において頻用されるもの) グループ発表(第6回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			

第13回	漢検教科書 ステップ34～36:書き取り練習と講義 カタカナ語について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(新聞・雑誌などで 目にするもの) グループ発表(第7回)	教科書該当部分の問題を解き、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、お よび教科書該当部分の問題を 解く(90分)
担当教員			
第14回	漢検教科書 ステップ37～39:書き取り練習と講義 人名・地名漢字について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(現代の一般教養と して) グループ発表(予備)	人名・地名漢字について事前調 査、教科書該当部分の問題を 解く、発表担当者は発表の準備 (90分)	講義内容・配布プリント復習、お よび教科書該当部分の問題を 解き、復習確認テストの準備(90 分)
担当教員			
第15回	第3回漢字復習確認テスト(ステップ25～39)・語彙テストお よび復習	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備(90分)	漢検教科書の総復習および最 終提出課題の準備(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	漢字復習確認テスト、毎回の小テスト、グループ発表、最終課題など各種課題、授業参加度の総合評価
その他	0	
教科書		
『漢検準2級 漢字学習ステップ 改訂三版』／日本漢字能力検定協会 『日本語検定公式領域別問題集 改訂版 語彙・言葉の意味』／畑 恵里子(編集), 日本語検定委員会(編集)／東京書籍		
参考文献		

常用漢字表(文化庁)
『全訳 漢辞海 第四版』／戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編／三省堂

履修条件・留意事項等

とにかくいろいろな手を動かす作業をしてもらおうと思っています。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語コミュニケーション技法				ナンバリング	2304/2360
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目である。

授業の概要

この授業は、情報端末を介した交流が日常的になった現代、さまざまなコミュニケーションのチャンネルが広がっているが、人と対面して「話す」ことがコミュニケーションの基本であることの重要性が再確認されている。この授業では、信頼関係を築くための非言語メッセージはもとより、良質の「スピーチ」を客観的に観察することなどを通じ、「きく」ための技術やアサーティブなコミュニケーション技術を身に付けていく。授業では、各自の日本語能力を向上させると同時に、目的に合わせて自分をどうアピールしていくのか、自己PR動画や就活面接用ウェブ動画の制作と振り返りで、目的に合ったパフォーマンスができるようになることを目指す。

到達目標

1. 4つの「きく」姿勢を意識して、相手の話の意図に配慮し協調できる。
2. 話の内容を簡潔にわかりやすく伝える手法を応用できる。
3. 対人コミュニケーションにおける第一印象や態度として、スマイルを意識的に表出・操作できる。
4. 目的や相手、場に合わせた話し方を適用できる。
5. 自己のコミュニケーション行動の問題点をモニター・測定できる。

授業の方法

プレゼンテーションやスピーチについて、毎授業時での少人数ごとのグループ活動を通じて互いに気づき・修正しあい・フィードバックにつながる形で大きな発表形式にもっていく。また毎回コメントシートを記述してもらい、ポイントを絞った「確認用ペーパー」とする。

ICT活用

Google classroomを通じた課題提出のほか、パワーポイントその他を用いたプレゼンテーションを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

自己評価や振り返りを含めた各課題はコメントを記して個別返却し、優秀な課題には、その学ぶべきところを全体の講評で紹介し共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・「伝える」ことについて、「話しかた」「構成」「内容」など4技能を中心とした解説を行う。	事前にシラバスを読んでおく。(30分)	次回の「自己紹介」について、話す内容を整理しておく。(150分)
担当教員			
第2回	自己紹介(グループ活動) ・グループを組んで他人に自己紹介をしてみる。 ・その際によくはたらくよい「自己紹介」を考える。	事前に自己紹介の内容を考えておく。(30分)	よい「自己紹介」について考え、次回への糧とする。(150分)
担当教員			
第3回	伝えるためには「目を見て話す」(グループ学習):対人関係を構築するための方法 ・目を見て話す練習をする。 ・目線を配る練習をする。	今回のテーマについて、他の人の話している姿を観察しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			

第4回	「聞く練習」と「話す形」(グループ活動) ・引き続き「目を見て話す」「目線を配る」練習をする。 ・表情に気をつけてみよう。 ・傾いて聞く練習、および話し手の気持ちを考慮する。 ・好きなもののことを考えて言葉にする練習をする。	前回学んだことを思い出して確認しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			
第5回	朗読とスピーチ・プレゼンテーションの違いについて(グループ活動) ・両者に決定的な違いがあることを体験する。 ・「調べ発表」風の節末上げ・文末上げを知り、完全撲滅を試みる。 「好きなこと」発表練習(グループ活動) ・自分の「好きなこと」についてよく考え、それを売り込むにはどうすればよいか見つけ出す。 ・好きなもののことについて発表リハーサル・ピアレビューをする。	前回学んだことを思い出して確認しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			
第6回	語用論的規範についての基礎レクチャー ・語用論と意味論 ・関節発話行為 (by Austin) ・会話の公理 (by Grice)	今回のテーマ(「好きなこと」)について、話す内容をある程度考えておく。(30分)	今回のグループ活動を通じて気づいたこと・指摘を受けたことについて、しっかりと受け止めて発表の準備をする。(150分)
担当教員			

第7回	公の場に立ってみよう ・過去の「演説」動画を視聴し、観察・分析する。 ・公の場で話してみる。	「演説」について考えておく。(30分)	次回の発表についてしっかりと準備をする。(150分)
担当教員			
第8回	「好きなこと」発表(前半) ・自分の好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省、あるいは準備をする。(150分)
担当教員			
第9回	「好きなこと」発表(後半) ・自分の好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省をする。(150分)
担当教員			

第10回	「自己ブランディング」について(グループ活動) ・自分のいいところ、売り込めるところは何か、考える。 ・グループでお互いのいいところを提案し合う。	自己ブランディングについて調べておく。(90分)	自己ブランディングについて調べる。(90分)
担当教員			
第11回	「自己紹介・自己アピール」 ・状況を設定し(就職面接など)、売り込みポイントを探る。 ・自己紹介・自己アピールを構成する。	新しい「自己紹介」のことを考える。(30分)	新しい「自己紹介」を準備する。(150分)
担当教員			
第12回	「自己紹介・自己アピール」 ・グループに分かれてお互いに「自己紹介」および解説。	新しい「自己紹介」を準備する。(150分)	今回学んだ内容を加味しつつ新しい「自己紹介」を準備する。(150分)
担当教員			

第13回	「自己紹介・自己アピール」発表(前半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省、あるいは準備をする。(150分)
担当教員			
第14回	「自己紹介・自己アピール」発表(後半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省をする。(150分)
担当教員			
第15回	発表(予備時間)、および総まとめ。	これまでの授業で学んだことを振り返る。(60分)	これまでの授業で学んだことを振り返る。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内発表(2回)、小課題、授業参加度などの総合評価。
その他	0	
教科書		
使用しません。		
参考文献		

『自分をどう表現するか パフォーマンス学入門』／佐藤愛子／講談社現代新書
ほか、書籍やサイトなどを授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語学				ナンバリング	2324/2274
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

日本語について、ことばの専門家として必要不可欠な知識を修得し、正しい考え方を導く科目である。この科目は、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目であり、他の言語・語学系科目と関連する。

授業の概要

この授業は、言語学的な考え方を基本として、現代日本語の文法に関するさまざまなトピックについて講義する。日本語についての知識を深め、英語・中国語・日本語、およびその他の言語について実践に応用可能な知識及び技能を身につけること、および問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができること、および学びの成果を社会人生活の中で活かすことを達成する科目である。なぜわざわざ日本語の文法構造を学ぶ必要があるのか、そもそも文法は必要なのかなどの疑問や批判に答え、日本語をはじめとする言語の精妙さを、現代日本語を通じて講義する。

到達目標

1. 日本語について正しい視点を持ち、応用することができる。
2. 日本語について正しいデータ収集を行い、一般化することができる。
3. ことばに対して正しい分析を行うことができる。
4. 日本語(あるいはことば)に対する謬見を指摘できる。

授業の方法

板書・パワーポイントおよび視聴覚メディアを活用しながら、講義形式ですすめる。また毎回コメントシートおよび小課題の解答を提出してもらい、理解度を確認する。

ICT活用

Google workspaceを活用する(Google Formでの設問・コメント収集、Google classroomを通じた情報提供など)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出してもらった授業に対するコメントなどを授業内でとりあげ、それぞれについて回答および示唆、参考資料の紹介などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「タブラ・ラサからはじめよう！」～日本語学とは 「生物学」は生物を、「法学」は法律を研究する。では「日本語学」が研究対象とする「日本語」はどこにあるか？という問いを皮切りに、15回の講義で学ぶことのしっかりとした基礎を確認する。	日本語について考えてくる(90分)	リアクションペーパーに「そのあと考えたこと」および「その日の課題」に対する解答を書き込む練習(90分)
担当教員			
第2回	「ぜーいん、起立！」～日本語の「音」を探してみよう 自分の口はどんな音を出しているのか、発音しながら確認する。補足資料としてIPAのチャートを用いる。これにより日本語(あるいは言語)の音声についての基礎感覚を身につけることができる。	日本語のサ行とハ行について考えてくる(90分)	課題として与えられたIPAを発音できるようにしてくる(90分)
担当教員			
第3回	「トマトの反対はトマト？」～日本語のアクセント・イントネーション 2音節語を中心に、日本語のアクセントの概要について自覚的になることができる。データとして2音節語のリストを用い、学生自らの内省をもとに分類を行ってもらおう。おまけとして方言および歴史的なアクセントについての話を行う。	「～ちゃん」のアクセントについて考えてくる(90分)	「〇〇県」と「〇〇」のアクセントについてまとめる(90分)
担当教員			

第4回	「尾鰭」は「おびれ？おひれ？」 いわゆる連濁と呼ばれる現象について、音声から語構成に至る制約が存在することを、窪園晴夫氏の研究成果を用いてやさしく解説する。	そもそもなぜ連濁するのかということについて考えてくる(90分)	授業の内容を整理して完全に理解する(90分)
担当教員			
第5回	「塗り薬、粉薬、咳止め薬、便秘薬」～日本語の形態論・形態素・語構成 無意識に用いている「語より小さい単位」が組み合わさることにより、生産的にいろいろなことを表すことができるようになることを実感／確認できる。また世界の言語について「長い語」の紹介を行う。	長い語を見つけてくる(90分)	日本語における蔓苔桃形態素を自力でみつける(90分)
担当教員			
第6回	「動詞は動作を表す語？」～日本語の品詞について そもそも名詞や動詞という分け方は誰のためのものか、という視点を徹底することによって、自分が母語話者として使っている無意識の「品詞分類」を実感することができる。第1回の授業をさらに進めた内容。	品詞はあったほうがいいのか、ないほうがいいのか、主張およびその理由を考えてくる(90分)	品詞分類におさまりきらない語をみつける(90分)
担当教員			

第7回	「壊したんじゃない、壊れたんだよ！」～ 日本語の自他対応動詞 日本語にみられる自他対応動詞について、その認知的意味、および外国語との関係を見ることにより、言葉の認知的基盤を確認する。	日本語以外の自他対応について考えたり調べたりしてくる(90分)	授業の内容を整理して完全に理解する(90分)
担当教員			
第8回	「食べさせられはじめていたらしいわよね」～ 述語の階層長い用言複合体述語を生産することのできる日本語の特徴をみるとともに、言語がどのような階層をもっており、それに基づいて設計されているかを繙く。キーワードとして「主観的／客観的描写」「命題的／モダリティ的表現」を導入する。	用言の前と後ろにつくことができるものをできるだけ多く見つけてくる(90分)	用言に後接する要素がそれぞれの階層までを許容するか、丁寧に調べてくる(90分)
担当教員			
第9回	「赤ちゃんはどうやって話せるようになるの？」～ 言語修得について・その1 我々は全くの白紙状態から言語を修得していくのではなく、ほとんど完成した状態で生まれてくるという論を紹介し、議論する。第1回は言語修得の直感的説明の誤りを正し、赤ちゃんが母語の音声を獲得していく様子について段階を追ってみていく。	赤ちゃんがことば(特に文法)を修得するときどのように修得するか、一生懸命考えてみる(90分)	「そのあと考えたこと」をがんばって書く(90分)
担当教員			

第10回	「赤ちゃんはどうやって話せるようになるの？」～ 言語修得について・その2 音声修得した赤ちゃん(我々)はその後、どうやって言語を修得していくのか。「物の名前を覚える」というのがいかに難しいことであるかを実験結果から繙き、その後の修得過程を見る。また臨界期についてもふれる。	赤ちゃんがことば(特に文法)を修得するときどのように修得するか、前回の授業を基礎として一生懸命考えてみる(90分)	「そのあと考えたこと」をがんばって書く(90分)
担当教員			
第11回	「ええっ、あれで『そば』って読むの!？」～ 日本語の表記ひらがなとカタカナの歴史を講じるとともに、数種の文字を使い分ける表記体系をもつ日本語について改めて考え、漢字の音訓や万葉仮名、キラキラネームのしくみについての見方を変える。また日本語史についても簡単に論じる。	ひらがなとカタカナの歴史について調べる(90分)	万葉仮名と変体仮名について説明できるようにする(90分)
担当教員			
第12回	「日本語ってひとつじゃないんですか？」～ 日本語の方言・その1 身近にみられる北海道の方言、および関西の方言について考える。また方言について、その「役割」について各自が自分のこととして考える。	日本になぜ方言があるのか、考えてくる(90分)	配布課題プリントに基づいて、方言を練習してくる(90分)
担当教員			

第13回	「日本語ってひとつじゃないんですか？」～日本語の方言・その2 東西方言・方言圏論などを紹介し、またあわせて琉球諸語を取り上げることにより、上代・中古日本語との関連について思いを巡らせる。	自分の故郷の方言について考えてくる(90分)	自分の故郷の方言について考え続ける(90分)
担当教員			
第14回	「日本語はウラル・アルタイ言語です…か？」～日本語のなかま 印欧語における系統樹の考えを基本に説きながら、日本語の系統について、中国語や韓国語との対比を考えながら、一定の結論を出す。	日本語のなかまにはどんな言語があるか、理由つきで考えてくる(90分)	しっかりと言語リテラシー能力がついたか、チェックする(90分)
担当教員			
第15回	1. 全然OKって全然OKですか？」～正しい日本語論 巷間でよく話題にされる「ら抜き言葉」や「全然＋肯定」表現を取り上げ、正しい日本語について一定の妥当な意見をもつことができるようになる。 2. 「はい、確かに約束します」～発話行為・語用論的機能について 言語行為論の考え方を概観し、「行為としての発話」という面について考える。 「コロソってしたらコロコロしたからパーって行ってギョッてしたの」～オノマトペの世界 日本語のオノマトペ(の構造・体系)を中心に、いろいろなオノマトペについて考える。 3. 「イヌイットの人には雪が見えないって本当ですか」～いわゆる俗説の検討 ほかに「が」と「は」は主語である、「ありがとう」と声をかけると桃が腐らない、などのトンデモ言説を取り上げ、言語リテラシー能力をつける。 4. 「道がどんどん狭くなります」「車だと近いです」～認知言語学緒論 「体験を基にした言語表現」を見つけながら認知的な考え方を概説する。	1. 「正しい日本語」があるかどうか、理由つきで考えてくる。 2. 印象的なオノマトペを調べてくる。(合計90分)	1. 結局「正しい日本語」はどこにあるのか、自分で整理する。 2. 他言語のオノマトペについて調べてみる。 3. 微妙な日本語・楽しい日本語を見つけてくる。(合計90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(レポート、小課題など)および授業参加度などの総合評価とする。
その他	0	
教科書		
授業中にハンドアウトを配布する。		
参考文献		

『よくわかる言語学』／窪菌晴夫[編著]／ミネルヴァ書房
『基礎日本語学』／衣畑智秀編／ひつじ書房
『はじめて学ぶ言語学』／大津由紀雄編著／ミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

教室の中だけでなく、ふだんからいろいろな言葉に興味をもつようにしてください。
第1回の授業で評価方法と課題について丁寧に説明するので、受講予定者は必ず出席してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語と日本文化				ナンバリング	2326
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)ための、発展科目となる。世界の日本語話者とつながるために日本語文化を理解し、その日本語文化を発信できる国際感覚を身につける(関心・意欲・態度)ことを目指している。英語や中国語などの外国語コミュニケーション能力養成には、母語である日本語の視点から、異言語・異文化の表現の共通点と差異を学び、言語と文化を分析する視点を養う。実用日本語科目群のひとつであり、言語プロフェッショナル科目、異文化コミュニケーション科目に関連する。

授業の概要

この授業は、ことばと文化を分析する方法のひとつとしてメタファーやレトリック、外国語に対訳しづらい日本的な表現に焦点を当て、日本語の背景にある日本文化を探究する。受け身表現と「ある」「なる」、「どうも」「よろしく」「まあ、ちょっと」等々、日本語ならではの表現だけでなく、出来事や物事をメタファーで見えていくと、日本語母語話者はどのように物事を見立てているのか、日本人の思考方法や価値観、世界観等が見えてくる。外国人が日本語を学ぶ視点、つまり「ソト」から日本語を眺めてみることで、外国語としての日本語にはどのような言語文化があるのかが見えてくる。

到達目標

1. ことばと文化をメタファーから分析する手法で生産語源の仮説を立てることができる。
2. 日本語と英語における基本的メタファーを比較できる。
3. 日本語と英語・中国語などの外国語の諺や慣用句表現の差異と共通点を説明できる。

授業の方法

各授業の前半は、パワーポイントと講義プリントを用いて講義形式で進めるが、後半はグループまたはペアワークで各課題に関して調査・発表し、ディスカッションしていく。プレゼンテーションは3回行い、復習として確認テストを1回行う。

ICT活用

課題や資料提示、質問はGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時までコメントを添えて個別に返却し、授業で全体の講評を行う。プレゼン等の発表は授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ことばと文化の関係から日本語文化について考えてみよう。	日本語表現で「ヘンだ」と思っている語や慣用句を考えておく。(90分)	日本語表現の「不思議」をまとめておく(90分)
担当教員			
第2回	ソトから眺める日本語 日本語学習者にとって、日本語の難しさとは何か	外国人が日本語を学ぶ際、どんなことが難しいかを調べておく。(90分)	日本語学習者にとって日本語の音声の難しさをまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語のコミュニケーション 話し相手をどう呼ぶか、謝罪や判断留保など日本語コミュニケーションのマジックワードを考える。	日本語における呼称(英語のyouに対応する)表現のいろいろを10以上考えておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	日本語のレトリック 謝罪や勧誘、依頼表現の文化視点	外国人日本語学習者にとって難しい表現はなにかを調べておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			
第5回	日本語からみた日本語の発想Ⅰ 日本文化のウチとソトを確認し、自己の視点中心の日本語と自己を対象化する英語を比べて見よう。	ウチとソトの切り換え基準を確認しておく。(90分)	ウチ、ソト、ヨソの構造をまとめておく。(90分)
担当教員			
第6回	日本語からみた日本人の発想Ⅱ 能動態と受動態：日本語の受身表現の視点を考える。	日本語表現で受身形を用いる場面や状況などを確認しておく。(90分)	日本語の受身表現と能動表現の使い方をまとめておく。(90分)
担当教員			

第7回	ことばと文化を分析する視点 日本語文化を比喻表現から分析してみよう。	日本語の諺で、いかにも日本的だと思われる諺を10以上リストしておく(90分)	日本語の諺と同様の意味の英語の諺をまとめておく(90分)
担当教員			
第8回	メタファーのいろいろⅠ 上下空間のメタファーを考えてみよう	メタファーとは何か、定義とその具体例を調べておく(90分)	日英対照メタファーで「上下」に関する語句や慣用表現をまとめておく(90分)
担当教員			
第9回	メタファーのいろいろⅡ 大小・高低のメタファーを考える。	英語における大小を表わす語句や慣用表現を調べておく(90分)	日本語のメタファーにおける高低・大小と英語の共通点をまとめておく(90分)
担当教員			

第10回	メタファーのいろいろⅢ 英語の動物メタファーについて、グループでプレゼンテーションする。	プレゼンテーション準備をしておく(120分)	外国語と動物のメタファーの共通点と相違をまとめておく(90分)
担当教員			
第11回	メタファーのいろいろⅣ 外国語と日本語の喩えはどこが、どう違うのかをプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)	プレゼンテーションの修正をしておく(60分)
担当教員			
第12回	日本語のユーフェミズム ことばの代替と実体の変化の関係を眺める。	婉曲語法にはどのような表現があるかを調べておく(90分)	日本語における外国語使用や外来語のユーフェミズムをまとめておく(90分)
担当教員			

第13回	日本語のメトニミー 空間的隣接と時間的隣接から誇張法を分析する。	商品や北海道の観光案内など、 そのキャッチフレーズから誇張と 思われる表現を調べておく(90 分)	メトニミーについてまとめておく(90分)
担当教員			
第14回	日本語の擬人法 物語や昔話からの擬人法についてプレゼンテーションする。 。	プレゼンテーションの準備をして おく(120分)	プレゼンテーションで用いた資料やスライドを修正しておく(60分)
担当教員			
第15回	まとめ レトリックに関する専門用語の確認テストを行う。 日本語母語話者が、外国語を使用するとき、どのような表現が誤解されたり理解されづらいかを確認する。	メタファー、メトニミー、シネクドキ等の専門用語と用例を確認しておく(120分)	確認テストの間違いを訂正しておく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題とプレゼンテーション50%、ディスカッションや教室作業を含む授業参加度30%、確認テスト20%。
その他	0	
教科書		
プリントを配布する。		
参考文献		

『日本語文法の発想』森田良行、ひつじ書房。『レトリックと人生』G. レイコフ他、大修館書店。『認識のレトリック』瀬戸賢一、海鳴社。このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語ビジネスライティング				ナンバリング	3306
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの、「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている【知識・技能】」と関連があり、ビジネスシーンに羽ばたく上での文章作成能力を習得する科目である。
「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。【知識・技能】」ことと関係する科目である。

授業の概要

本科目は、日本語でビジネスをする上で欠かせない文書作成の基本を学ぶ。電子媒体が主流の今日であっても、仕事でやりとりする文書には一定の様式とマナーがある。情報技術の進展とともに、ビジネス文書の書き方は少しずつ簡略化され、言葉遣いも変化してきているとはいえ、相手に失礼な表現や言い回し、敬語の誤った使い方では、仕事への信頼を失うことがある。そこで、ここでは、敬語について理論的に学ぶとともに、日常業務における依頼・謝罪・お礼・断り・問い合わせ等の社外文書と、要請や報告、連絡等仕事をスムーズにするための社内文書の基本的な書き方を身に付けていく。

到達目標

・社会に存在する様々なビジネスライティングについて理解できるようになる。 ・各講義の目標とするライティング技術を習得し、実地的な文書作成ができるようになる。 ・文の正誤・適否・美醜等が区別でき、適切な言葉選びが出来るようになる。

授業の方法

1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。 2.説明に基づいて実際に各自で文章作成・添削・相互評価を行う。 3.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の指導を受け、指定されたものを締め切りまでに提出する。

ICT活用

・必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

・公立小学校の担任としての国語教育、また校長としての学校経営や対外的な渉外の知識と経験を有する。これを生かし、実践的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。 ・作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ビジネス文書とは】 個人的な文書、社用文書、公用文書など、文書の種類について、その内容や性格を学ぶ。 【就職課と連絡が取れるようになろう】 就職課へのメールアドレス(携帯電話)登録を通して依頼文のメールを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	社会人の先輩に聞いてみよう。 大学内外の社会人に、職場や業界などの状況を聞き取り、「働くこと」のイメージを学ぶ。 事前の依頼状、事後の礼状など、手紙やメールにおける正しい言葉遣いを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第3回	【ビジネス文書の作成1】テキストp10-41 ・取引に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第4回	【ビジネス文書の作成2】 テキストp42-61 ・社内に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第5回	【ビジネス文書の作成3】 テキストp62-93 ・社交文書や電子的な文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第6回	【文書の受発信業務1】 テキストp94-108 ・受発信に際する取り扱い方、郵便の知識などについて学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第7回	【管理職に聞く】 採用側、会社はどんな人材を期待しているのか。 説明会申込から始まる一連の流れの中で必要とされる文書の作成を体験し、その体裁を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第8回	【文書管理の基本】テキストp109-115 ・ファイリングの知識、効果、効率的な用具等について学ぶ。 ・演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第9回	【就職関連文書1】テキストp122-126 ・履歴書を書いてみよう。 ・就職における文書の役割を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第10回	【就職関連文書2】 テキストp127-132 ・エントリーシートや送付状を書いてみよう。 ・就職活動の過程で必要な文書を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第11回	【就職に必要な文章読解と表記1】 ・基本的な文章読解法を学ぶ。 ・簡潔な表記を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第12回	【就職に必要な文章読解と表記2】 ・難易度が高い文章読解法を学ぶ。 ・複雑な表記について学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第13回	【手書き文字を美しく1】 ・自分の手書き文字を客観的にみつめる。 ・美しさとは	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第14回	【手書き文字を美しく2】 ・美しさと丁寧さ ・「美文字」に見せるコツ	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 作成課題の最終チェックとまとめ問題への取り組みを行い 自己評価することを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	全課題の提出(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出:70%(70点) 出席率、参加態度30%(30点)
その他	0	
教科書		
ビジネス文書ーオフィスワーカーの実務ー(横山秀世 編著／建帛社)		
参考文献		

必要に応じて提示する。

履修条件・留意事項等

「自分の書いた文章に責任を持つ」ことを目的とする。
外部講師の都合等により、授業の順番が変わることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		現代日本語論				ナンバリング	3328
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

現代日本語の変化を説明できるようになるため、実際の日本語使用に主眼を置いた高度な日本語の運用能力を身につける(知識・技能)ための科目である。社会人基礎力としての日本語表現の向上を目指し、目的や場に合わせた適切な日本語運用を身につけ(知識・技能)、日本語を用いた日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に他者との共生・協働することを可能とする柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えて(関心・意欲・態度)いく。

「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」「日本語コミュニケーション技法」「日本語学」に続く科目で、「実用日本語」分野科目である。

授業の概要

この授業は、現代日本語の変化を社会言語学的視点で分析し、ことばと社会の関係、つまり、ことばは社会を映し出す鏡であることを検証していく。日本社会における独特な「役割語」を糸口に、社会的立場による言語使用のパラエティールから、対人関係の親疎やポリティカルコレクトネスと差別語、女ことば等から、社会変化とともに変化することばと変わらないことばの核を眺めていく。受講生は指定テーマごとに調査・発表をし、ディスカッションしていく。たとえば、新語流行語と言語消費、若者ことばの造語法、言語景観やピクトグラムから多言語社会における言語サービスのあり方、アイヌ語や手話など少数派とされる人々の言語権を考えていく。

到達目標

- 1 敬語も含めた「正しい」日本語運用を意識化できる。
- 2 現代日本語の変化に敏感に気づけるようになる。
- 3 若者ことばとフォーマルな表現等、場に合わせた使い分けができる。
- 4 方言も含めた「役割語」が説明できる。

授業の方法

各授業の前半はスライドや配布プリントを使って講義形式で行い、後半はその項目に関連したワークショップと振り返り作業を中心に行う。受講生には課題発表やグループでのプレゼンテーション(2回)と確認テスト(1回)を予定している。

ICT活用

課題や資料配付、質問等はGoogle Classroom を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時にコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション: 社会言語学の視点 現代日本語の変化を考える。自分の日本語運用での問題点はなにかをグループごとに意見交換していく。	近年の日本語のことば遣いの変化に関する問題を具体的に3つ以上考えてくる(90分)	スマホにおける各自の日本語文の使用パターンをメモしておく(90分)
担当教員			
第2回	日本語表現の変化 I 現代の日本語をめぐる諸問題について概説する。「正しい日本語」・「美しい日本語」の視点とは	正しい日本語とはどのようなことか、事例を2つ以上あげ、説明できるようにしておく(90分)	ゆれている日本語表現を5つ以上探して、使用事例を書いておくこと(90分)
担当教員			
第3回	日本語表現の変 II II 「気になる言い方」について、自身の言語表現と照らし合わせ、その運用傾向を分析する。	「すごっ」「寒っ」といった話し言葉における形容詞の感情表現の文法規則を考えておく(90分)	世代差のある日本語表現を5つ選び、その特徴を考えておくこと(90分)
担当教員			

第4回	役割語と現代の若者ことば 役割語から、ことばとアイデンティティーについてを講義する。受講者はグループごとに、近年の若者ことばの特徴とその使い方を発表し、世代別の言語運用の特徴を確認していく。	現代の若者語はどのようにして作られ、どのような場で用いるのか、自身の言語使用経験から分析しておく(90分)	現代の若者ことばの語構成と平安期の語構成の共通点をまとめておく(90分)
担当教員			
第5回	日本語における方言の役割 方言とはどのような役割をになっているのか、災害時の避難所コミュニティや医療用語から概説する。	北海道方言の特徴を具体例を10以上あげて説明できるように整理しておくこと(90分)	北海道方言の特徴とその用例(会話場面)を20作成し、使い方が容易にわかるように整理しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	方言コミュニケーション 受講生は各自が選択した方言の特徴とその使い方をプレゼンテーションし、日本の代表的な方言の使い方を共用する。	指定の各方言の特徴を、その具体的使用例をあげ、プレゼンの準備をしておく(90分)	方言の格差について、ネットではどのような地位が与えられているかを調べておくこと(90分)
担当教員			

第7回	ことば遣いの効果的な活用とは 「女ことば」をはじめ日本語の多様な役割語を通して、心理的に結び付けられたスピーチスタイルとその効果を分析していく。	ある表現が特定の人物像を造る キャラ語を8つ以上収集しておく こと(90分)	多様な表現を分類し、その分類 基準を説明できるようにしておく こと(90分)
担当教員			
第8回	適切な表現とは ことばによる差別や不適切な表現とは何か。マイクロアグレッションのいろいろを自身の体験と他者の言語感覚についてディスカッションしていく。	差別語や放送禁止用語を10以上リストアップし、なぜそれが該当するのか、そしてその言い換え表現を2種類以上、考えておくこと(90分)	不適切とされる表現について、日本語と英語辞書の記述を確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	日本の言語景観Ⅰ 学生は収集した言語景観を発表する。 それらの日本語表現または外国語表現から日本社会の変化や日本語文化を分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備(スライド作成等)をしておく (90分)	公共施設における掲示文や説明文の書き換えをしておく(90分)
担当教員			

第10回	日本の言語景観Ⅱ 学生は商品や商品説明に記された「問題な」日本語文をプレゼンする。 そこから、日本語のレトリックを分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備をしておくこと(90分)	日本語のレトリックを雑誌やネットニュース等から5つ収集しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	外国語としての日本語 外国語としての視点で日本語を眺め、日本語の比喩表現やレトリックを確認し、英語比喩と比較したものごとの「見立て」方の違いと共通点を考える。	外国人が日本語を学ぶうえで難しいことはどのような学習項目か具体的に調べておくこと(90分)	公的機関の情報を「やさしい日本語」と「平易な日本語」で書き換えておくこと(90分)
担当教員			
第12回	日本語会話の特徴 共和型コミュニケーションと対話型コミュニケーションを比較し、会話分析をしてみる。	察しや場を読むといった高コンテクスト文化とはどのような情報共有かを説明できるようにしておく(90分)	市役所の広報誌やHPに掲載されている「お知らせ」を読み、子供や高齢者が一読で理解できる文に訂正しておく(90分)
担当教員			

第13回	日本の絶滅危機言語 アイヌ語	日本語の中のアイヌ語またはアイヌ語をルーツする借用語を30以上記しておく(90分)	アイヌ語で簡単な挨拶や感情表現ができるようにしておく(90分)
担当教員			
第14回	ポライトネスとは 日本語コミュニケーションにおける敬語、敬意表現と丁寧さを考える。	敬語体系を書籍やサイトで読んで復習しておくこと(90分)	タスクシートを完成しておく(90分)
担当教員			
第15回	確認テストとまとめ	復習しておくこと(120分)	確認テストの誤答を訂正し、補足説明を記しておくこと(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	グループ発表を含めた授業参加度50%、課題20%、確認テスト30%。
その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		

文化庁国語課『国語に関する世論調査』各年版、岡本佐智子『日本語教育能力試験に合格するための社会言語学10』2008、アルク。吉岡泰恭夫『コミュニケーションの社会言語学』ほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

Google Classroomに資料配信や課題詳細を提示するので、課題を投稿すること。

備考欄

言語景観の採取については、著作権や個人情報等に十分配慮すること。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育法 I				ナンバリング	3351
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける(知識・技能)ことを目的とした日本語教員養成科目で、「日本語教育法Ⅱ」「日本語教育演習」科目に発展する基礎科目である。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働していけるコミュニケーション能力を養成していく(思考・判断・態度)ために、ここでは外国語教授法と音声指導法を中心に学ぶ。

授業の概要

この授業は、日本語を外国人に教えてみたい人のための日本語教授法入門である。日本語母語話者であれば、誰でも効果的に日本語を教えられるわけではない。今まで無意識に使っていた日本語を外国語の視点で分析する力が必要である。たとえば、「学校へ行く」と「学校に行く」のように、助詞の「へ」と「に」の違いや、基本的な「は」と「が」の使い分けなど、外国人に日本語を効率的に教えるには、日本語に関する言語学的専門知識と、それをどのように教えていけば学習者に理解・習得しやすいのか、日本語教授法の知識も求められる。この講義で、日本語の特徴とその教え方の「これだけは」知っておきたい基礎知識を身につけていく。

到達目標

1. 日本語の音声特徴が説明できる。
2. 日本語非母語話者の母語干渉を受けた音声傾向を述べることができる。
3. 伝統的な日本語教授法や外国語教授法の長所・短所が説明できる。

授業の方法

授業では、プリントやスライドを使用した講義形式を柱にその演習を行う。また、代表的な日本語教授法を各回で少しずつ紹介し、その教授法で外国語学習を体験し、グループごとに各教授法のメリット・デメリットをディスカッションする。毎回、専門用語等授業内容の復習として小テスト(確認テスト)を行う。

ICT活用

Google Classroomを活用し、課題や資料提供、質問の受付を行う。課題も含めて授業では、動画サイトで日本語学習者に対する種々の日本語教授法例を閲覧して学んだり、オンラインで海外の日本語教育機関の日本語学習者と日本語交流したりして、日本語教育の方法を考える。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題には評価やコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評をする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	日本語を学ぶ人々 海外における日本語教育の現状と日本語教育政策	国際交流基金サイトで海外の日本語教育事情を閲覧しておく。(90分)	配布プリントを読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日本語の音声Ⅰ 日本語の母音と子音、音素、無声化(日本語の子音と調音位置・調音法) [教授法1:文法翻訳法]	発音器官の名称と調音点・調音法を調べておく。(90分)	日本語の音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語の音声Ⅱ 日本語の音節、リズム、アクセント、イントネーション [教授法2:直説法]	日本語の音節やアクセントについて調べておく。(90分)	条件異音の特徴と事例をまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	日本語初級学習者の音声 中国語母語話者の日本語音声の特徴 中国で日本語を学ぶ学習者とオンラインで日本語交流を行う	中国語母語話者の日本語音声の特徴を調べておく。(90分)	中国語の母語干渉を受けた日本語音声の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第5回	初級日本語音声・会話の教え方 母語話者別の日本語音声特徴と指導 [教授法3:オーディオリンガルアプローチ]	講義プリントを読んでおく。(90分)	国際音声記号が読めるようにしておく。(90分)
担当教員			
第6回	コミュニケーションのための創造的会話練習 初級レベルのロールプレーからタスク練習まで [教授法4:コミュニケーションティブアプローチ]	広義のコミュニケーションティブ・アプローチとは何か、調べておく。(90分)	コミュニケーションティブ・アプローチの特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第7回	初級レベルの文字・表記 仮名と漢字の教え方 [教授法5:TPR][教授法6:サイレントウェイ]	配布プリントを読んでおく。(90分)	日本語初級レベル指導での助詞「は」と「が」の使い分けをまとめておく。(90分)
担当教員			
第8回	日本語の文法的特徴Ⅰ 文法的特徴:動詞、主語と主題 [教授法7:CLL]	日本語の動詞分類を調べておく。(90分)	日本語初級レベル指導での助詞「は」と「が」の使い分けをまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	日本語の文法的特徴Ⅱ 形容詞、指示詞 [教授法8:ナチュラルアプローチ]	日本語教育の形容詞の分類を調べておく。(90分)	形容詞の分類と使い方を復習しておく。(90分)
担当教員			

第10回	日本語の文法的特徴Ⅲ 存在文と所在文 [教授法9:サジェストペディア]	助詞「に」と「で」の用法を調べておく。(90分)	ここまでの教授法の各特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第11回	日本語の文法的特徴Ⅳ 受身 [教授法10:内容重視の教授法]	日本語表現の受身用法を調べておく。(90分)	学習目的・学習者別の初級学習ニーズを考えておく。(90分)
担当教員			
第12回	日本語の文法的特徴Ⅴ 助詞の使い分け [教授法11:学習者中心の教授法]	助詞「は」「が」「を」の使い分けを調べておく。(90分)	初級レベルの助詞の練習問題10問を作成する。(90分)
担当教員			

第13回	文字・表記の教え方 仮名、漢字の導入方法	似ている平仮名・カタカナとその 教え方を考えておく。(90分)	漢字語彙の導入方法を確認し ておく。(90分)
担当教員			
第14回	日本語の語彙体系 語種と語構成	日本語の4つの語種を調べてお く。(90分)	理解語彙と使用語彙をまとめて おく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 指定する学習項目別の教え方を考え、ペアまたはグルー プで発表する。	課題発表準備。(120分)	各教授法をまとめておく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題発表を含めた授業参加度50%、確認テスト50%。
その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		

高見澤孟他『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』2016、アスク出版。高見澤孟『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』2016、アスク出版。ほか授業で適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育法Ⅱ				ナンバリング	3352
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	伊藤 寛						

授業の位置づけ

この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける(知識・技能)ことを目的とした日本語教員養成の科目で、「日本語教育法Ⅰ」に続く発展科目であり、実践的な「日本語教育演習」科目への基礎となる。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働しているコミュニケーション能力を養成していく(思考・判断・態度)。

授業の概要

この授業では、「日本語教育法Ⅰ」に続き、日本語を母語としない人々に効果的に日本語を教えるために、代表的な外国語教授法の理論を理解し、その応用として、学習ニーズ別の日本語教育方法を学ぶ。受講生は、まず、日本語学習者の立場に立つことの意味を理解し、言語を教える側と学ぶ側の両者の立場から教授法とその応用について理解を深める。その上で、現在日本の国内外で多く使われている日本語教材と代表的な外国語教授法との関係を捉えなおし、実践の場で生かせる日本語学習支援のあり方を考えていく。

到達目標

1. 日本語初級レベルの指導ができる。
2. 日本語学習目的別に適した教材が選択できる。
3. 日本語学習レベルに対応した練習教材が選択(作成)できる。
4. 学習項目に合わせた練習方法に種々の教授法を工夫・応用することができる。

授業の方法

講義プリントとスライドを使った講義形式とその応用演習をペアまたはグループで行う。応用演習は課題項目を指定し、授業内で発表する方法で行う。
また、講義内容に合わせて適宜小テストやミニレポート(授業内レポート)を実施するほか、前半のまとめ(第7回目)と全体のまとめ(第15回目)で理解度確認テストを実施する。

ICT活用

学習項目に沿って、動画サイトから実際の指導方法(モデル授業)を視聴し、実践のイメージ造りを行う。
必要に応じて、日本語学習におけるAIの活用にも言及する。
Google Classroomを活用して、授業内容の質問のほか、課題および講義資料等を配信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

事前課題については授業時に解説を行い、提出課題については次回の授業時までにコメントを添えて個別に返却する。
授業時での発表の場合は、発表終了後に授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション: 日本語学習者について知るため、学習者の立場で外国語学習を捉えなおす。	「日本語教育法Ⅰ」で学んだ事項について、自らの理解を整理しておく。(90分)	自らの外国語学習の経験を通して、外国語(日本語)学習者の理解のあり方を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	日本語教育におけるコースデザインⅠ: 学習者の学習目的に沿ったコースデザインについての基本を理解する。	コースデザインに関する配布資料を読み、事前課題に回答する。(90分)	コースデザインと学習者についての理解の関連性を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	日本語教育におけるコースデザインⅡ: 学習レベルごとに求められる目標について、文化庁「日本語教育の参照枠」などを通して理解する。	文化庁「日本語教育の参照枠」及び国際交流基金「JFスタンダード」を調べておく。(90分)	「日本語教育の参照枠」をもとに、日本語能力試験のN4、N3、N2レベルに求められる内容をまとめる(90分)
担当教員			

第4回	日本語教育とシラバスⅠ： 学習目的に即したさまざまなタイプのシラバスについて理解する。	外国語教育シラバスに関する配布資料を読み、事前課題に回答する。(90分)	タイプ別シラバスについて、それぞれの特徴と具体例を整理する(90分)
担当教員			
第5回	日本語教育とシラバスⅡ： 構造シラバスと機能シラバスを取り上げ、代表的な教材の構成について、その内容と特徴を理解する。	初級段階で学ぶことが望まれる日本語文型を30程度調べておく。(90分)	学習項目を踏まえて、構造シラバス、機能シラバスと教授法との関連を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	日本語教育とシラバスⅢ： タスクシラバスを取り上げ、can-doとの関係や教育方法について考える。	文化庁「日本語教育の参照枠」で示された、A1、A2レベルのcan-doを調べておく。(90分)	タスクシラバスによる授業を想定し、学習レベルにあわせてcan-doを作成する(90分)
担当教員			

第7回	日本語教科書の学習項目とシラバス: 具体的に代表的な教科書の学習項目を取り上げて、シラバスのあり方を検討する。 また、前半のまとめとして、確認小テストを実施する。	配布された教科書に関する資料をもとに、事前課題に回答しておく。(90分)	講義で取り上げた教科書の学習内容とシラバスとの関係をまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	学習レベルごとの学習項目の要点: 初級、初中級、中級といった学習レベルの学習項目について理解し、そこで生じた疑問点や課題についてディスカッションを行う。	学習レベル(初級、初中級、中級)と日本語能力試験レベルとの対応を調べておく。(90分)	それぞれの学習レベルで必要とされる語彙と文型を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	初級の教え方 I: 日本語教育における動詞・形容詞の分類と活用のタイプを理解し、その運用を考える。	初級の動詞に関する配布資料を読んで、事前課題に回答しておく(90分)	自他の対応のある動詞の例文を作成する。(90分)
担当教員			

第10回	初級の教え方Ⅱ: 初級で扱う具体的な学習項目を設定し、その基本練習について検討し、具体的な方法を考える。 (グループまたはペアによる発表を行う。)	パターン・プラクティスについて調べておく。(90分)	講義で取り上げた文型について、異なるタイプのドリル練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第11回	初級の教え方Ⅲ: コミュニケーション能力育成のための応用練習の方法を考える。	コミュニケーション能力について、これまでどのように定義されているかを調べておく。(90分)	具体的な場面を設定して、コミュニケーション活動を行う練習課題を考える。(90分)
担当教員			
第12回	初中級の学習内容: 初中級とはどのようなレベルかを考え、初級から中級への架け橋としての学習内容を検討する。	第8回目の学習内容から、初中級レベルとはどのような能力が求められるかとまとめておく。(90分)	語彙や文法項目を検討し、初中級レベルの読み物教材(400字程度)を作成する。(90分)
担当教員			

第13回	中級の教え方Ⅰ： 中級レベルの学習項目について基本的な考え方を理解し、その上でグループまたはペアで学習活動を考え、発表する。	中級レベルで取り上げるべき日本語文型を20程度、調べておく。(90分)	中級レベルの日本語文型の練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第14回	中級の教え方Ⅱ： 中級レベルにおけるコミュニケーション活動のための学習内容を踏まえ、聴解教材について検討する。	市販の中級レベルの聴解教材を参考に、語彙と文型をチェックしておく。(90分)	WEBニュースなどを参考に、1～2分程度の聴解教材を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 本授業の学習内容を振り返り、その理解度確認テストと解説を行う。	この授業で扱った内容に関する課題に回答して、内容の理解度を確認しておく。(90分)	具体的な日本語学習者を想定し、その立場から、日本語教授法についての考えをまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第7回目および第15回目に、授業内容に関する確認テストを行う。[20%+30%=50%] 学習内容や課題に対する取り組み(事前学習、受講の姿勢など授業への参加度を含む)[50%]
その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。 授業時に使用した講義プリントとプレゼンテーション資料は、Google Classroomで配信する。		
参考文献		

WEB資料:文化庁「日本語教育の参照枠 報告」。国際交流基金「JF日本語教育スタンダード」。ほか。
 文献資料:『中級日本語文法と教え方のポイント』市川保子、スリーエーネットワーク。『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』庵功雄
 他、スリーエーネットワーク。『日本語教育のミカタ』荒川洋平、凡人社。『日本語教師の役割/コースデザイン』国際交流基金日本語教授法シリ
 ーズ。その他、日本語教科書なども含め、授業時に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育演習				ナンバリング	3360
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける」ための科目である。この授業は、課外に行われる日本語教育実習(教壇実習)で自律的な学びができるようにするために、日本語教育の実際を模擬授業を通して学ぶ。模擬授業準備は指定された学習項目についてペアで行うことを基本とする。授業では現職日本語教師も参加して、受講者の模擬授業に対して講評してもらう予定だが、学生同士が互いの模擬授業に対して、アドバイスができるようになることを目指す。

授業の概要

この授業は、「日本語教育法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目で、日本語教員養成課程を修了希望する学生を対象とし、日本語教育実習を行うための準備科目である。実習前に教案の書き方や副教材の作り方、学習者管理の基礎を演習を通して学びながら、初級レベル学習項目で定着度が低い文法等の模擬授業を行い、その振り返りを行う。実習は課外に日本語教育機関で行うため、別途事前指導と事後報告会を開く。

到達目標

1. 日本語初級レベルの授業計画が立てられる。
2. 模擬授業の振り返りから改善方法を見つけることができる。
3. 授業デザインとクラス運営に必要な基礎知識を身に付け、その専門性を理解できる。

授業の方法

日本語教育見学・教育実習の前に、最小限の日本語教育方法・日本語教育支援者としての態度を身に付けてもらうため、模擬授業を中心に、できるだけ実践的なクラスワークの基本を学ぶ。

ICT活用

模擬授業はスライドを作成し、副教材作成・各自の振り返りはGoogle Classroomの課題提示に投稿する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

模擬授業後に講評するだけでなく、履修者が作成するルーブリックで相互評価する。課題のフィードバックは、コメントを添えて個別に返却するだけでなく、よいものはクラスで共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション日本語教育実習とは 多様な日本語学習者および学習目的別の留意事項	文化庁サイト『日本語教育の参 照枠』を読んでおく。(60分)	国内の『日本語教育の概要』お よび、国際交流基金サイトで『海 外における日本語教育の現状』 をまとめておく。(60分)
担当教員			
第2回	授業見学の視点 授業動画から、授業見学のポイントと態度を話し合う。	初中級クラスの指定の授業動画 を見ておく。(60分)	学習者管理について、教師のデ クニックをまとめておく。(60分)
担当教員			
第3回	学習者対象別の授業方法 多様な学習目的・目標と教育方法の選択:日本語授業動 画から、母語別学習者クラスと多国籍学習者クラスの授業 方法を比較する。	指定の授業動画を観察して、タ スクシートを記入しておく。(90分)	初級クラスの教室用語とティ ーチャートークの特徴をまとめてお く。(90分)
担当教員			

第4回	授業準備1:教材準備 学習目的と指導項目に合った教材選択(教材分析・活用)	指定された学習項目のLESSONプランを作成しておく。(90分)	LESSONプランを修正し、副教材を改善しておく。(90分)
担当教員			
第5回	授業準備2:教案の書き方	LESSONプランからより詳細な45分授業案を作成しておく。(120分)	教案を修正・改善し、45分授業に調整しておく。(60分)
担当教員			
第6回	模擬授業1 模擬授業の振り返りと意見交換	模擬授業準備をしておく。(120分)	振り返りレポートを書く。(60分)
担当教員			

第7回	模擬授業2 模擬授業の振り返りと意見交換	模擬授業準備をしておく。(120分)	振り返りレポートを書く。(60分)
担当教員			
第8回	教壇実習と授業準備1 学習項目と教案作成	指定された学習項目の教案を作成しておく。(120分)	教案を改善しておく。(90分)
担当教員			
第9回	教壇実習と授業準備2 日本語初級レベルの学習項目別教材準備	図書館で初級レベルのテキストと副教材を5冊選び、教材分析をしておく。(120分)	指定するテキスト比較をして優先学習目的を比較をしておく。(90分)
担当教員			

第10回	模擬授業3 振り返りと意見交換	模擬授業準備をする。(120分)	教案を改善しておく。(90分)
担当教員			
第11回	模擬授業4 振り返りと意見交換	模擬授業準備をする。(120分)	教案を改善しておく。(90分)
担当教員			
第12回	模擬授業5 振り返りと意見交換	模擬授業準備をする。(120分)	教案を改善しておく。(90分)
担当教員			

第13回	教壇実習と授業の実際 日本語教育機関での見学のポイント	授業動画で教師の学習者管理をまとめておく。(90分)	教師主導の練習と学習者定着についてまとめておく。(90分)
担当教員			
第14回	教育実習 教育実習の振り返りと意見交換	教育実習日誌を清書しておく。(90分)	教育実習日誌のフィードバックに対処しておく。(90分)
担当教員			
第15回	教育実習での学び 教育実習の振り返りと意見交換	教育実習で作成した教案、副教材等を整理しておく。(90分)	課外の教育実習に向かって、教科書分析をしておく。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度) 50% 課題 50%
その他	0	
教科書		
『できる日本語初級・初中級』『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版本冊』『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版教え方の手引き』スリーエーネットワーク、国際交流基金『いろどり』、文化審議会国語文科会『日本語教育の参照枠 報告』ほか、適宜紹介する		
参考文献		

松岡弘監修、庵功雄・高梨信乃『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、グループ・ジャマシィ編『日本語文法辞典』くろしお出版、ほか、授業で適宜紹介する

履修条件・留意事項等

自己都合での教育実習日程変更はできません。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		語学研修 語学研修					
科目名		短期語学研修				ナンバリング	2900
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	青 晴海、渡部 淳、Walzem Allen George、宮本 融、釣 晴彦、巫 靚、石丸 卓						

授業の位置づけ

グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力、柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えるための科目である。学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている科目である。

授業の概要

この研修は、本学の英語圏および中国語圏の提携校において語学学習と異文化体験を行う。語学力だけでなく、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、積極性、行動力を身につけること、大学の授業で身につけた専門性を基に、それまでの学習成果を確認し、課題を見つけることを目標とする。現地研修をより充実させ、目標を達成するために、出発前には学内で実施する研修に参加し、異文化適応力や危機管理について学ぶ。

到達目標

異文化や外国語を母語とする多様な人々と臆することなくコミュニケーションができるようになる。
自分の考え方や文化を相対化して考える姿勢を発表することができる。
自分の考え方を明確に説明することができる力をつける。

授業の方法

研修前のオリエンテーションや事前研修、海外の大学での講義・ワークショップ・インターン等、あるいは海外の大学が提供するオンラインプログラム、研修後の報告プレゼンテーションや課題などを通して、語学力やコミュニケーション能力、積極性を身につけさせる。

ICT活用

オンラインを活用した講義。Zoomなどオンラインを活用したコミュニケーション活動。

実務経験のある教員の教育内容

海外の大学に留学・勤務した経験のある日本人教員。英語圏や中国語圏などで教育・研究を経験したことがある外国人教員。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修や研修の報告、語学研修、事後の課題等に対して担当教員よりコメントを評価をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 短期語学研修の概要や、今後の事前・事後に必要な心構えや基本的な知識などについて、講義する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第2回	【事前研修】 海外提携校での研修に備えて、英語圏や中国語圏の生活習慣・危機管理や街の様子などを学び理解する。現地で役立つ言葉や交流に不可欠な自己紹介などを練習する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第3回	【海外提携校の提供するプログラム】 リスニング(聴解)Ⅰ。 英語や中国語などのリスニング能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第4回	スピーキング(会話)I。 自分の考えを表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第5回	リーディング(読解)I。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第6回	ライティング(文章表現)I。 自分の考えを文章で表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第7回	リスニング(聴解)Ⅱ。 英語や中国語などのリスニング能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第8回	スピーキング(会話)Ⅱ。 自分の考えを表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第9回	リーディング(読解)Ⅱ。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第10回	リーディング(読解)Ⅱ。 一定量の文章を的確に理解する能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第11回	ライティング(文章表現)Ⅱ。 自分の考えを文章で表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第12回	グループ・ディスカッション。 多様な人々と意見を出し合い、対話や議論の中から新しい発見をすることを英語や中国語で挑戦する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第13回	プレゼンテーションI。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語で的確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第14回	プレゼンテーションI。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語で的確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第15回	【研修報告のプレゼンテーションと課題】 研修成果とふりかえり、自分自身の変化や成長をうながすために、研修についての報告プレゼンテーションを行い、研修全体を振り返った課題を提出する。自分自身の学びについて客観的に捉え、他者と共有することを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	オリエンテーションへの参加態度、事前研修・課題、海外提携校で成績や評価、研修後プレゼンテーション・課題の総合評価。
その他	0	
教科書		
研修先で指定された場合には、それにしています。		
参考文献		

適宜指示します。

履修条件・留意事項等

新しいことや知らないことに積極的に挑戦し、異なる考え方や生活習慣に柔軟に考えて対応できるしなやかな感性を持って研修に臨むこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（青 晴海）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学习を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。(思考・判断・表現)
- ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

国際経協力の現場での経験を有する職員の経験を活かし、現地とオンラインでつないで関係者からの情報収集などを行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等を活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス1 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第2回	ガイダンス2 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第3回	自分自身を知る1 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第4回	自分自身を知る2 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第5回	「問題関心」の明確化1 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			
第6回	「問題関心」の明確化2 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			

第7回	論文タイトルの設定1 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第8回	論文タイトルの設定2 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第9回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第10回	「研究の目的」の明確化(2) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第11回	「研究の目的」の明確化(3) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第12回	「研究の目的」の明確化(4) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第13回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第14回	「先行研究」の検討(2) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第15回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			

第16回	「先行研究」の検討(4) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			
第17回	「先行研究」の検討(5) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			
第18回	「先行研究」の検討(6) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			

第19回	「先行研究」の検討(7) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第20回	「先行研究」の検討(8) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第21回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第22回	「研究方法」の設定(2) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第23回	「研究方法」の設定(3) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			
第24回	「研究方法」の設定(4) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			

第25回	「研究方法」の設定(5) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第26回	「研究方法」の設定(6) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第27回	「研究計画書」の作成1 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			

第28回	「研究計画書」の作成2 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究の すすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう 。	「問題関心」「研究の目的」「先 行研究」「研究の方法」をまとめ た「研究計画書」の下書きを作 成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画 書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			
第29回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏 休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受 ける。	修正版「研究計画書」をWordで 仕上げ、提出準備をする。(90 分)	アドバイスを参考に、夏休みに すすめるフィールドワークや各 種調査等の予定を立てる。(90 分)
担当教員			
第30回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏 休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受 ける。	修正版「研究計画書」をWordで 仕上げ、提出準備をする。(90 分)	アドバイスを参考に、夏休みに すすめるフィールドワークや各 種調査等の予定を立てる。(90 分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	
教科書		
参考文献		

「多文化共生のためのテキストブック」松尾知明(明石書房)を参考とする

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（石丸卓）（非開講）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。(思考・判断・表現)
- ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

eラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

国際経協力の現場での経験を有する職員の経験を活かし、現地とオンラインでつないで関係者からの情報収集などを行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等を活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス1 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第2回	ガイダンス2 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第3回	自分自身を知る1 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第4回	自分自身を知る2 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第5回	「問題関心」の明確化1 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			
第6回	「問題関心」の明確化2 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			

第7回	論文タイトルの設定1 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第8回	論文タイトルの設定2 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第9回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第10回	「研究の目的」の明確化(2) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第11回	「研究の目的」の明確化(3) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第12回	「研究の目的」の明確化(4) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第13回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第14回	「先行研究」の検討(2) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第15回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			

第16回	「先行研究」の検討(4) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			
第17回	「先行研究」の検討(5) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			
第18回	「先行研究」の検討(6) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			

第19回	「先行研究」の検討(7) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第20回	「先行研究」の検討(8) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第21回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第22回	「研究方法」の設定(2) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第23回	「研究方法」の設定(3) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			
第24回	「研究方法」の設定(4) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			

第25回	「研究方法」の設定(5) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第26回	「研究方法」の設定(6) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第27回	「研究計画書」の作成1 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			

第28回	「研究計画書」の作成2 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究の すすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう 。	「問題関心」「研究の目的」「先 行研究」「研究の方法」をまとめ た「研究計画書」の下書きを作 成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画 書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			
第29回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏 休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受 ける。	修正版「研究計画書」をWordで 仕上げ、提出準備をする。(90 分)	アドバイスを参考に、夏休みに すすめるフィールドワークや各 種調査等の予定を立てる。(90 分)
担当教員			
第30回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏 休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受 ける。	修正版「研究計画書」をWordで 仕上げ、提出準備をする。(90 分)	アドバイスを参考に、夏休みに すすめるフィールドワークや各 種調査等の予定を立てる。(90 分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	
教科書		
参考文献		

「多文化共生のためのテキストブック」松尾知明(明石書店)

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（渡部 淳）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

基本的授業は対面で行い、板書および諸メディア・パワーポイント・配布物を利用して講義を進める。また学生自身の活動が中心となる科目であるので、授業各回において学生が調査したこと・学んだこと・問題解決の方法についてそれぞれ発表を行い、それについて教員および他の受講者がコメント・学習・ディスカッション等を行うというスタイルで授業を進める。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれぞれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 今後の授業の進め方についての説明。各学生から研究プロジェクトのテーマや分野、関心の範囲についての発表。	シラバスをよく読み、疑問点を明らかにしておく。自分の研究関心について発表できるように整理して準備する。(90分)	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第2回	研究の考え方についてのレクチャー 問題意識、研究対象、研究方法など研究を進めるにあたっての心構えを講義し、各学生の研究テーマを習った方法で整理する。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第3回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(1) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第4回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(2) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第5回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(3) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第6回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(4) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第7回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(5) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第8回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(6) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第9回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(7) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第10回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(8) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第11回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(9) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第12回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(10) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第13回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(11) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第14回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(12) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第15回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(13) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第16回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(14) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第17回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(15) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第18回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(16) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第19回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(17) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第20回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(18) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第21回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(19) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第22回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(20) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第23回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(21) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第24回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(22) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第25回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(23) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第26回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(24) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第27回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(25) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第28回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(26) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第29回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(27) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第30回	まとめ 学生による前期の研究のまとめの発表と、それに対する他の学生や教員によるディスカッションやアドバイス。 夏休み中のリサーチについての指導。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

各回で出てきた課題や論点に関連する参考文献や資料を適宜指示。

履修条件・留意事項等

自らの設定した課題について、研究の論理に基づいてアプローチし探求する好奇心とやる気が旺盛な学生を歓迎します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（釣 晴彦）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	釣 晴彦						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

テーマを推敲するために関連する書物を読み、出来るだけ演習形式で講義を進めていく。

ICT活用

様々なICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインにおいても課題などをフィードバックしていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 卒業テーマについて考え、議論する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第2回	卒論のテーマに関して再度考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第3回	卒論のテーマに関して再考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			

第4回	卒論のテーマに関して自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進める計画案を作成する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第5回	自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進める計画案について考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第6回	卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進める。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			

第7回	卒業研究プロジェクトの体験の可能性を考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第8回	卒業研究プロジェクトの内容について考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第9回	卒業研究プロジェクトの内容を検証して考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			

第10回	卒業研究プロジェクトの内容を検証して考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第11回	卒業研究プロジェクトの内容を検証して考察する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第12回	卒業研究プロジェクトの今までの課題を分析する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			

第13回	卒業研究プロジェクトの今までの課題を分析する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	卒業研究プロジェクトの過程の評価・検証する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第15回	卒業研究プロジェクトの過程の評価・検証する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			

第16回	卒業研究プロジェクトの過程の評価・検証する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第17回	卒業研究プロジェクトの過程の評価・検証する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第18回	卒業研究プロジェクトの過程の評価・検証する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			

第19回	卒業研究プロジェクトの過程の評価・検証する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第20回	卒業研究プロジェクトの過程の評価・検証する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第21回	卒業研究プロジェクトの構成の確認をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			

第22回	卒業研究プロジェクトの中間発表の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第23回	卒業研究プロジェクトの中間発表の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話して確認したことを整理する。(90分)
担当教員			
第24回	まとめとして、これまでの卒論の構成や内容を検証する。	発表することを整理する。(90分)	整理して提出する。(90分)
担当教員			

第25回	まとめとして、これまでの卒論の構成や内容を検証する。	発表することを整理する。(90分)	整理して提出する。(90分)
担当教員			
第26回	卒論の中間発表の準備をする。	発表することを整理する。(90分)	整理して提出する。(90分)
担当教員			
第27回	卒論の中間発表の準備をする。	発表することを整理する。(90分)	整理して提出する。(90分)
担当教員			

第28回	卒論研究プロジェクトⅠのまとめを発表する。	反省・課題を検証する。(90分)	整理して提出する。(90分)
担当教員			
第29回	卒論研究プロジェクトⅠのまとめを発表する。	反省・課題を検証する。(90分)	整理して提出する。(90分)
担当教員			
第30回	卒論研究プロジェクトⅠのまとめをする。	反省・課題を検証する。(90分)	整理して提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	総合的な評価 卒論の構成と内容 発表
その他	0	
教科書		
随時話し合いの中で提示する。		
参考文献		

随時話し合いの中で提示する。

履修条件・留意事項等

大学で学んできたことの知見を広げ総括する意欲を持って臨んでもらいたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（宮本 融）（非開講）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける（知識・技能）」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

テーマを推敲するために関連する書物を読み、演習形式で進めていく。

ICT活用

Google Classroomによる事務的連絡及び課題付与及び提出物の管理はもちろん、受講者の関心に基づき関連するWeb上の素材を適宜紹介していく。

実務経験のある教員の教育内容

旧通商産業省(現経済産業省)職員としての実務経験に加え、現実の政治過程における実践活動経験も踏まえて、理論と実践の両方の側面から指導する。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomによるコミュニケーションはもちろん、週2回以上の対面での議論を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	大塚久雄『社会科学の方法』岩波新書1966を読む(1) (新刷が発売されている。)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	経済学と政治学の方法論に関する講義を受けノートを整理し、学習を深める。(90分)
担当教員			
第2回	大塚久雄『社会科学の方法』を読む(2)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	マックス・ウェーバーについて、学習を深める。(90分)
担当教員			
第3回	大塚久雄『社会科学の方法』を読む(3)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	カール・マルクスの与えた影響について学習を深める。(90分)
担当教員			

第4回	大塚久雄『社会科学の方法』を読む。(4)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	大塚久雄が日本の社会科学に与えた影響についてまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	政治学における方法論1(1) 加藤淳子『政治学の方法』有斐閣アルマ 2014を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	政治学における方法論1(2) 加藤淳子『政治学の方法』有斐閣アルマ 2014を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	政治学における方法論1(3) 加藤淳子『政治学の方法』有斐閣アルマ 2014を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	政治学における方法論2(1) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	政治学における方法論2(2) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第10回	政治学における方法論2(3) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第11回	政治学における方法論2(4) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	政治学における方法論3(1) 松林哲也『政治学と因果推論 比較から見える政治と社会』岩波書店 2021を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第13回	政治学における方法論3(2) 松林哲也『政治学と因果推論 比較から見える政治と社会』岩波書店 2021を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	政治学における方法論3(3) 松林哲也『政治学と因果推論 比較から見える政治と社会』岩波書店 2021を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	実践分析論1(1) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第16回	実践分析論1(2) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第17回	実践分析論1(3) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第18回	実践分析論1(4) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第19回	実践分析編2(1) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。 (90分)
担当教員			
第20回	実践分析編2(2) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。 (90分)
担当教員			
第21回	実践分析編2(3) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。 (90分)
担当教員			

第22回	実践分析編2(4) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第23回	実践分析編3(1) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第24回	実践分析編3(2) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第25回	実践分析編3(3) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第26回	実践分析編3(4) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第27回	自己分析編	これまで学んだCase Studiesの中で感銘を受けた分析を一つあげて、その特徴を説明できるようにまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第28回	自分で分析してみる	テーマを一つ選び、これまで学んだ分析手法を使い、原因を分析してみる。(90分)	授業での議論を踏まえ中間課題としてまとめる。(90分)
担当教員			
第29回	ケースを書いてみる(上)	具体的事例を1つ選び、情報を収集して分析する。(90分)	期末課題としてケースをまとめる。(90分)
担当教員			
第30回	ケースを書いてみる(下)	前回の指摘を受け、追加で分析を進める。(90分)	期末課題としてケースをまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度 30% 中間課題 20% 期末課題 50%
その他	0	
教科書		
随時紹介する。		
参考文献		

Gary King, Robert Keohane and Sidney Verba, Designing Social Inquiry, new edition Princeton UP 2021
Steve van Evera, Guide to Methods for Students of Political Science, Cornell UP 1997

履修条件・留意事項等

与えられた課題文献は、何があっても読了し、きちんと論点をまとめて説明できるように毎回準備しておくこと。卒業研究は自ら主体的に研究報告を書くことを目的としているため、受け身の態度の者には単位を認めない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（巫 靚）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学习を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

情報活用能力や論理的・批判的な思考能力、分析能力、判断能力を育成するために、グループプレゼンテーションやディスカッションの形式で授業を進める。なお、履修者の学習状況に合わせて、各回の講義内容を調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業内容の調整を行う。プレゼンテーションの完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス②研究倫理について学習する。	卒業研究について自身の関心などを整理する(90分)。	授業の内容を整理し、復習する(90分)。
担当教員			
第2回	外山滋比古『思考の整理学』(1):卒論とは何か。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	外山滋比古『思考の整理学』(2):いかに卒論のテーマを見つけるか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	外山滋比古『思考の整理学』(3):いかに情報を“メタ”化するか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	外山滋比古『思考の整理学』(4):資料をいかに整理するか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	外山滋比古『思考の整理学』(5):垣根を越えて	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	外山滋比古『思考の整理学』(6):コンピュータと人間	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	カー『歴史とは何か』(1):歴史家と事実(はしがき、第1章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	カー『歴史とは何か』(2):社会と個人(第2章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第10回	カー『歴史とは何か』(3):歴史と科学と道徳(第3章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第11回	カー『歴史とは何か』(4):歴史における因果関係(第4章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第12回	カー『歴史とは何か』(5):進歩としての歴史(第5章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第13回	カー『歴史とは何か』(6): 広がる地平線(第6章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	若林正丈『台湾の歴史』(1): 東アジア史の「気圧の谷」と台湾	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	若林正丈『台湾の歴史』(2): 清末開港と日本の植民地統治	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第16回	若林正丈『台湾の歴史』(3):二・二八事件と中国内戦	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第17回	若林正丈『台湾の歴史』(4):「中華民国」の統治	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第18回	若林正丈『台湾の歴史』(5):「中華民国」の対外危機と台湾社会の自己主張	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第19回	若林正丈『台湾の歴史』(6): 李登輝の登場	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第20回	若林正丈『台湾の歴史』(7): 台湾ナショナリズムとエスノポリティクス	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第21回	若林正丈『台湾の歴史』(8): 中華人民共和国と台湾	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第22回	方法論① 総論	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第23回	実践論① 総論	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第24回	方法論② 文献史学	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第25回	実践論② 文献史学	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第26回	方法論③ 口述史	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第27回	実践論③ 口述史	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第28回	方法論④ 考古学・文献史学(前近代)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第29回	郷土史研究論	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第30回	結び:歴史は誰のためにあるのか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の参加度(予習、復習、プレゼンテーション、ディスカッション)100%
その他	0	
教科書		
『思考の整理学』外山滋比古、筑摩書房、1986年。 『歴史とは何か』E.H.カー著、清水幾太郎訳、岩波書店、1961年。 『台湾の歴史』若林正丈、講談社、2023年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクト I (Walzem Allen George)				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

Glass will have lecture, group work, discussion, and individual meetings with teacher. There will be a large writing component to the class.

ICT活用

We will use computer for media and reports, internet research, and so on.

実務経験のある教員の教育内容

The class will be all in English, with a focus on academic writing and research skills. Students will experience a senior educating these skills, so, in addition to gaining the skills themselves, students will see ways they can be taught.

課題に対するフィードバックの方法

There will be prompt written and oral feedback on all work. The teacher will write on student papers, but there will also be regular one-on-one conferences.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduction: Report vs. Research--the nature of academic writing Begin grammar	Try to think of area you would like to study 90 min	Do grammar units 5 and 6 90 minutes
担当教員			
第2回	1. Choosing topic area 2. Paragraph review 3. Grammar 2	Review lesson, think about topic area 90 min	Do Grammar homework (2 units) 90 minutes
担当教員			
第3回	1. Narrowing topic 2. Revising and editng 1 3. Grammar 3	Review 90 min	Do gramar homework (2 units) 90 min
担当教員			

第4回	1. Research question formation 2. Revising and editing 2 3. Grammar 4	Review 90 min	Grammar 5 homework 90 min
担当教員			
第5回	1. Finding "good" articles, books, web sources for research 2. Revising and editing 3 3. Grammar 5	review 90 min	Grammar 6 90 min
担当教員			
第6回	1. Essay Structures 2. Grammar 6	Review 90 min	Grammar 7 homework 90 minutes
担当教員			

第7回	1. Writing an introduction 2. Grammar 7 check	Homework: Essay prep 90 minutes	Write essay 90 minutes
担当教員			
第8回	Midterm writing and grammar exercise	Review 90 min	Grammar 8 90 minutes
担当教員			
第9回	1. Good and bad research sources 2. Pre-writing and structure, II 3, Grammar 8	Review 90 minutes	Grammar 9 90 minutes
担当教員			

第10回	1. Citing sources in text 2. Process essay 3. Grammar 9	Review 90 minutes	Grammar 10 90 minutes
担当教員			
第11回	Division and classification essay Grammar 10	Review 90 minutes	Write essay 90 minutes
担当教員			
第12回	Peer work: Essay checking	Review 90 min	Grammar 11 90 minutes
担当教員			

第13回	Cause and Effect structure Grammar 11	Review 90 minutes	Grammar 12 90 minutes
担当教員			
第14回	Comparison and contrast structure In class writing Grammar 13	Review 90 minutes	Write essay 90 minutes
担当教員			
第15回	Final project: Writing and grammar component	Review test ideas 90 minutes	Decide final research topic!! 90 minutes
担当教員			

第16回	Research ideas--read sample 1	Review 90 min	Grammar 14 90 minutes
担当教員			
第17回	Citation practice activity Grammar 14 check	Review 90 minutes	Grammar 15 90 minutes
担当教員			
第18回	Sample thesis analysis II	Determine tentative research questions 90 minutes	Write up research questions, possible sources 90 minutes
担当教員			

第19回	Students will present research ideas to class, class discussion of each	Review and focus 90 minutes	Grammar 16
担当教員			
第20回	Research form Part 1 Grammar 16 check	Review 90 minutes	Grammar 17 90 minutes
担当教員			
第21回	Research form Part II Grammar 17	Review	Work on project! Find sources
担当教員			

第22回	Research form Part III Student reports on sources	Review 90 minutes	Summarize data from indepenent research
担当教員			
第23回	Teacher meetings: 1-on-1 Part 1	Review and research 90 minutes	Grammar 18 90 Minutes
担当教員			
第24回	Grammar 18 Check	Review 90 minutes	Grammar 19
担当教員			

第25回	Grammar 19 check Writing practice	Study and write	Read sample essay
担当教員			
第26回	Essay discussion	Continue researching and preparatin	Grammar 20
担当教員			
第27回	Grammar check writing exercise	review 90 minutes	Grammar 21
担当教員			

第28回	Teacher meetings: 1-on-1 Part 2	Begin serious research	Grammar 22
担当教員			
第29回	Final be review	Prepare for final	Study
担当教員			
第30回	FInal Exam	Think about research topic	Decide research questions
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	Participation, regular homework, meeting writing deadlines
その他	40	Final paper
教科書		
Prints will be provided by teacher		
参考文献		

Provided by teacher. Students will also need to do own research and acquire relevant materials.

履修条件・留意事項等

備考欄

This will require large amounts of skills work, writing, grammar improvement, and logical thinking skills.

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ（青 晴海）				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

・授業の位置づけ(両学科共通)

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。(思考・判断・表現)
- ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国際経協力の現場での経験を有する職員の経験を活かし、現地とオンラインでつないで関係者からの情報収集などを行う。

課題に対するフィードバックの方法

-googleクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 1 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワークの計画を確認する。	論文作成に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アボ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第2回	研究計画の確認・修正 2 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワークの計画を確認する。	論文作成に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アボ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第3回	論文の執筆 1 「研究計画書」にもとづき、論文執筆の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(90分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(90分)
担当教員			

第4回	論文の執筆 2 「研究計画書」にもとづき、論文執筆の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(90分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(90分)
担当教員			
第5回	論文の執筆 3 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(90分)
担当教員			
第6回	論文の執筆 4 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(90分)
担当教員			

第7回	論文の執筆 5 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第8回	論文の執筆 6 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第9回	論文の執筆 7 執筆した「研究の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(90分)
担当教員			

第10回	論文の執筆 8 執筆した「研究の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(90分)
担当教員			
第11回	論文の執筆 9 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(90分)
担当教員			
第12回	論文の執筆 10 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(90分)
担当教員			

第13回	中間発表会 1 これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(90分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(90分)
担当教員			
第14回	中間発表会 1フォローアップ 前回のコメントをベースに修正する	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(90分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(90分)
担当教員			
第15回	中間発表会 2 これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(90分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(90分)
担当教員			

第16回	中間発表会 2フォローアップ 前回のコメントを踏まえ修正する。	中間発表会で発表する文章を 下書きする。(90分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を 読み、修正する。(90分)
担当教員			
第17回	卒業論文の構成 1 卒業論文の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける	論文構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(90分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(90分)
担当教員			
第18回	卒業論文の構成 2 卒業論文の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける	論文構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(90分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(90分)
担当教員			

第19回	卒業論文の「結果」1 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(90分)
担当教員			
第20回	卒業論文の「結果」2 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(90分)
担当教員			
第21回	卒業論文の「考察」1 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(90分)
担当教員			

第22回	卒業論文の「考察」2 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (90分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(90分)
担当教員			
第23回	卒業論文の「今後の課題」1 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第24回	卒業論文「今後の課題」2 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(90分)
担当教員			

第25回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 1 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(90分)
担当教員			
第26回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 2 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(90分)
担当教員			
第27回	卒業論文の完成 1 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			

第28回	卒業論文の完成 2 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			
第29回	卒業論文の完成 3 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			
第30回	卒業論文の発表 卒業論文について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(90分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	
教科書		
参考文献		

『多文化共生のためのテキストブック』松尾知明(明石書店)

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(石丸卓)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

・授業の位置づけ(両学科共通)

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。(思考・判断・表現)
- ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国際経協力の現場での経験を有する職員の経験を活かし、現地とオンラインでつないで関係者からの情報収集などを行う。

課題に対するフィードバックの方法

-google Classroomのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正1 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワークの計画を確認する。	論文作成に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アボ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第2回	研究計画の確認・修正2 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワークの計画を確認する。	論文作成に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アボ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第3回	論文の執筆(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(90分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(90分)
担当教員			

第4回	論文の執筆(2) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(90分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(90分)
担当教員			
第5回	論文の執筆(3) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(90分)
担当教員			
第6回	論文の執筆(4) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(90分)
担当教員			

第7回	論文の執筆(5) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第8回	論文の執筆(6) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第9回	論文の執筆(7) 執筆した「研究の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(90分)
担当教員			

第10回	論文の執筆(8) 執筆した「研究の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(90分)
担当教員			
第11回	論文の執筆(9) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(90分)
担当教員			
第12回	論文の執筆(10) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(90分)
担当教員			

第13回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(90分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(90分)
担当教員			
第14回	中間発表会(1)フォローアップ 前回のコメントをベースに修正する	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(90分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(90分)
担当教員			
第15回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(90分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(90分)
担当教員			

第16回	中間発表会(2)フォローアップ 前回のコメントを踏まえ修正する。	中間発表会で発表する文章を 下書きする。(90分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を 読み、修正する。(90分)
担当教員			
第17回	卒業論文の構成1 卒業論文の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成を考え、読者にわかり やすく伝わるようリハーサルして みる。(90分)	アドバイスを参考に、論文構成、 作品構成を再度修正する。(90 分)
担当教員			
第18回	卒業論文の構成2 卒業論文の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成を考え、読者にわかり やすく伝わるようリハーサルして みる。(90分)	アドバイスを参考に、論文構成、 作品構成を再度修正する。(90 分)
担当教員			

第19回	卒業論文の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(90分)
担当教員			
第20回	卒業論文の「結果」1 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(90分)
担当教員			
第21回	卒業論文の「考察」2 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(90分)
担当教員			

第22回	卒業論文の「考察」1 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (90分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(90分)
担当教員			
第23回	卒業論文の「今後の課題」1 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第24回	卒業論文「今後の課題」2 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(90分)
担当教員			

第25回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション1 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(90分)
担当教員			
第26回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション2 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(90分)
担当教員			
第27回	卒業論文の完成1 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			

第28回	卒業論文の完成2 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			
第29回	卒業論文の完成3 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			
第30回	卒業論文の発表 卒業論文について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(90分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	
教科書		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(渡部 淳)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

基本的授業は対面で行い、板書および諸メディア・パワーポイント・配布物を利用して講義を進める。また学生自身の活動が中心となる科目であるので、授業各回において学生が調査したこと・学んだこと・問題解決の方法についてそれぞれ発表を行い、それについて教員および他の受講者がコメント・学習・ディスカッション等を行うというスタイルで授業を進める。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれぞれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明と、各学生の夏季休暇中のリサーチの進捗状況についての報告。	シラバスをよく読み、疑問点を明らかにしておく。自分の研究の進捗状況について発表できるように整理して準備する。(90分)	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第2回	研究成果物の作成へのガイド 各自の研究の進捗状況や、これまでの研究成果をもとに、最終的な研究成果物の構成について発表し、アドバイスや指導を受ける。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第3回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(1) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第4回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(2) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第5回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(3) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第6回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(4) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第7回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(5) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第8回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(6) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第9回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(7) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第10回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(8) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第11回	研究プロジェクトの成果物の構成の中間検討 その1 学生による成果物の現時点での構成の発表。構成へのアドバイスと指導。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第12回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(9) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第13回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(10) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第14回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(11) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第15回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(12) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第16回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(13) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第17回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(14) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第18回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(15) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第19回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(16) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第20回	研究プロジェクトの成果物の構成の中間検討 その2 学生による成果物の現時点での構成の発表。構成へのアドバイスと指導。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第21回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(17) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第22回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(18) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第23回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(19) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第24回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(20) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第25回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(21) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第26回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(22) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第27回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(23) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第28回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(24) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第29回	研究成果物の提出 学生による成果物の提出と内容の説明。教員からの最終チェックとアドバイス。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第30回	研究成果の発表会 1年間、一緒に勉強してきた各研究プロジェクトの成果を仲間の前で発表し、成果を共有するとともに、学生や教員からのフィードバックを行う。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	
教科書		
教科書は特にない。		
参考文献		

各学生の研究分野、研究関心に関連する文献、資料などを各授業で適宜指示します。

履修条件・留意事項等

自分の研究成果を、公共の評価に耐えうるものとして、仕上げていく作業に関心と意欲をもつ学生を歓迎します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(釣 晴彦)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	釣 晴彦						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

テーマを推敲するために関連する書物を読み、出来るだけ演習形式で講義を進めていく。

ICT活用

様々なICTを効果的に活用できるように研究する。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

課題の形式に応じたフィードバックを講義中やweb上で行う。
指導案については個別指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 卒業研究プロジェクトⅠの卒業テーマについて推敲し、議論する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第2回	卒業研究プロジェクトⅠの卒業テーマについて推敲し、議論する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第3回	卒業研究プロジェクトⅠの卒業テーマについて推敲し、議論する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			

第4回	卒業テーマに関連した書物を読んで意見交換をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第5回	卒業テーマに関連した書物を読んで意見交換をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第6回	卒業研究プロジェクトⅡの方向性を確認する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			

第7回	卒業研究プロジェクトⅡの方向性を確認する。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第8回	卒業研究プロジェクトⅡの発展的な考察をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第9回	卒業研究プロジェクトⅡの発展的な考察をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			

第10回	卒業研究プロジェクトⅡの発展的な考察をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第11回	卒業研究プロジェクトⅡの内容と分析を図る。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第12回	卒業研究プロジェクトⅡの内容と分析を図る。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			

第13回	卒業研究プロジェクトⅡの修正と評価を図る。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	卒業研究プロジェクトⅡの修正と評価を図る。	グループでのディスカッションをする。(90分)	話し合ったことを整理する。(90分)
担当教員			
第15回	卒論の中間発表とその評価をする。	発表する。(90分)	卒論を整理して提出する。(90分)
担当教員			

第16回	卒論の中間発表とその評価をする。	発表する。(90分)	卒論を整理して提出する。(90分)
担当教員			
第17回	卒論の中間発表とその評価をする。	発表する。(90分)	卒論を整理して提出する。(90分)
担当教員			
第18回	卒論研究のプロジェクトⅡの最終まとめの計画案を作成する。	評価をグループでのディスカッションで行う。(90分)	卒論を整理して提出する。(90分)
担当教員			

第19回	卒論研究のプロジェクトⅡの最終まとめと公表する方法を検討する。	評価をグループでのディスカッションで行う。(90分)	卒論を整理して提出する。(90分)
担当教員			
第20回	卒論研究プロジェクトⅡの経過報告の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
第21回	卒論研究プロジェクトⅡの経過報告の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			

第22回	卒論研究プロジェクトⅡの経過報告の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
第23回	卒論研究プロジェクトⅡの発表の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
第24回	卒論研究プロジェクトⅡの発表の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			

第25回	卒論研究プロジェクトⅡの発表の準備をする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
第26回	卒論研究プロジェクトⅡの発表をする。その評価も行う。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
第27回	卒論研究プロジェクトⅡの発表をする。その評価も行う。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			

第28回	卒論研究プロジェクトⅡの発表をする。その評価も行う。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
第29回	卒論研究プロジェクトⅡのまとめをする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
第30回	卒論研究プロジェクトⅡの総まとめをする。	グループでのディスカッションをする。(90分)	整理したものを提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	総合的な評価 卒論の構成内容 発表等
その他	0	
教科書		
随時講義の中で紹介する。		
参考文献		

随時講義の中で紹介する。

履修条件・留意事項等

大学で学んできたことの知見を広げ総括する意欲を持って臨んでもらいたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(宮本 融)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

この科目は、前期科目「卒業論文プロジェクトⅠ」を承ける科目として、本学科ディプロマ・ポリシー「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を見につけている」ことを、自ら選択した研究課題において、系統立てて習得した専門分野における基本的な知識を基に「研究成果としてまとめる方法論」を通じて分析し、課題解決への提言をまとめることで実証するカリキュラムの集大成の科目科目である。その際、生涯にわたり自ら主体的に学び続ける価値観を身につけていることを十分に証明することが求められる。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、受講者が収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見出された課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等を提案し参加者とも議論しながら進める。必要であれば、外部の専門家を招いての学習や、学外での学び・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に受講者自身が設定したテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成の見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめかたなど技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループでの調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

この科目は、卒業論文をまとめるためのものであるため、そのテーマは受講者それぞれによって異なる。そのため、それぞれのテーマを具体的に絞っていくために関連する書物を読み、演習形式で進め、論文執筆を進めながら議論を深める。

ICT活用

Google Classroomでのフィードバックとともに、テーマの理解に必要なWeb上の資料を適宜紹介する。

実務経験のある教員の教育内容

旧通商産業省(現経済産業省)において、行政実務を10年経験し、米国大学院において政治学の研究教育を5年経験した上で、選挙を中心とする現実政治の実践にも携わった経験を基に、理論と実践の両面で指導する。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いるだけでなく、週2回、研究室に集合して頻繁に対話を行う形式で進める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究課題の選定 ① 卒業研究プロジェクトⅠ で学んだことを基礎に、自らの研究課題について議論しながら問題を設定する。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			
第2回	研究課題の選定 ② 卒業研究プロジェクトⅠ で学んだことを基礎に、自らの研究課題について議論しながら問題を設定する。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			
第3回	研究のアウトラインの提示 ① 自らの研究の目的を簡単にまとめる。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			

第4回	研究のアウトラインの提示 ② 自らの研究の目的を簡単にまとめる。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			
第5回	基本文献の収集 ① 研究課題の基本文献を指定する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			
第6回	基本文献の収集 ② 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			

第7回	基本文献の収集 ③ 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			
第8回	基本文献の収集 ④ 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			
第9回	基本文献の収集 ⑤ 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			

第10回	Reading Listの提示 ① 後期、卒業論文作成のために必要な情報を網羅することができそうなReading Listを自ら作成する。	収集した論文等を読み、教員との議論を踏まえReading Listを作成する。(90分)	
担当教員			
第11回	書評論文を書いてみる ①	収集した論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第12回	書評論文を書いてみる ②	収集した論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第13回	書評論文を書いてみる ③	①で取り上げた論文とは異なる論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第14回	書評論文を書いてみる ④	①で取り上げた論文とは異なる論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第15回	Review Articleを書いてみる ①ー1 研究のテーマとなる論点を設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。	収集した論文のうち、1つのテーマを設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第16回	Review Articleを書いてみる ①ー2	整理された論点を見ながら、論文同士の意見の対立を鮮明にする形で書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第17回	Review Articleを書いてみる ②ー1	①とは異なる論点についてテーマを設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第18回	Review Articleを書いてみる ②ー2	整理された論点を見ながら、論文同士の意見の対立を鮮明にする形で書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第19回	Review Articleを書いてみる ③ー1	①および②とは異なる論点についてテーマを設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第20回	Review Articleを書いてみる ③ー2	整理された論点を見ながら、論文同士の意見の対立を鮮明にする形で書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第21回	研究のアウトラインの提示 ①	これまでの研究をまとめ、論文のアウトラインをまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			

第22回	研究のアウトラインの提示 ②	①における指摘を踏まえ、修正したアウトラインをまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第23回	Reading Listの提示 ②	これまでの研究の深まりをもとにReading Listを修正する。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第24回	補充文献やデータの収集 ①	補充すべき論点をまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			

第25回	補充文献やデータの収集 ②	補充すべき論点をまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第26回	補充文献やデータの収集 ③	補充すべき論点をまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第27回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論 ①	論文を執筆する。(90分)	教員の指摘を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第28回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論 ②	論文を執筆する。(90分)	教員の指摘を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第29回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論 ③	論文を執筆する。(90分)	教員の指摘を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第30回	卒業論文の提出	卒業論文を執筆する。(90分)	教員の指摘事項を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加等の評価 20% 卒業研究論文 80%
その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		

受講生の研究課題に合わせて適宜提示する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(巫 靚)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を育成するために、グループプレゼンテーションやディスカッションの形式で授業を進める。なお、受講者の学習状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。プレゼンテーションの完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス	自身の研究計画書を作成する(90分)。	授業のガイダンスの内容を理解し、研究計画書を修正する(90分)。
担当教員			
第2回	研究書を読む①(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』はじめに)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	研究書を読む②(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第1章 戸籍とは何か)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	研究書を読む③(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第2章 国籍という「国民」の資格)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	研究書を読む④(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第3章 近代日本と戸籍)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	研究書を読む⑤(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第4章 植民地と「日本人」)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	研究書を読む⑥(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第5章 戦後「日本人の再編」)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	研究書を読む⑦(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第6章 戸籍と現実のねじれ)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	研究書を読む⑧(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』おわりに)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			

第10回	書評を書く。	予習としてまず自分なりに書評を書いてみる(90分)。	学習した内容を復習し、書評を修正し、提出する(90分)。
担当教員			
第11回	卒業研究制作の基本的事項。	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	卒業研究を基にした紀要論文①	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第13回	卒業研究を基にした紀要論文②	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	卒業研究を基にした紀要論文③	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	卒業研究に向けての検討	自分の研究関心について整理する(90分)。	検討した内容をまとめる(90分)。
担当教員			

第16回	(卒業研究)に関する説明、卒業研究テーマの相談	自分の研究テーマを整理する(90分)。	検討した内容をまとめる(90分)。
担当教員			
第17回	研究論文の探し方、読み方、論文の書き方に関する説明	自分の関心のある研究テーマについて資料を探してみる(90分)。	学習した内容を復習し、それに基づき、自分の研究テーマに関連する資料を収集する(90分)。
担当教員			
第18回	卒業研究構想の報告①(卒業研究テーマ、先行研究、資料の見通し)。	研究テーマ、先行研究、資料について収集し、準備する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			

第19回	卒業研究構想の報告②(卒論テーマ、先行研究、資料の見通し)。	前回に続き、研究テーマ、先行研究、資料について収集し、準備する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第20回	先行研究整理の報告①(先行研究の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	先行研究を収集し、目録、概要をまとめる(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第21回	先行研究整理の報告②(先行研究の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	前回に続き、先行研究を収集し、目録、概要をまとめる(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			

第22回	収集した資料の報告①(資料の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	資料を収集し、目録、概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第23回	収集した資料の報告②(資料の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	前回に続き、資料を収集し、目録、概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第24回	執筆構想の報告①(章立て、各章の概要)。	卒業研究の章立て、各章の概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			

第25回	執筆構想の報告②(章立て、各章の概要)。	前回に続き、卒業研究の章立て、各章の概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第26回	進捗状況報告①	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			
第27回	進捗状況報告②	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			

第28回	進捗状況報告③	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			
第29回	原稿修正(1)	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			
第30回	原稿修正(2)	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正し、完成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の参加度(予習、復習、プレゼンテーション、ディスカッション、卒業研究の執筆)100%
その他	0	
教科書		
『戸籍と国籍の近現代史:民族・血統・日本人』遠藤正敬、明石書店、2013年。 その他、授業中に適宜配布する。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ (Walzem Allen George)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

Glass will have lecture, group work, discussion, and individual meetings with teacher. There will be a large writing component to the class.

ICT活用

We will use computer for media and reports, internet research, and so on.

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

There will be prompt written and oral feedback on all work. The teacher will write on student papers, but there will also be regular one-on-one conferences.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Intro Lesson 1: the nature of liberal arts research	Review 90 minutes	Grammar 1 90 Minutes
担当教員			
第2回	Grammar 1 check Article 1: Research in the media	Review 90 Minutes	Grammar 2 90 Minutes
担当教員			
第3回	Grammar 2 check Article continued	Review 90 Minutes	Grammar 3 90 Minutes
担当教員			

第4回	Grammar 3 check Practice analysis: TV 1	Review 90 Minutes	Grammar 4 90 Minutes
担当教員			
第5回	Grammar 4 check TV 1 analysis continued	Review 90 Minutes	Grammar 5 90 Minutes
担当教員			
第6回	The shape of YOUR reseach Students begin outlining final thesis	Consider outline 90 minutes	Continue working on outline and form 90 Minutes
担当教員			

第7回	One-on-one meetings with Allen 1	Review, prepare 90 Minutes	Continue reading and writing 90 minutes
担当教員			
第8回	One-on-one meetings with Allen 2	Review, prepare 90 Minutes	Continue reading and writing 90 minutes
担当教員			
第9回	Focus on Intro writing Lit review, finding sources, analyzing sources	Find sources for your topic 90 Minutes	Read and summarize 90 Minutes
担当教員			

第10回	Writing the introduction part II Students work on intros	Review 90 Minutes	Write your introductions (First draft) 90 Minutes
担当教員			
第11回	The literature review--writing about what has already been covered in your area Writing summaries: from "Ready to Write More" p141-144	Review 90 Minutes	Collect sources-- 3-7, write summaries 90 Minutes
担当教員			
第12回	Summaries continued: Pages 144-147 of RtWM	Review 90 minutes	Continue reading in your field 90 Minutes
担当教員			

第13回	p 148-152 of RtWM-- Summaries continued	Review 90 minutes	Continue studying sources--as much as possible! 90 minutes MINIMUM
担当教員			
第14回	Expressing your Opinions part 1	Review 90 Minutes	Read in your research field 90 Minutes
担当教員			
第15回	Expressing your opinions Part 2	Review 90 Minutes	Continue studying in your field, prepare for test 90 Minutes
担当教員			

第16回	Test	Review test ideas 90 Minutes	Finish paper introduction, final draft, for Allen 90 Minutes or MORE
担当教員			
第17回	One-on-one with teacher about your writing progress	Continue working and researching 90 Minutes	Write "body" of your paper, as much as possible 90 Minutes
担当教員			
第18回	One-on-one with teacher	Read in field 90 Minutes	Continue writing on your topic 90 Minutes
担当教員			

第19回	Problem/Solution lecture on perceived problems and difficulties, grammar issues, etc. On writing conclusions	Review 90 Minutes	Continue writing 90 Minutes
担当教員			
第20回	one-on-one with teacher	Read in your field 90 Minutes	Write! 90 Minutes
担当教員			
第21回	One-on-one with teacher	Read in your Field 90 Minutes	Write 90 Minutes
担当教員			

第22回	Lecture: Citations in your text, and Bibliography	Read in your field 90 Minutes	Write 90 Minutes
担当教員			
第23回	Citation and Bibliography exercise and practice Paper Form/format	Read in your field 90 Minutes	Continue writing 90 Minutes
担当教員			
第24回	One-on-one --Progress report	Research in your field 90 Minutes	Write ! Finish first draft of paper 90 Minutes
担当教員			

第25回	One on one ---wrapping up your papers!!	review/research 90 Minutes	Editing your paper--have final drafts ready 90 Minutes
担当教員			
第26回	Peer editing ONE.	continue revising and preparing 90 Minutes	Fix errors in your paper, have revised copy ready 90 Minutes
担当教員			
第27回	Peer editing 2	Continue working and revising 90 Minutes	Absolutely finish paper-- Send to instructor as Word file. 90 Minutes
担当教員			

第28回	One on one with teacher	Review notes! 90 Minutes	Finish writing 90 Minutes
担当教員			
第29回	One-on-one with teacher	Final revisions 90 Minutes	Write and print out final 90 Minutes
担当教員			
第30回	Turn in final paper, final discussion	Review year's learning! 90 Minutes	Make sure I have everything 90 Minutes
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	Attendance, preparation, meeting deadlines, having materials for meetings with teacher
その他	40	Final Paper
教科書		
Provided by teacher		
参考文献		

Provided by teacher, certain web-sites (for format and writing styles, for example)

履修条件・留意事項等

It is imperative that students work steadily throughout the semester, and make regular progress on their research papers. Do not be lazy, do not procrastinate!

備考欄

Making deadlines and attending one-on-one meetings are crucial for success and passing.